

# 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修コース一覧

コース 運営診療科	コースナンバー：コース名	受入 人数	コース 責任者名	コース 担当者名	基幹となる資格名／学会等名	スペシャリティ資格名／学会等名
第一内科	1：呼吸器・アレルギー専門医コース	10	森 昌朋	石塚 全	認定内科医／ 日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
	2：消化器病専門医・消化器内視鏡専門医コース	10		草野 元康		呼吸器専門医／日本呼吸器学会
	3：肝臓専門医コース	10		柿崎 暁		アレルギー専門医／日本アレルギー学会
	4：内分泌・糖尿病専門医・臨床研究者コース	5		山田 正信		感染症専門医／日本感染症学会
第二内科	5：冠動脈疾患コース	7	倉林 正彦	新井 昌史	がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会	総合内科専門医／日本内科学会
	6：不整脈コース	6		金古 善明	消化器病専門医／日本消化器病学会	
	7：心不全コース	5		新井 昌史	肝臓専門医／日本肝臓学会	
	8：血管内科コース	2		新井 昌史	消化器病専門医／日本消化器病学会	
	9：呼吸器内科コース	10		前野 敏孝	総合内科専門医／日本内科学会	
	10：腎臓リウマチ内科・臨床コース	4		前嶋 明人	内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会	
	11：腎臓リウマチ内科・大学院コース	2		前嶋 明人	糖尿病専門医／日本糖尿病学会	
	12：血液・腫瘍内科・臨床コース	4		半田 寛	内分秘代謝科専門医／日本内分泌学会	
第三内科			野島 美久	新井 昌史	循環器専門医／日本循環器学会	総合内科専門医／日本内科学会
				新井 昌史	心臓専門医／日本心臓病学会	総合内科専門医／日本内科学会
				前野 敏孝	循環器専門医／日本循環器学会	心臓専門医／日本心臓病学会
				前嶋 明人	総合内科専門医／日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
				前嶋 明人	循環器専門医／日本循環器学会	総合内科専門医／日本内科学会
				半田 寛	総合内科専門医／日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
					循環器専門医／日本循環器学会	総合内科専門医／日本内科学会
					総合内科専門医／日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
					循環器専門医／日本循環器学会	総合内科専門医／日本内科学会
					総合内科専門医／日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
					循環器専門医／日本循環器学会	総合内科専門医／日本内科学会
					総合内科専門医／日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会

# 群馬大学医学部附属病院

# 後期専門研修コース一覧

コース	コースナンバー：コース名	受入人数	コース責任者名	コース担当者名	基幹となる資格名／学会等名	スペシャリティ資格名／学会等名
運営診療科						
第三内科	13：血液・腫瘍内科・大学院コース	2	野島 美久	半田 寛	認定内科医／ 日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会 血液専門医／日本血液学会 がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会 輸血細胞治療学会認定医／日本輸血・細胞治療学会
神経内科	14：神経内科専門医育成コース	10	岡本 幸市	藤田 行雄	認定内科医／ 日本内科学会	神経内科専門医／日本神経学会 総合内科専門医／日本内科学会
第一外科	15：外科コース	10	桑野 博行	浅尾 高行	外科専門医／ 日本外科学会	外科専門医／ 日本外科学会
				茂木 晃		
				山口 悟		
				高橋 薫		
				鈴木 秀樹		
桑野 博行						
持木 彰人						
宮崎 達也						
第二外科	16：循環器外科コース 17：呼吸器外科コース	3 3	竹吉 泉	高橋 徹	外科専門医／ 日本外科学会	心臓血管外科専門医／心臓血管外科専門医認定機構 呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会 消化器外科専門医／日本消化器外科学会 消化器病専門医／日本消化器病学会 消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会
				清水 公裕		
				須納 瀬 豊		
泌尿器科	19：乳腺・内分泌外科コース 20：泌尿器科専門医コース	6 5	伊藤 和浩	堀口 淳	泌尿器科専門医／ 日本泌尿器科学会	泌尿器科専門医／日本泌尿器科学会 透析専門医／日本透析医学学会 がん治療認定医／有限責任中間法人 日本がん治療認定医機構 腎移植認定医／日本臨床腎移植学会 泌尿器腫瘍技術認定医／(社)日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会
				伊藤 一人		
				須納 豊		
歯科口腔外科	22：(社)日本口腔外科学会認定専門医取得コース 25：整形外科専門医・スボーツ医コース 26：整形外科専門医・脊椎脊髄病医コース 27：整形外科専門医・リウマチ医コース 28：整形外科専門医・手の外科専門医コース	2 14	横尾 聡	根岸 明秀	日本口腔外科学会認定専門医／ 日本口腔外科学会	日本口腔外科学会認定専門医／日本口腔外科学会
				小林 勉		
				飯塚 伯		
				小林 勉		
皮膚科	29：皮膚科サブスペシャリティコース 30：皮膚科・皮膚外科専門医コース	5 2	石川 治	永井 弥生	皮膚科専門医／ 日本皮膚科学会	皮膚科専門医／日本皮膚科学会 美容皮膚科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会
				岡田 悦子		

# 群馬大学医学部附属病院

# 後期専門研修コース一覧

コース 運営診療科	コースナンバー：コース名	受入 人数	コース 責任者名	コース 担当者名	基幹となる資格名／学会等名	スベンチャリテイ資格名／学会等名
眼 科	31：眼科専門医育成コース	8	岸 章治	大谷 倫裕	眼科専門医／ 日本眼科学会	眼科光線力学的療法認定医／眼科PDT研究会
	33：感覚器工キスパートコース	5		高橋 克昌 長井 今日子 宮下 智史 岡宮 考啓 村田 幸弘 美 豊田	耳鼻咽喉科専門医／ 日本耳鼻咽喉科学会	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会 聴音性難聴担当医／日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会 日本めまい平衡医学会 日本耳科学会
耳鼻咽喉科	34：頭頸部がん専門医コース	3	高橋 克昌	高安 幸弘 豊田 美		
	35：気管食道専門医コース	2		飯田 英基 紫野 正人		
耳鼻咽喉科	36：免疫アレルギーコース	2		鎌田 英男 島田 哲明		
	67：一般精神医学コース	10		亀山 正樹		
精神科神経科	68：大学院 研究コース	5		福田 正人	精神保健指定医／ 厚生労働省	精神科指導医／日本精神神経学会
	69：精神科サブスペシャリテイ取得コース	5	三國 雅彦	成田 秀幸 間島 竹彦 福田 正人 米村 公江 成田 耕介	精神科専門医／ 日本精神神経学会	認定医／日本児童青年期精神医学会 専門医／日本総合病院精神医学会 精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法)法令による資格 専門医／日本老年精神医学会 専門医／日本臨床精神神経薬理学会
麻酔科蘇生科	43：麻酔・集中治療・ペインクリニック コース	10	齋藤 繁	齋藤 繁 麻生 知寿	麻酔科認定医／ 日本麻酔科学会	麻酔科専門医／日本麻酔科学会 集中治療専門医／日本集中治療医学会 ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会
	44：脳卒中コース	2		吉田 貴明		脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会 日本脳卒中学会専門医／日本脳卒中学会
脳神経外科	45：脳腫瘍コース	2		菅原 健一		
	46：機能的脳外科コース	1	好本 裕平	平戸 政史	脳神経外科専門医／ 日本脳神経外科学会	がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫瘍学会 機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外科学会
	47：神経外傷コース	1		佐藤 晃之		救急科専門医／日本救急医学会、日本神経外傷学会
	48：脊髄外科コース	1		本多 文昭		脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会
小児科	49：小児脳外科コース	1		登坂 雅彦		神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小児神経外科学会
	50：サブスペシャリテイ取得コース	10	荒川 浩一	荒川 浩一 金澤 崇 渡部 登志雄 大木 廉史 小林 徹 澤浦 法子	小児科専門医／ 日本小児科学会	アレルギ一専門医／日本アレルギ一学会 小児血液・がん学会専門医／日本小児血液・がん学会 腎臓専門医／日本腎臓病学会 新生児専門医／日本産期・新生児医学会 小児循環器専門医／日本小児循環器学会 小児神経科専門医／日本小児神経学会

# 群馬大学医学部附属病院

# 後期専門研修コース一覧

コース 運営診療科	コースナンバー：コース名	受入 人数	コース 責任者名	コース 担当者名	基幹となる資格名／学会等名	スペシャリティ資格名／学会等名
小児科	50：サブスペシャリティ取得コース		荒川 浩一	柴 石毛	小児科専門医／ 日本小児科学会	消化器専門医／日本消化器病学会 内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会 臨床遺伝専門医／日本人遺伝学会
				恩郎 山田		
				重人 服部		
産科婦人科	51：周産期専門医コース	4	敬 峯岸	祐介 勝俣	日本産科婦人科学会専門医／ 日本産科婦人科学会	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会 日本生殖医学学会生殖医療専門医／日本生殖医学学会 日本内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会 内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会 婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会
				五十嵐茂雄		
				和人 中村		
放射線科	54：放射線治療医コース	8	中野 隆史	真永 野田	放射線科認定医／ 日本医学放射線科学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会
				誠也 天沼		
				義人 村上		
核医学・ 画像診療部	55：画像診断医コース	4	義人 村上	正巳 村上	放射線科認定医／ 日本医学放射線科学会	放射線診断専門医／日本核医学会 核医学専門医／日本核医学会 超音波専門医／日本超音波医学会 IVR専門医／日本IVR学会 IGD(インジェクションドクトク)／ICD制度協議会 感染症専門医／日本感染症学会 臨床検査専門医／日本臨床検査医学会 人間ドック認定医／日本人間ドック学会 総合内科専門医／日本内科学会 日本甲状腺学会専門医／日本甲状腺学会 糖尿病専門医／日本糖尿病学会 内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会 麻酔科専門医／日本麻酔科学会 救急科専門医／日本救急医学会
				貴之 荻原		
				文生 國元		
集中治療部	59：集中治療専門医コース	5	繁 齋藤	文生 國元	集中治療専門医／ 日本集中治療医学会	放射線治療専門医／日本放射線学会
				純子 平戸		
				卓郎 中村		
病理部	61：病理専門医コース	2	徹也 小山	純子 平戸	病理専門医／ 日本病理学会	外傷専門医／日本外傷学会
				清宏 大嶋		
				連一 田村		
救命総合医療 センター	62：総合診療医コース、総合診療医・臨床 研究者コース	2	連一 田村	良雄 大山	認定内科医／ 日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
				良雄 大山		
				哲也 中村		
臨床試験部	65：大学院学位と専門医資格を取得する臨 床研究者養成のためのコース	4	幸市 岡本	哲也 中村	各専門医／ 各学会	日本臨床薬理学会認定医／日本臨床薬理学会
				直樹 和田		
				連一 田村		
リハビリテー ション部	66：リハビリテーション科専門医コース	3	賢二 白倉	直樹 和田	リハビリテーション科専門医／ 日本リハビリテーション医学会	総合内科専門医／日本内科学会
				良雄 大山		
				憲史 塚本		
臨床研修 センター	70：地域連携型“総合医育成”コース	4	連一 田村	良雄 大山	認定内科医／ 日本内科学会	総合内科専門医／日本内科学会
				憲史 塚本		
				貴之 齋藤		
腫瘍センタ ー	71：がん薬物療法専門医コース	3	憲史 塚本	貴之 齋藤	認定内科医／ 日本内科学会	がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会 総合内科専門医／日本内科学会
				憲史 塚本		
				貴之 齋藤		

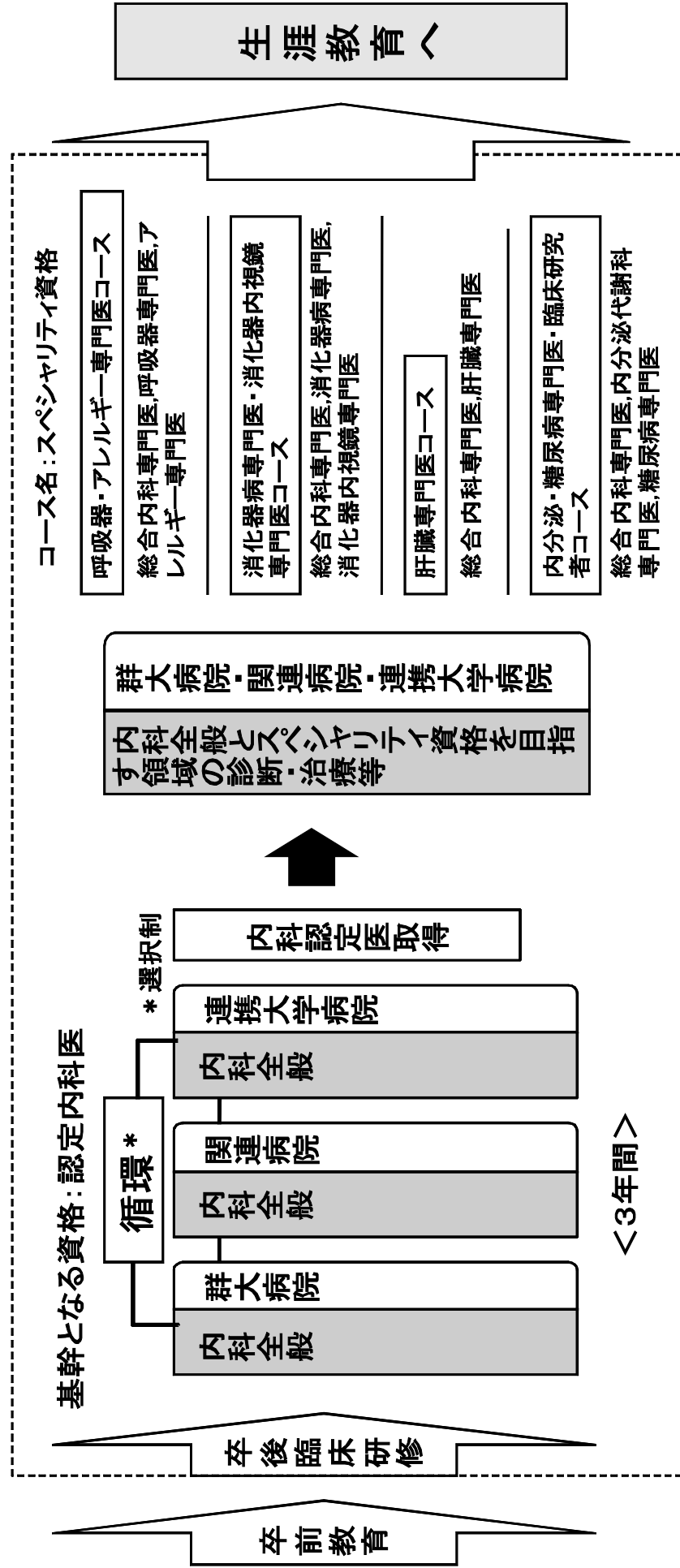
※平成24年度開設コース

※

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：第一内科

- 1: 呼吸器・アレルギー専門医コース 募集(人数10名)
- 2: 消化器病専門医・消化器内視鏡専門医コース 募集(人数10名)
- 3: 肝臓専門医コース 募集(人数10名)
- 4: 内分泌・糖尿病専門医・臨床研究者コース 募集(人数5名)



第一内科 HP : <http://ichinai.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

1 : 呼吸器・アレルギー専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、  
感染症学会専門医、呼吸器内視鏡学会専門医、  
がん薬物療法専門医

### (1) コースの全体像

呼吸器・アレルギー学の進歩に即して、呼吸器・アレルギー疾患を専攻する優れた呼吸器内科医師を養成し、日本呼吸器学会専門医を取得するとともに、内科を基盤としたアレルギー専門医を養成する。群馬大学医学部附属病院及びその関連施設（日本呼吸器学会および日本アレルギー学会の認定研修施設）において最初の1年は内科臨床医としての技術を向上させ日本内科学会認定内科医の取得を目指すとともに、日本呼吸器学会専門医研修カリキュラムに従って、日本内科学会認定医取得後3年間の呼吸器学の臨床研修を行い、日本呼吸器学会専門医取得を行う。また、アレルギーに関する6年間（内科研修を含む）の臨床研修を行い、日本アレルギー学会専門医の取得を目標とする。さらに、呼吸器一般、アレルギー学の研修に加えて、呼吸器感染症学、呼吸器内視鏡学、肺癌の集学的治療を含んだ呼吸器病学全般の臨床研修を行い、日本感染症学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医などの取得も可能な研修を行う。大学院への進学や、臨床研究論文の作成を行うことができる。また、連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	呼吸器・アレルギー内科	呼吸器、アレルギー、肺がん	8名	呼吸器、アレルギー学の研修	10名 (全施設合計で)	器、アレルギー疾患を全般的に研修する。 後期専門研修の5年間を左記の6施設のローテートで行い、疾患に偏りなく、呼吸
前橋赤十字病院	呼吸器科	呼吸器、アレルギー、肺がん	3名	呼吸器、アレルギー学の研修		
伊勢崎市民病院	内科	呼吸器、アレルギー、肺がん	3名	呼吸器、アレルギー学の研修		
利根中央病院	内科	呼吸器、アレルギー、肺がん	3名	呼吸器、アレルギー学の研修		

公立富岡総合病院	内科	呼吸器、アレルギー、肺がん	2名	呼吸器、アレルギーの研修		
西群馬病院	呼吸器内科	呼吸器、アレルギー、肺がん	4名	呼吸器、アレルギーの研修		
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

現在までに52名が、日本呼吸器学会専門医を取得した。また、37名が、日本アレルギー学会専門医を取得した。

### (4) コースの指導状況

本病院及びその関連施設(日本呼吸器学会もしくは日本アレルギー学会の認定研修施設)で23名の日本呼吸器学会専門医(内11名は日本呼吸器学会指導医も兼任)が、呼吸器疾患の研修指導にあっている。また、12名の日本アレルギー学会専門医(うち10名は日本アレルギー学会指導医も兼任)がアレルギー性疾患(内科領域)の研修指導にあっている。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>大学医学部を卒業し、下記研修歴を修了した者および試験日までに修了見込みの者</p> <p>A. 2003年(平成15年)以前の医師国家試験合格者 次記の1~4のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修3年以上。</li> <li>2. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修2年以上 + 教育関連病院での研修1年以上 = 計3年以上。</li> <li>3. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修1年以上 + 教育関連病院での研修3年以上 = 計4年以上。</li> <li>4. 教育関連病院での研修5年以上。</li> </ol> <p>B. 2004年(平成16年)以後の医師国家試験合格者 次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修2年 + 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修1年以上 = 計3年以上(その内18か月間以上、内科研修していること)</li> </ol>

	<p>2. 臨床研修 2 年 + 教育関連病院での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上 (その内 18 か月間以上、内科研修していること)</p> <p>日本内科学会ホームページ (<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、認定内科医資格取得後、次の1～5のいずれかに該当する内科研修歴を有する者および下記研修歴を試験日までに修了見込みの者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修 3 年以上</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修 2 年以上 + 教育関連病院での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修 1 年以上 + 教育関連病院での内科研修 2 年以上 = 計 3 年以上</li> <li>4. 教育関連病院での内科研修 5 年以上</li> <li>5. 教育病院での内科研修 1 年以上 + 無認定病院での内科研修 2 年以上（要派遣証明書） = 計 3 年以上</li> </ol> <p>・教育病院（大学病院含む）から内科研修の一環として本会が認定していない病院へ派遣された場合は、教育病院からの“派遣証明書”を以って無認定病院での内科研修および症例の提出を認める。</p> <p>日本内科学会ホームページ (<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>	

学会等名	日本呼吸器学会
資格名	呼吸器専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本内科学会認定内科医資格を取得した年度も含めて3年以上継続して本学会の会員であること。</li> <li>(2) 日本呼吸器学会の認定施設において、日本呼吸器学会所定の研修カリキュラムに従い日本内科学会認定内科医資格を取得し</li> </ol>



	<p>た年度も含めて3年以上、呼吸器病学の臨床研修を行い、これを修了した者。</p> <p>(3) 非喫煙者であること。</p> <p>日本呼吸器学会ホームページ (<a href="http://www.jrs.or.jp/home/modules/institution/index.php?content_id=1">http://www.jrs.or.jp/home/modules/institution/index.php?content_id=1</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本呼吸器学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本呼吸器学会関東地方会においてレジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>	

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	アレルギー専門医
資格要件	<p>(1) 日本国の医師免許を持つ医師であること。</p> <p>(2) 5年以上継続して日本アレルギー学会の会員であること。</p> <p>(3) 内科学会の認定医（専門医）の認定を受けていること。</p> <p>(4) 通算6年以上の臨床研修歴があり、通算3年以上は日本アレルギー学会認定施設において、日本アレルギー学会指導医または専門医のもとで、所定のカリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を必須とする。</p> <p>日本アレルギー学会ホームページ (<a href="http://www.jsaweb.jp/modules/specialist/index.php?content_id=2">http://www.jsaweb.jp/modules/specialist/index.php?content_id=2</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本アレルギー学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本アレルギー協会北関東支部の主催する患者相談会に定期的に参加し、アレルギー疾患に関する啓蒙活動を積極的に行っている。</p>	

学会等名	日本感染症学会
資格名	感染症専門医
資格要件	<p>(1) 基本領域学会専門医（認定医）に認定されている者。</p> <p>(2) 感染症の臨床修練を積んでいること。</p> <p>(3) 基本領域学会の研修年限を含めて感染症学の研修を6年以上行っている者。</p> <p>(4) 上記6年の内、3年間は本学会員として本会が指定した研修施設で、別に定めるカリキュラムに基づいて研修を行っていることを原則とする。</p> <p>(5) 感染症の臨床に関して、筆頭者としての論文発表1篇、学会発表2篇、計3篇あること。</p> <p>(6) 日本感染症学会会員歴5年以上で、この間、会費を完納している者。</p> <p>(7) 審議会が施行する専門医のための認定試験に合格すること。</p>

	日本感染症学会ホームページ ( <a href="http://www.kansensho.or.jp/senmoni/kisoku.html">http://www.kansensho.or.jp/senmoni/kisoku.html</a> ) を参照のこと。
学会の連携等の概要 日本感染症学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。	

学会等名	日本呼吸器内視鏡学会
資格名	気管支鏡専門医
資格要件	(1) 日本国の医師免許証を有し、医師としての識見を備えていること。 (2) 申請時において、計 5 年以上本法人会員であること。 (3) 認定施設、又は別に定める関連認定施設の指導医のもとで、所定のカリキュラムを修了し、気管支鏡専門医としての技能及び経験を有していること。 日本呼吸器内視鏡学会ホームページ ( <a href="http://www.jsre.org/info/0908_senmoni.html">http://www.jsre.org/info/0908_senmoni.html</a> ) を参照のこと。
学会の連携等の概要 日本呼吸器内視鏡学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。	

学会等名	日本臨床腫瘍学会
資格名	がん薬物療法専門医
資格要件	(1) 申請時において 2 年以上継続して本学会員であること。 (2) 申請時において（医師国家試験合格後 2 年の初期研修を終了した後）5 年以上がん治療に関連する研究活動を行っていること、および、がん治療に関する十分な業績があること。 (3) 本学会認定研修施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2 年以上臨床研究を行い、これを修了していること。 (4) 各科の基本となる学会の認定医あるいは専門医の資格を有していること。 (5) 当該年度までの会費を納めていること。 日本臨床腫瘍学会ホームページ ( <a href="http://jsmo.umin.jp/senmoni/shinsei_houhou.html#sikaku">http://jsmo.umin.jp/senmoni/shinsei_houhou.html#sikaku</a> ) を参照のこと。
学会の連携等の概要 日本臨床腫瘍学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。	

コース責任者名：森昌朋

コース担当者名：石塚全

指導医名：久田剛志、砂長則明、岩崎靖樹、古賀康彦、小野昭浩、解良恭一、  
鶴巻寛朗

第一内科 HP : <http://ichinai.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

2 : 消化器病専門医・消化器内視鏡専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医

### (1) コースの全体像

消化器病学・消化器内視鏡学の進歩に即して、同学を専攻する優れた消化器内科医を養成し日本消化器病学会専門医・日本消化器内視鏡学会専門医の取得を目指す。初期研修2年修了後、群馬大学医学部附属病院およびその関連病院（日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設）において、最初の1年は内科臨床医としての技術を向上させ日本内科学会認定内科医の取得を目指すとともに、それぞれの学会専門医研修カリキュラムに従って5年間の消化器病学の臨床研修を行い、卒後7年目に日本消化器病学会専門医を取得、卒後8年目に日本消化器内視鏡学会専門医を取得する。当大学病院での研修をシニアレジデント1年目または2年目に選択できる。関連病院はすべて当科出身のスタッフで構成されており、専門臨床医学の研鑽が十分可能なように指導し、関連した各種特殊技術を身につける。関連病院を1～2年でローテートし、十分な症例数を経験できる。大学院への進学や、臨床研究論文の作成を行うことができる。また、連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	消化器内科	消化器病	12名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導	10名 (全施設合計)	6ヶ月～1年
前橋赤十字病院	消化器科	消化器病	7名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
伊勢崎市民病院	内科	消化器病	7名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
桐生厚生総合病院	内科	消化器病	8名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
済生会前橋病院	内科	消化器病	4名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
利根中央病院	内科	消化器病	3名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
原町赤十字病院	内科	消化器病	7名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年
東邦病院	内科	消化器病	3名	消化器病学および消化器内視鏡学の指導		1～2年

下仁田厚生 病院	内科	消化器病	3名	消化器病学および消化 器内視鏡学の指導		1～2年
くすの木病 院	内科	消化器病	4名	消化器病学および消化 器内視鏡学の指導		1～2年
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

毎年4～5名が専門医を取得しており、関連病院も含めると現在、日本消化器病学会は48名、日本消化器内視鏡学会44名の専門医がいる。

### (4) コースの指導状況

当科および当科関連病院の学会認定指導施設において消化器病学および消化器内視鏡学の実地修練の指導を行っている。11名が日本消化器病学会の指導医、20名が日本消化器内視鏡学会の指導医である。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>大学医学部を卒業し、下記研修歴を修了した者および試験日までに修了見込みの者</p> <p>A. 2003年（平成15年）以前の医師国家試験合格者 次記の1～4のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修3年以上。</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修2年以上 + 教育関連病院での研修1年以上 = 計3年以上。</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修1年以上 + 教育関連病院での研修3年以上 = 計4年以上。</li> <li>4. 教育関連病院での研修5年以上。</li> </ol> <p>B. 2004年（平成16年）以後の医師国家試験合格者 次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修2年 + 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上 = 計3年以上（その内18か月間以上、内科研修していること）</li> <li>2. 臨床研修2年 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上（その内18か月間以上、内科研修していること）</li> </ol> <p>日本内科学会ホームページ（<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html</a>）を参照のこと。</p>

学会の連携等の概要

日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、認定内科医資格取得後、次の1～5のいずれかに該当する内科研修歴を有する者および下記研修歴を試験日まで修了見込みの者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修3年以上</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修2年以上 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上 + 教育関連病院での内科研修2年以上 = 計3年以上</li> <li>4. 教育関連病院での内科研修5年以上</li> <li>5. 教育病院での内科研修1年以上+無認定病院での内科研修2年以上（要派遣証明書）= 計3年以上</li> </ol> <p>・教育病院（大学病院含む）から内科研修の一環として本会が認定していない病院へ派遣された場合は、教育病院からの“派遣証明書”を以って無認定病院での内科研修および症例の提出を認める。</p> <p>日本内科学会ホームページ（<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html</a>）を参照のこと。</p>

学会の連携等の概要

日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。

学会等名	日本消化器病学会
資格名	消化器病専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。</li> <li>2. 申請時において継続4年以上本学会の会員であること。</li> <li>3. 会員として本学会が主催するポストグラデュエイトコース、支部教育講演会、JDDWが主催するJDDW教育講演のいずれかに1回以上の出席があること。（半日単位の教育講演会は2回以上の出席があること。）</li> <li>4. 申請時において認定内科医、外科専門医、放射線科専門医、小児科専門医のいずれかの資格を有すること。</li> </ol>

	<p>5. 認定内科医資格取得に必要な所定の内科臨床研修修了の後3年以上、外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後2年以上、放射線科専門医資格取得に必要な所定の放射線科臨床研修修了の後2年以上、あるいは小児科専門医資格取得に必要な所定の小児科臨床研修修了の後2年以上、本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること。</p> <p>日本消化器病学会ホームページ (<a href="http://www.jsge.or.jp/">http://www.jsge.or.jp/</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本消化器病学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会評議員も含まれており、市民の啓蒙活動も行っている。当科は学会認定施設となっており、研修は当大学または学会認定施設に指定されている当科関連病院にて行う。</p>	

学会等名	日本消化器内視鏡学会
資格名	消化器内視鏡専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有すること。</li> <li>2. 申請時において、5年以上継続本学会会員であること。</li> <li>3. 指導施設において5年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。</li> <li>4. 申請時において日本内科学会認定医または日本外科学会認定医もしくは専門医のいずれかの資格を有すること。</li> </ol> <p>日本消化器内視鏡学会ホームページ (<a href="http://www.jges.net/gseido/index.html">http://www.jges.net/gseido/index.html</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会評議員も含まれており、市民啓蒙活動も行っている。当科は学会認定施設となっており、研修は本病院又は学会認定施設指定関連病院にて行う。</p>	

コース責任者名：森昌朋

コース担当者名：草野元康

指導医名：河村修、下山康之、水出雅文、佐川俊彦、吉田佐知子、  
井上照基、田中寛人

第一内科 HP : <http://ichinai.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

### 3 : 肝臓専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、肝臓専門医、消化器病学会専門医、  
消化器内視鏡学会専門医

#### (1) コースの全体像

肝臓病学の進歩に即して、肝臓病を専攻する優れた消化器内科医師を養成し、日本肝臓学会専門医を取得する。初期研修2年修了後、群馬大学医学部附属病院及びその関連施設（日本肝臓学会もしくは日本消化器病学会の認定研修施設）において、最初の1年は内科臨床医としての技術を向上させ、日本内科学会認定内科医の取得を目指すとともに、日本肝臓学会専門医研修カリキュラムに従って5年間の肝臓病学の臨床研修を行い、卒後7年目に日本肝臓学会専門医の取得を目標とする。また、肝臓病学のみならず、消化器病学、消化器内視鏡学を含んだ消化器病学全般の臨床研修を行い、同時に日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医を取得する。大学院への進学や、臨床研究論文の作成を行うことができる。また、連携大学病院での研修を選択することができる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	肝臓代謝内科	消化器、肝臓病	6名	消化器、肝臓病学の研修	10人 (全施設合計で)	後期専門研修の5年間を左記の6施設のローテーションで行い、疾患に偏りなく、肝臓、消化器疾患を全般的に研修する。
前橋赤十字病院	消化器科	消化器、肝臓病	4名	消化器、肝臓病学の研修		
桐生厚生総合病院	内科	消化器、肝臓病	2名	消化器、肝臓病学の研修		
原町赤十字病院	内科	消化器、肝臓病	3名	消化器、肝臓病学の研修		
伊勢崎市民病院	内科	消化器、肝臓病	3名	消化器、肝臓病学の研修		
済生会前橋病院	消化器内科	消化器、肝臓病	2名	消化器、肝臓病学の研修		
				受入人数	10名	

#### (3) コースの実績

現在までに40名が、日本肝臓学会専門医を取得した。

(4) コースの指導状況

群馬大学医学部付属病院及びその関連施設（日本肝臓学会もしくは日本消化器病学会の認定研修施設）で21名の日本肝臓学会専門医（内8名は日本肝臓学会指導医も兼任）が、消化器、肝臓疾患の研修指導にあっている。現在11名が、日本肝臓学会専門医の取得に向け研修中である。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>大学医学部を卒業し、下記研修歴を修了した者および試験日までに修了見込みの者</p> <p>A. 2003年（平成15年）以前の医師国家試験合格者 次記の1～4のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修3年以上。</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修2年以上 + 教育関連病院での研修1年以上 = 計3年以上。</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での研修1年以上 + 教育関連病院での研修3年以上 = 計4年以上。</li> <li>4. 教育関連病院での研修5年以上。</li> </ol> <p>B. 2004年（平成16年）以後の医師国家試験合格者 次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修2年 + 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上 = 計3年以上（その内18か月間以上、内科研修していること）</li> <li>2. 臨床研修2年 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上（その内18か月間以上、内科研修していること）</li> </ol> <p>日本内科学会ホームページ（<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html</a>）を参照のこと。</p>
学会の連携等の概要	<p>日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、認定内科医資格取得後、次の1～5のいずれかに該当する内科研修歴を有する者および下記研修歴を試験日ま</p>



	<p>でに修了見込みの者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修3年以上</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修2年以上 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上 + 教育関連病院での内科研修2年以上 = 計3年以上</li> <li>4. 教育関連病院での内科研修5年以上</li> <li>5. 教育病院での内科研修1年以上+無認定病院での内科研修2年以上（要派遣証明書）= 計3年以上</li> </ol> <p>・教育病院（大学病院含む）から内科研修の一環として本会が認定していない病院へ派遣された場合は、教育病院からの“派遣証明書”を以って無認定病院での内科研修および症例の提出を認める。</p> <p>日本内科学会ホームページ（<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html</a>）を参照のこと。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学会の連携等の概要

日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。

学会等名	日本肝臓学会
資格名	肝臓専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本国の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えている者。</li> <li>(2) 申請時において継続5年以上日本肝臓学会の会員である者。</li> <li>(3) 日本内科学会認定医、日本外科学会専門医若しくは認定医又は、日本小児科学会専門医若しくは認定医のいずれかの資格を有する者。</li> <li>(4) 2年間の一般研修を修了後、本規則に定める認定施設又は日本消化器病学会専門医制度による認定施設において、別に定める日本肝臓学会専門医研修カリキュラムに従って、5年以上の肝臓病学の臨床研修を修了した者。ただし、このうち少なくとも1年は本規則に定める認定施設において研修を行うことを要する。</li> </ol> <p>日本肝臓学会ホームページ（<a href="http://www.jsh.or.jp/specialist/index.html">http://www.jsh.or.jp/specialist/index.html</a>）を参照のこと。</p>

学会の連携等の概要

日本肝臓学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会評議員も含まれており、市民の啓蒙など日本肝臓学会群馬県支部としての活動も行っている。

学会等名	日本消化器病学会
資格名	消化器病専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。</li> <li>2. 申請時において継続4年以上本学会の会員であること。</li> <li>3. 会員として本学会が主催するポストグラデュエイトコース、支部教育講演会、JDDWが主催するJDDW教育講演のいずれかに1回以上の出席があること。（半日単位の教育講演会は2回以上の出席があること。）</li> <li>4. 申請時において認定内科医、外科専門医、放射線科専門医、小児科専門医のいずれかの資格を有すること。</li> <li>5. 認定内科医資格取得に必要な所定の内科臨床研修修了の後3年以上、外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後2年以上、放射線科専門医資格取得に必要な所定の放射線科臨床研修修了の後2年以上、あるいは小児科専門医資格取得に必要な所定の小児科臨床研修修了の後2年以上、本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること。</li> </ol> <p>日本消化器病学会ホームページ (<a href="http://www.jsge.or.jp/">http://www.jsge.or.jp/</a>) を参照のこと。</p>
学会の連携等の概要	<p>日本消化器病学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会評議員も含まれており、市民の啓蒙活動も行っている。当科は学会認定施設となっており、研修は当大学または学会認定施設に指定されている当科関連病院にて行う。</p>

学会等名	日本消化器内視鏡学会
資格名	消化器内視鏡専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有すること。</li> <li>2. 申請時において、5年以上継続本学会会員であること。</li> <li>3. 指導施設において5年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。</li> <li>4. 申請時において日本内科学会認定医または日本外科学会認定医もしくは専門医のいずれかの資格を有すること。</li> </ol> <p>日本消化器内視鏡学会ホームページ (<a href="http://www.jges.net/gseido/index.html">http://www.jges.net/gseido/index.html</a>) を参照のこと。</p>
学会の連携等の概要	<p>日本消化器内視鏡学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会評議員も含まれており、市民啓蒙活動も行っている。当科は学会認定施設となっており、研修は本病院又は学会認定施設指定関連病院にて行う。</p>

コース責任者名：森昌朋

コース担当者名：柿崎暁

指導医名：佐藤賢、堀口昇男、橋爪洋明、山崎勇一

第一内科 HP : <http://ichinai.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

4 : 内分泌・糖尿病専門医・臨床研究者コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、内分泌代謝科専門医、糖尿病専門医

### (1) コースの全体像

内分泌学・糖尿病学の進歩に即して、内分泌・代謝疾患、糖尿病を専攻する優れた内分泌・糖尿病内科医師を養成し、日本内分泌学会及び糖尿病学会専門医を取得する。初期研修2年修了後、群馬大学医学部附属病院及びその関連施設（日本内分泌学会もしくは糖尿病学会の認定研修施設）において最初の1年は内科臨床医としての技術を向上させ、日本内科学会認定内科医の取得を目指すとともに、日本内分泌学会及び糖尿病専門医研修カリキュラムに従って、3年間の内分泌学・糖尿病学の臨床研修または大学院入学してグローバル COE と連携した臨床研究に参加し、卒後5年目に日本内分泌学会及び糖尿病学会専門医の取得を目標とする。大学院への進学や、臨床研究論文の作成を行うことができる。また、連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	内分泌・糖尿病内科(1)	内分泌・代謝、糖尿病	6名	内分泌・代謝疾患、糖尿病の研修	5名(全施設合計にて)	的に研修する。記の3施設のローテーションで後期専門研修の5年間を左
前橋赤十字病院	内科	内分泌・代謝、糖尿病	1名	内分泌・代謝疾患、糖尿病の研修		
公立富岡総合病院	内科	内分泌・代謝、糖尿病	1名	内分泌・代謝疾患、糖尿病の研修		
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績

現在までに3名が日本内分泌学会専門医を、8名が日本糖尿病学会専門医を取得した。

### (4) コースの指導状況

群馬大学医学部附属病院及びその関連施設（日本内分泌学会もしくは日本糖尿病学会の認定研修施設）で7名の日本内分泌学会専門医（7名が指導医も兼任）と8名の日本糖尿病学会専門医（4名が指導医も兼任）が、内分泌・代謝疾患、糖尿病の研修指導にあたり、現在10名が日本内分泌学会専門医及び日本糖尿病学会専門医の取得に向け研修中であ

る。また大学院にてグローバル COE と連携した臨床研究に2名が従事している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>大学医学部を卒業し、下記研修歴を修了した者および試験日までに修了見込みの者</p> <p>A. 2003年(平成15年)以前の医師国家試験合格者 次記の1~4のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修3年以上。</li> <li>2. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修2年以上 + 教育関連病院での研修1年以上 = 計3年以上。</li> <li>3. 教育病院(内科臨床大学院含む)での研修1年以上 + 教育関連病院での研修3年以上 = 計4年以上。</li> <li>4. 教育関連病院での研修5年以上。</li> </ol> <p>B. 2004年(平成16年)以後の医師国家試験合格者 次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修2年 + 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修1年以上 = 計3年以上(その内18か月間以上、内科研修していること)</li> <li>2. 臨床研修2年 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上(その内18か月間以上、内科研修していること)</li> </ol> <p>日本内科学会ホームページ (<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/bor_01.html</a>) を参照のこと。</p>
学会の連携等の概要	<p>日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、認定内科医資格取得後、次の1~5のいずれかに該当する内科研修歴を有する者および下記研修歴を試験日までに修了見込みの者。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修3年以上</li> <li>2. 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修2年以上 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上</li> </ol>

	<p>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上        + 教育関連病院での内科研修2年以上 = 計3年以上</p> <p>4. 教育関連病院での内科研修5年以上</p> <p>5. 教育病院での内科研修1年以上 + 無認定病院での内科研修2年以上（要派遣証明書） = 計3年以上</p> <p>・教育病院（大学病院含む）から内科研修の一環として本        会が認定していない病院へ派遣された場合は、教育病院か        からの“派遣証明書”を以って無認定病院での内科研修およ        び症例の提出を認める。</p> <p>日本内科学会ホームページ（<a href="http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html">http://www.naika.or.jp/nintei/exam/fel_01.html</a>）を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本内科学会の研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。日本内科学会関東地方会において研修医、レジデントに症例報告を積極的に行ってもらっている。</p>	

学会等名	日本内分泌学会
資格名	内分泌代謝科専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続3年以上または通算5年以上本学会の会員であること。(休会期間は会員歴には含まれません。)</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医（または専門医）として認められている者。日本内科学会認定医として認められている者。</p> <p>(3) 内科認定研修の課程※を修了後、申請時まで3年以上、日本内分泌学会認定教育施設において内分泌代謝科指導医（特例指導医）の指導のもとで内分泌代謝疾患の診療に従事している者。</p> <p>(4) 内分泌代謝疾患臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>(5) 内分泌代謝疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p> <p>※認定内科医取得に必要な3年間の研修を指します</p> <p>日本内分泌学会ホームページ（<a href="http://square.umin.ac.jp/endo/crine/senmon_i/index.html">http://square.umin.ac.jp/endo/crine/senmon_i/index.html</a>）を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>研修指導者には学会評議員や代議員も含まれており、日本内分泌学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。</p>	

学会等名	日本糖尿病学会
資格名	糖尿病専門医
資格要件	<p>(1) 日本国の医師免許を有し、医師として的人格及び見識を備えていること。</p> <p>(2) 申請時において連続3年以上日本糖尿病学会の会員であること。</p> <p>(3) 認定内科医研修の過程を修了後、学会認定教育施設において3年以上の期間にわたって常勤者として糖尿病臨床研修を行っていること。</p> <p>(4) 糖尿病の研修開始時に研修同意書を提出し、その後研修カリキュラムの内容に沿った糖尿病の研修を学会認定教育施設により行ったことを証明しうること。</p> <p>(5) 申請時において日本内科学会の認定内科医として認定されていること。糖尿病臨床に関する、筆頭者としての学会発表または論文が2編以上あること、なお、学会、雑誌に関しては、施行細則に定める。なお同一学会或いは合同学会において複数回発表を行っても1回のみ計算とする。</p> <p>(6) 入院糖尿病患者 40 症例以上の治療経験を有すること。</p> <p>日本糖尿病学会ホームページ (<a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a>) を参照のこと。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本糖尿病学会専門医研修カリキュラムに従って、臨床研修を行っている。研修指導者には学会学術評議員も含まれており、市民の啓蒙など日本糖尿病協会群馬県支部としての活動も行っている。</p>	

コース責任者名：森昌朋

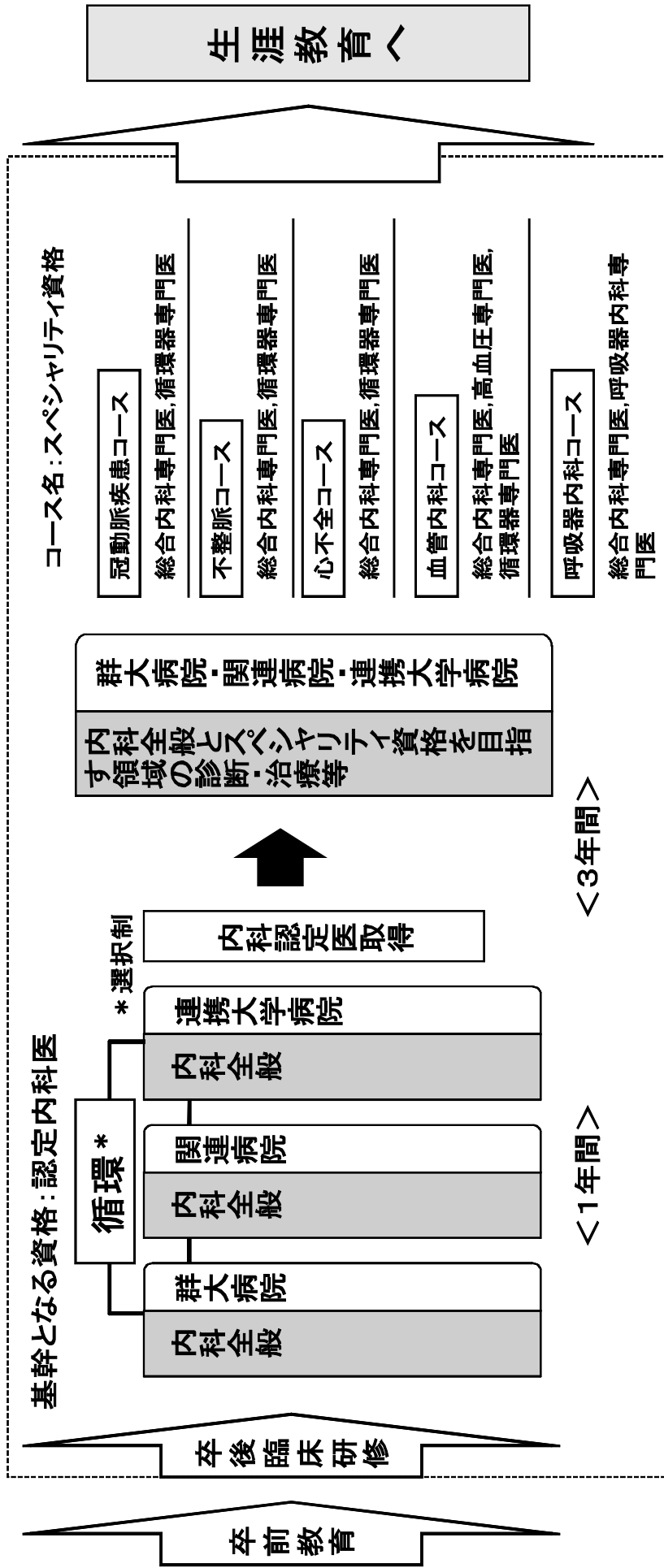
コース担当者名：山田正信

指導医名：岡田秀一、佐藤哲郎、橋本貢士、渋谷信行、土屋天文、  
高橋洋樹、小澤厚志、斎藤従道、大井晋介

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：第二内科

- 5: 冠動脈疾患コース 募集(人数7名)
- 6: 不整脈コース 募集(人数6名)
- 7: 心不全コース 募集(人数5名)
- 8: 血管内科コース 募集(人数2名)
- 9: 呼吸器内科コース 募集(人数10名)





5 : 冠動脈疾患コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、循環器専門医

(1) コースの全体像

本コースは、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症や弁膜症などによる心不全、高血圧症、肺動脈や末梢血管疾患など循環器疾患全般を対象にして、診断法、治療法を修得し、最先端の専門診療および臨床研究を実施し、将来、この領域においてリーダーとなりうる人材を育成することを目的としている。特に、冠動脈疾患や不整脈疾患に対してそれぞれ血行再建術、電気生理学検査・アブレーション技術を修得する。このコースの初年度は原則として大学病院で研修し、2年次、3年次には大学病院または関連施設である研修病院で研修する。日本内科学会認定医および日本循環器学会専門医の資格を取得することも目指している。サブスペシャリティとして、心血管インターベンション認定医・専門医を目指す。連携大学病院での短期研修を選択することができる。

本コース履修中、またはコース修了後には大学院にて心不全や血管疾患の新たな治療法を開発する研究や虚血性心疾患と心不全の臨床研究を行い、医学博士の取得に向けたコースの選択が可能である。

(2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	循環器内科	冠動脈疾患	4名	虚血性心疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	2名	3年間
群馬県立心臓血管センター	循環器内科	冠動脈疾患	3名	虚血性心疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
高崎総合医療センター	循環器内科	冠動脈疾患	3名	虚血性心疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
伊勢崎市民病院	循環器内科	冠動脈疾患	2名	虚血性心疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
深谷赤十字病院	循環器内科	冠動脈疾患	3名	虚血性心疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
前橋赤十字病院	循環器内科	冠動脈疾患	1名	虚血性心疾患の診断と治療に関して	1名	3年間

				研鑽を積む		
				受入人数	7名	

### (3) コースの実績

3年間で最低経験する主な症例は以下のとおりである。心不全(100例/3年)、ショック(20例/3年)、不整脈(40例/3年)、虚血性心疾患(100例/3年)、弁膜疾患(30例/3年)、心筋疾患(30例/3年)、感染性心内膜炎(5例/3年)、心膜疾患(10例/3年)、大動脈疾患(30例/3年)、末梢血管疾患(30例/3年)、肺性心疾患(20例/3年)、先天性心疾患(20例/3年)

### (4) コースの指導状況

指導医と後期専門研修医は主治医チームを構成し、冠動脈疾患、不整脈、心不全など循環器疾患すべての診療を行う。月、水、金曜日は冠動脈造影やPCI(冠動脈インターベンション)を行い、火、水曜日は電気生理学的検査、アブレーションを行う。また、水曜日午前は抄読会、回診、学会予行演習会を行う。木曜日は症例カンファランスおよびシネカンファランスにて指導する。各症例の診療録、退院サマリーは指導医の検閲を受ける。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会
資格名	認定内科医、総合内科専門医、 日本循環器学会認定循環器専門医(循環器専門医) 心血管インターベンション認定医・専門医
資格要件	認定内科医：臨床研修2年を修了し、内科学会が認定した教育病院での内科研修1年以上 総合内科専門医：認定内科医資格取得後、教育病院での内科研修1年以上+教育関連病院での内科研修2年以上=計3年以上 循環器専門医：内科認定医の資格を持ち、3年以上の臨床研修歴を有すること
学会の連携等の概要 本病院は日本内科学会、日本循環器学会の認定施設である。本コース履修者は上記学会の他、日本心臓病学会、日本心電学会に所属し、それぞれの学会の学術集会に参加することはもちろん、自ら臨床研究や症例報告の発表を行う。また、学術誌に投稿し、研究マインドを育成する。	

コース責任者名：倉林正彦

コース担当者名：新井昌史

指導医名：庭前野菊、関亮太郎、小板橋紀通

6 : 不整脈コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、循環器専門医

(1) コースの全体像

本コースは、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症や弁膜症などによる心不全、高血圧症、肺動脈や末梢血管疾患など循環器疾患全般を対象にして、診断法、治療法を修得し、最先端の専門診療および臨床研究を実施し、将来この領域においてリーダーとなりうる人材を育成することを目的としている。特に、冠動脈疾患や不整脈疾患に対してそれぞれ血行再建術、電気生理学検査・アブレーション技術を修得する。このコースの初年度は原則として大学病院で研修し、2年次、3年次には大学病院または関連施設である研修病院で研修する。日本内科学会認定医および日本循環器学会専門医の資格を取得することも目指している。連携大学病院での短期研修を選択することができる。今後、不整脈専門医制度が始まる予定である。

本コース履修中、またはコース修了後には大学院にて心不全や血管疾患の新たな治療法を開発する研究や虚血性心疾患と心不全の臨床研究を行い、医学博士の取得に向けたコースの選択が可能である。

(2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	循環器内科	不整脈	3名	不整脈の診断と治療に関して研鑽を積む	3名	3年間
群馬県立心臓血管センター	循環器内科	不整脈	1名	不整脈の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
高崎総合医療センター	循環器内科		1名	循環器全般に加え、不整脈の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
公立富岡総合病院	循環器内科		1名	循環器全般に加え、不整脈の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
				受入人数	6名	

(3) コースの実績

3年間で最低経験する主な症例は以下のとおりである。心不全(100例/3年)、ショック(20例/3年)、不整脈(40例/3年)、虚血性心疾患(100例/3年)、弁膜疾患(30例/3年)、心筋疾患(30例/3年)、感染性心内膜炎(5例/3年)、心膜疾患(10例/3年)、大動脈疾患(30例/3年)、末梢血管疾患(30例/3年)、肺性心疾患(20例/3年)、先天性心

疾患(20例/3年)

#### (4) コースの指導状況

指導医と後期専門研修医は主治医チームを構成し、冠動脈疾患、不整脈、心不全など循環器疾患すべての診療を行う。月、水、金曜日は冠動脈造影やPCI(冠動脈インターベンション)を行い、火、水曜日は電気生理学的検査、アブレーションを行う。また、水曜日午前は抄読会、回診、学会予行演習会を行う。木曜日は症例カンファランスおよびシネカンファランスにて指導する。各症例の診療録、退院サマリーは指導医の検閲を受ける。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会
資格名	認定内科医、総合内科専門医、 日本循環器学会認定循環器専門医(循環器専門医) 不整脈専門医(予定)
資格要件	認定内科医：臨床研修2年を修了し、内科学会が認定した教育病院での内科研修1年以上 総合内科専門医：認定内科医資格取得後、教育病院での内科研修1年以上+教育関連病院での内科研修2年以上=計3年以上 循環器専門医：内科認定医の資格を持ち、3年以上の臨床研修歴を有すること
学会の連携等の概要 本病院は日本内科学会、日本循環器学会の認定施設である。本コース履修者は上記学会の他、日本心臓病学会、日本心電学会に所属し、それぞれの学会の学術集会に参加することはもちろん、自ら臨床研究や症例報告の発表を行う。 また、学術誌に投稿し、研究マインドを育成する。	

コース責任者名：倉林正彦

コース担当者名：金古善明

指導医名：中島 忠

第二内科 HP : <http://med2.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

7: 心不全コース

基幹となる資格名: 認定内科医

スペシャリティ資格名: 総合内科専門医、循環器専門医

### (1) コースの全体像

本コースは、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症や弁膜症などによる心不全、高血圧症、肺動脈や末梢血管疾患など循環器疾患全般を対象にして、診断法、治療法を修得し、最先端の専門診療および臨床研究を実施し、将来この領域においてリーダーとなりうる人材を育成することを目的としている。特に、冠動脈疾患や不整脈疾患に対してそれぞれ血行再建術、電気生理学検査・アブレーション技術を修得する。このコースの初年度は原則として大学病院で研修し、2年次、3年次には大学病院または関連施設である研修病院で研修する。日本内科学会認定医および日本循環器学会専門医の資格を取得することも目指している。連携大学病院での短期研修を選択することができる。

本コース履修中、またはコース修了後には大学院にて心不全や血管疾患の新たな治療法を開発する研究や虚血性心疾患と心不全の臨床研究を行い医学博士の学位取得に向けたコースの選択が可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	循環器内科	心不全	3名	心不全の診断と治療に関して研鑽を積む	3名	3年間
群馬県立心臓血管センター	循環器内科		3名	心不全の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
高崎総合医療センター	循環器内科		3名	循環器全般に加え、心不全の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績

3年間で最低経験する主な症例は以下のとおりである。心不全(100例/3年)、ショック(20例/3年)、不整脈(40例/3年)、虚血性心疾患(100例/3年)、弁膜疾患(30例/3年)、心筋疾患(30例/3年)、感染性心内膜炎(5例/3年)、心膜疾患(10例/3年)、大動脈疾患(30例/3年)、末梢血管疾患(30例/3年)、肺性心疾患(20例/3年)、先天性心疾患(20例/3年)

### (4) コースの指導状況

指導医と後期専門研修医は主治医チームを構成し、冠動脈疾患、不整脈、心不全

など循環器疾患すべての診療を行う。月、水、金曜日は冠動脈造影や PCI（冠動脈インターベンション）を行い、火、水曜日は電気生理学的検査、アブレーションを行う。また、水曜日午前は抄読会、回診、学会予行演習会を行う。木曜日は症例カンファランスおよびシネカンファランスにて指導する。各症例の診療録、退院サマリーは指導医の検閲を受ける。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会
資格名	認定内科医、総合内科専門医、 日本循環器学会認定循環器専門医（循環器専門医）
資格要件	認定内科医：臨床研修2年を修了し、内科学会が認定した教育病院での内科研修1年以上 総合内科専門医：認定内科医資格取得後、教育病院での内科研修1年以上＋教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 循環器専門医：内科認定医の資格を持ち、3年以上の臨床研修歴を有すること
学会の連携等の概要 本病院は日本内科学会、日本循環器学会の認定施設である。本コース履修者は上記学会の他、日本心臓病学会、日本心電学会に所属し、それぞれの学会の学術集会に参加することはもちろん、自ら臨床研究や症例報告の発表を行う。また、学術誌に投稿し、研究マインドを育成する。	

コース責任者名：倉林正彦

コース担当者名：新井昌史

指導医名：庭前野菊、関亮太郎、小板橋紀通、中島忠

第二内科 HP : <http://med2.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

8 : 血管内科コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、高血圧専門医、循環器専門医

### (1) コースの全体像

本コースは、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症や弁膜症などによる心不全、高血圧症、肺動脈や末梢血管疾患など循環器疾患全般を対象にして、診断法、治療法を修得し、最先端の専門診療および臨床研究を実施し、将来この領域においてリーダーとなりうる人材を育成することを目的としている。特に、冠動脈疾患や不整脈疾患に対してそれぞれ血行再建術、電気生理学検査・アブレーション技術を修得する。このコースの初年度は原則として大学病院で研修し、2年次、3年次には大学病院または関連施設である研修病院で研修する。日本内科学会認定医および日本循環器学会専門医の資格を取得することも目指している。連携大学病院での短期研修を選択することもできる。

本コース履修中、またはコース修了後には大学院にて心不全や血管疾患の新たな治療法を開発する研究や虚血性心疾患と心不全の臨床研究を行い、医学博士の学位取得に向けたコースの選択が可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	循環器内科	血管内科	2名	血管疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
群馬県立心臓血管センター	循環器内科	循環器内科	1名	血管疾患の診断と治療に関して研鑽を積む	1名	3年間
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

3年間で最低経験する主な症例は以下のとおりである。心不全(100例/3年)、ショック(20例/3年)、不整脈(40例/3年)、虚血性心疾患(100例/3年)、弁膜疾患(30例/3年)、心筋疾患(30例/3年)、感染性心内膜炎(5例/3年)、心膜疾患(10例/3年)、大動脈疾患(30例/3年)、末梢血管疾患(30例/3年)、肺性心疾患(20例/3年)、先天性心疾患(20例/3年)

### (4) コースの指導状況

指導医と後期専門研修医は主治医チームを構成し、冠動脈疾患、不整脈、心不全など循環器疾患すべての診療を行う。月、水、金曜日は冠動脈造影やPCI(冠動脈

インターベンション)を行い、火、水曜日は電気生理学的検査、アブレーションを行う。また、水曜日午前は抄読会、回診、学会予行演習会を行う。木曜日は症例カンファランスおよびシネカンファランスにて指導する。各症例の診療録、退院サマリーは指導医の検閲を受ける。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本高血圧学会
資格名	認定内科医、総合内科専門医、 日本循環器学会認定循環器専門医（循環器専門医）、 日本高血圧学会認定高血圧専門医
資格要件	認定内科医：臨床研修2年を修了し、内科学会が認定した教育病院での内科研修1年以上 総合内科専門医：認定内科医資格取得後、教育病院での内科研修1年以上＋教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 循環器専門医、高血圧専門医：内科認定医の資格を持ち、3年以上の臨床研修歴を有すること
学会の連携等の概要 本病院は日本内科学会、日本循環器学会、高血圧学会の認定施設である。本コース履修者は上記学会の他、日本心臓病学会、日本心電学会に所属し、それぞれの学会の学術集会に参加することはもちろん、自ら臨床研究や症例報告の発表を行う。また、学術誌に投稿し、研究マインドを育成する。	

コース責任者名：倉林正彦

コース担当者名：新井昌史

指導医名：庭前野菊、関亮太郎、小板橋紀通、中島忠



9 : 呼吸器内科コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、呼吸器専門医

(1) コースの全体像

呼吸器内科コースは3年間のコースで、2年間の初期臨床研修では十分に修得できなかった内科医としての知識、診療技術を充実させて基礎作りを行い、呼吸器内科専門医に必要な臨床能力、技術の研鑽を積む研修プログラムである。このコースの初年度は大学病院で研修し、2年次、3年次には大学病院または関連施設である研修病院で研修する。連携大学病院での研修を選択するシステムを始まっている。日本内科学会認定医および日本呼吸器学会専門医の資格を取得することも目指している。また、呼吸器感染症、腫瘍、COPD、間質性肺炎、呼吸器アレルギー性疾患など多岐にわたる呼吸器診療に必要な技術、経験、知識を修得する。特に臨床腫瘍専門医を希望する人には大学院にてがんプロフェッショナル養成プランのカリキュラムを履修することによって、化学療法、放射線治療の研鑽を積むことも可能である。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。また、COPD、間質性肺炎の病態生理を明らかにし、新たな治療法の開発を目指す研究、および肺癌細胞の特性を遺伝子発現レベルで解明する研究を行うコースもある。

(2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	呼吸器内科	腫瘍	3名	肺癌の診断、治療(化学療法、放射線治療)について研鑽を積む	2名	3年間
群馬大学医学部附属病院	呼吸器内科	感染症	3名	感染症の診断と治療について研鑽を積む	2名	3年間
群馬大学医学部附属病院	呼吸器内科	COPD・間質性肺炎	3名	COPD・間質性肺炎の診断と治療について研鑽を積む	2名	3年間
高崎総合医療センター	呼吸器内科	呼吸器全般	3名	呼吸器全般の臨床能力・技術の研鑽を積む	3名	3年間
公立藤岡総合病院	呼吸器内科	呼吸器全般	2名	呼吸器全般の臨床能力・技術の向上	1名	3年間
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

3年間で最低経験する主な症例は以下のとおりである。肺癌(100例/3年)、感染症(結核を含む)(100例/3年)、COPD(50例/3年)、間質性肺疾患(50例/3年)、アレルギー性肺疾患(100例/3年)、(30例/3年)、急性呼吸不全(10例/3年)、胸膜疾患(10例/3年)、慢性呼吸不全(30例/3年)

### (4) コースの指導状況

指導医と後期専門研修医は主治医チームを構成し、肺癌、感染症、COPD、間質性肺炎など呼吸器疾患の外来患者、入院患者の診療を行う。特にインフォームドコンセントについて徹底した指導を受ける。火曜日は気管支鏡検査を行う。また、呼吸器外科、放射線科との合同呼吸器カンファレンスを行う。水曜日午前は抄読会、回診、学会予行演習会を行う。指導医により各症例の診療録の記載方法についても指導を受ける。退院サマリーは指導医の検閲を受ける。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会、日本呼吸器学会
資格名	認定内科医、総合内科専門医、 日本呼吸器学会専門医(呼吸器専門医) 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
資格要件	認定内科医：臨床研修2年を修了し、内科学会が認定した教育病院での内科研修1年以上 総合内科専門医：認定内科医資格取得後、教育病院での内科研修1年以上＋教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 呼吸器専門医：内科認定医の資格を取得した年度も含めて3年以上継続して日本呼吸器学会に所属し、呼吸器病学の臨床研修を行い、これを修了した者、非喫煙者であること
学会の連携等の概要 本病院は日本内科学会、日本呼吸器学会の認定施設である。本コース履修者はそれぞれの学会の学術集会に参加することはもちろん、自ら臨床研究や症例報告の発表を行う。また、学術誌に投稿し、研究マインドを育成する。	

コース責任者名：倉林正彦

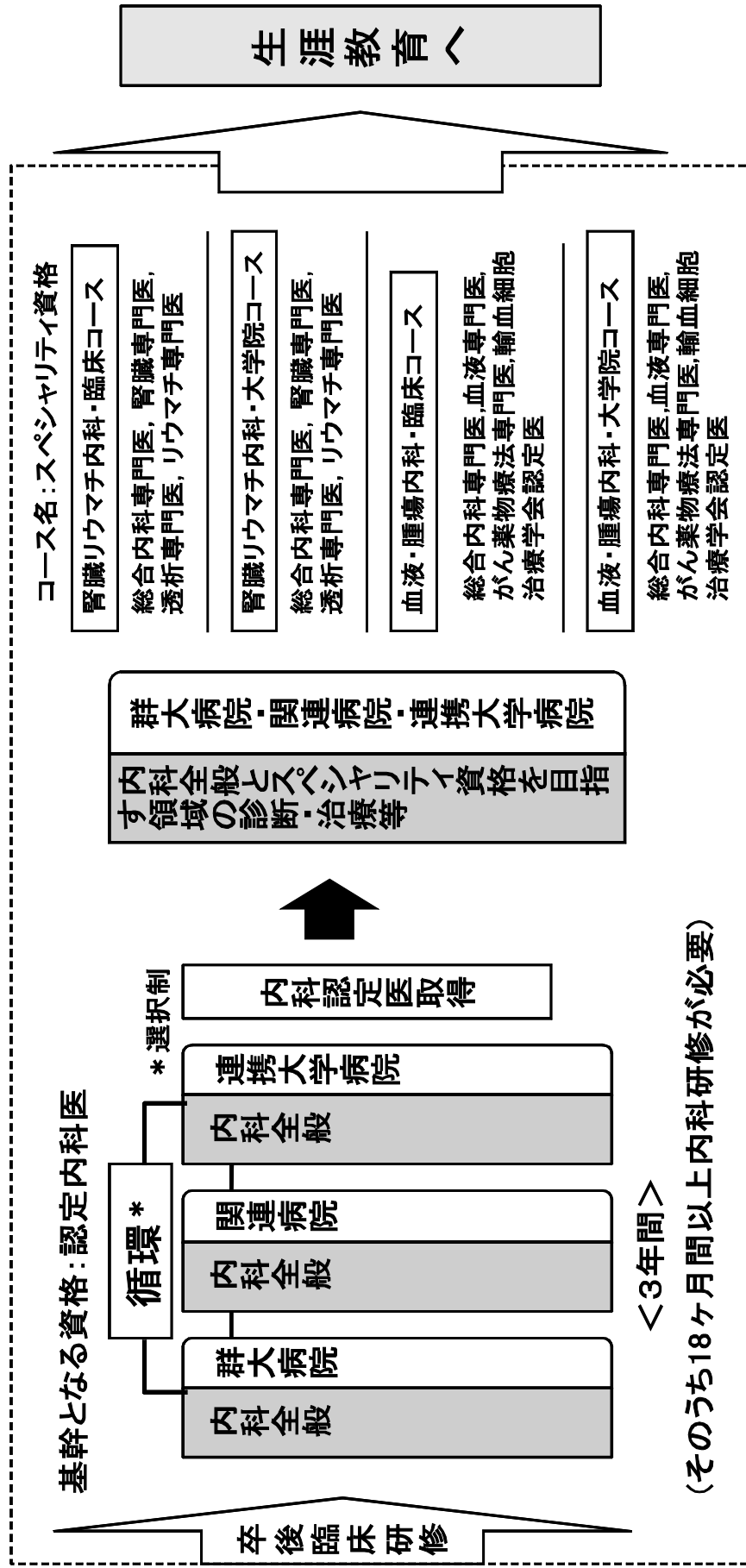
コース担当者名：前野敏孝

指導医名：青木史暁

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：第三内科

- 10: 腎臓リウマチ内科・臨床コース 募集(人数4名)
- 11: 腎臓リウマチ内科・大学院コース 募集(人数2名)
- 12: 血液・腫瘍内科・臨床コース 募集(人数4名)
- 13: 血液・腫瘍内科・大学院コース 募集(人数2名)



第三内科 HP : <http://mcs.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.html>

10：腎臓リウマチ内科・臨床コース

基幹となる資格名：認定内科医

スペシャリティ資格名：総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、リウマチ専門医

### (1) コースの全体像

本コースでは、内科、腎臓、透析、リウマチの4つの専門医取得を目指した臨床研修を行う。腎疾患とリウマチ性疾患は相互に合併しやすく、病因・病態的にも共通する部分が多い。従って両疾患領域に精通することは、将来どちらの領域でキャリアアップしようとも大きな武器となる。腎疾患とリウマチ性疾患の診療には全身を診る力が重要である。よって専門疾患を診療しながらも内科医としての総合力を身につけることに重点をおき、2年目に内科認定医を取得することを必須とする。そして、1～2年毎に大学病院あるいは関連病院の腎臓リウマチ内科を循環し、内科学全般と腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療を学んでいく。希望者には連携大学病院での研修を一定期間選択することができる。6～7年の研修を積むことで、総合内科専門医と各専門医の資格の取得が可能となる。その後さらに経験を積み、指導医の取得を目指す。腎臓（透析）のみ、リウマチのみの選択も可能である。また、希望者は臨床研究論文の作成や、学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	内科	腎臓リウマチ内科	6名	内科全般、腎臓、リウマチ・膠原病診療の研修	1～6名	1～2年
東邦病院	内科	腎臓リウマチ内科	3名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1～4名	1～2年
済生会前橋病院	内科	腎臓内科	2名	内科全般、腎臓、透析診療の研修	1～2名	1～2年
公立藤岡総合病院	内科	腎臓リウマチ膠原病科	2名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1～2名	1～2年
前橋赤十字病院	内科	腎臓リウマチ内科	2名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1～2名	1～2年

埼玉医科大学病 院	内科	リウマチ膠 原病科	3名	内科全般、リウマチ ・膠原病診療の研修	1～2名	1～2年
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

臨床研修必修化以前は医学部卒業後、群馬大学第三内科医会（腎臓リウマチグループ）に入会した医師に対して、1～2年毎に大学病院、関連病院のローテーションを行いながら、内科医ならびに各専門医のトレーニングを行ってきた。また臨床研修必修化後は、2年間の初期臨床研修修了後に入会した医師に対して、同様のトレーニングを行っている。最近の新規受け入れ数は、2007年3名、2008年2名、2009年4名である。

### (4) コースの指導状況

各施設とも各学会の施設認定を受けており、専門医取得を目指した研修プログラムが遂行されている。そして受け入れ医師数と同数あるいはそれ以上の指導者のもと、日々の診療において濃密な指導がなされている。また専門医としての幅広い知識が得られるよう、腎臓リウマチグループ全体で症例検討会や研究会を開催している。さらに経験症例の学会発表、論文作成の指導も積極的に行っている。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること 1. 臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＝計3年以上 2. 臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）
学会の連携等の概要 前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、受験申込年度までの会費を完納し、次の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を

	<p>有する者</p> <p>1. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 （計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>2. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。</p>	

学会等名	日本腎臓学会
資格名	腎臓専門医
資格要件	<p>(1) 日本国の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること</p> <p>(2) 本会の会員歴が継続して5年以上であること</p> <p>(3) (社)日本内科学会認定医取得後3年以上、(社)日本小児科学会専門医、(社)日本外科学会専門医及び(社)日本泌尿器科学会専門医は取得後1年以上であること</p> <p>(4) 本会が指定する研修施設において、別に定める研修カリキュラムに基づく研修を3年以上行っていること</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院は日本腎臓学会認定の研修施設である。</p>	

学会等名	日本透析医学会
資格名	透析医学会専門医
資格要件	<p>1) 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び識見を備えていること</p> <p>2) 日本内科学会および日本外科学会において定められたいずれかの認定医または、専門医、日本泌尿器科学会および日本小児科学会において定められたいずれかの専門医、もしくは日本麻酔学会において定められた指導医の資格を有し、臨床経験5年以上を有すること。ただし、これに該当しない場合においても、本会の専門医制度委員会の規定によって認定された認定施設において5年以上の臨床経験を有する者については、同等の資格を有する者とみなすことが出来る</p>

	<p>3) 認定施設または教育関連施設において本会の専門医制度委員会の規定によって編成された研修カリキュラムに従い通算5年以上、もしくは本会の専門医制度委員会が認める外部団体主催の研修期間も含めて計5年以上、主として透析療法に関する臨床研修を行いかつ業績のあること</p> <p>4) 学会出席ならびに業績について30単位を満たしていること</p> <p>5) 専門医認定の試験および審査において適格と判定され、専門医として登録を完了した者であること</p> <p>6) 申請時において、本会の会員歴5年以上、もしくは本会会員歴3年以上でかつ2)に記載されている他学会の会員歴を含めて5年以上であること</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、前橋赤十字病院は日本透析医学会の認定施設であり、公立藤岡総合病院は教育関連施設である。</p>	

学会等名	日本リウマチ学会
資格名	リウマチ専門医
資格要件	<p>1. 日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること</p> <p>2. 申請時において引き続き5年以上学会の会員であること</p> <p>3. 日本リウマチ学会が認定した教育施設等において、通算5年以上のリウマチ学の臨床研修を行ったこと</p> <p>4. 日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による研修単位を30単位以上取得していること</p> <p>5. 関連基本領域学会の認定医或いは専門医の資格を有すること</p> <p>基本領域学会          日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本リハビリテーション医学会</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院、埼玉医科大学病院は日本リウマチ学会の教育施設である。</p>	

コース責任者名：野島美久

コース担当者名：前嶋明人

指導者名：廣村桂樹、黒岩卓、前嶋明人、池内秀和、坂入徹、櫻井則之

第三内科 HP : <http://mcs.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.html>

11: 腎臓リウマチ内科・大学院コース

基幹となる資格名: 認定内科医

スペシャリティ資格名: 総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、リウマチ専門医

### (1) コースの全体像

本コースでは、内科、腎臓、透析、リウマチの4つの専門医取得を目指すとともに、大学院に在学し、腎臓、リウマチ・膠原病の基礎ならびに臨床研究を行い、学位を取得することを目標とする。まず1年目は内科医としての臨床的な総合力を身につけることに重点をおき、関連病院などで臨床研修を行い、2年目の大学院入学時、内科認定医を取得することを必須とする。大学院では指導教官のもと各自の研究テーマを決め、海外の一流専門誌への論文掲載を目指して3~4年間の研究を行う。またこの期間も、研究に支障のない範囲で外来診療などを中心に臨床研修を平行して行う。また、希望者には研究論文の作成だけでなく、臨床研究論文の作成を目指すことができる。大学院卒業後は、関連病院の腎臓リウマチ内科で、内科学全般と腎臓、透析、リウマチの臨床研修を行い、各専門医を取得する。また、希望者は連携大学病院での研修を一定期間選択することができる。その後、指導医を目指して、さらに経験を積む。研究を進めるため、海外への研究留学も可能である。また腎臓（透析）のみ、リウマチのみの選択も可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学大学院	生体統御内科学	腎臓リウマチ内科	4名	腎臓、リウマチ・膠原病の基礎、臨床研究	1~8名	3~4年
群馬大学医学部附属病院	内科	腎臓リウマチ内科	6名	内科全般、腎臓、リウマチ・膠原病診療の研修	1~6名	1~2年
東邦病院	内科	腎臓リウマチ内科	3名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1~4名	1~2年
済生会前橋病院	内科	腎臓内科	2名	内科全般、腎臓、透析診療の研修	1~2名	1~2年
公立藤岡総合病院	内科	腎臓リウマチ膠原病科	2名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1~2名	1~2年
前橋赤十字病院	内科	腎臓リウマチ内科	2名	内科全般、腎臓、透析、リウマチ・膠原病診療の研修	1~2名	1~2年



埼玉医科大 学病院	内科	リウマチ膠 原病科	3名	内科全般、リウマチ・ 膠原病診療の研修	1～2名	1～2年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

最近では群馬大学第三内科医会（腎臓リウマチグループ）に入会した医師の約半数が、数年間の臨床研修の後に大学院に進学している。3～4年間の研究を行い（夜間大学院の場合は、研究期間が少し長くなる）、全員が海外の一流専門誌に論文を掲載し、学位を取得している。そして学位取得前後に、希望する各専門医の資格を取得している。最近の新規受け入れ大学院生数は、2008年1名、2009年1名、2010年2名となっている。

### (4) コースの指導状況

大学院では助教以上が指導教官となり、大学院生1～3名程度を直接指導する体制である。テーマの選択、実験遂行、学会発表、論文作成などを、きめ細やかに指導している。臨床研修については、受け入れ医師数と同数あるいはそれ以上の指導者のもと、日々の診療において濃密な指導がなされている。また専門医としての幅広い知識が得られるよう、腎臓リウマチグループ全体で症例検討会や研究会を開催している。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること</p> <p>1. 臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>2. 臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。</p>	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、受験申込年度ま

	<p>での会費を完納し、次の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有する者</p> <p>1. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 （計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>2. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。</p>	

学会等名	日本腎臓学会
資格名	腎臓専門医
資格要件	<p>(1) 日本国の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること</p> <p>(2) 本会の会員歴が継続して5年以上であること</p> <p>(3) (社)日本内科学会認定医取得後3年以上、(社)日本小児科学会専門医、(社)日本外科学会専門医及び(社)日本泌尿器科学会専門医は取得後1年以上であること</p> <p>(4) 本会が指定する研修施設において、別に定める研修カリキュラムに基づく研修を3年以上行っていること</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院は日本腎臓学会認定の研修施設である。</p>	

学会等名	日本透析医学会
資格名	透析医学会専門医
資格要件	<p>1) 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び識見を備えていること</p> <p>2) 日本内科学会および日本外科学会において定められたいずれかの認定医または、専門医、日本泌尿器科学会および日本小児科学会において定められたいずれかの専門医、もしくは日本麻酔学会において定められた指導医の資格を有し、臨床経験5年以上を有すること。ただし、これに該当しない場合においても、本会の専門医制度委員会の規定によって認定された認定施設において5年以上の臨床経験を有する者については、同等の資格を有する</p>

	<p>者とみなすことが出来る</p> <p>3) 認定施設または教育関連施設において本会の専門医制度委員会の規定によって編成された研修カリキュラムに従い通算5年以上、もしくは本会の専門医制度委員会が認める外部団体主催の研修期間も含めて計5年以上、主として透析療法に関する臨床研修を行い、かつ業績のあること</p> <p>4) 学会出席ならびに業績について30単位を満たしていること</p> <p>5) 専門医認定の試験および審査において適格と判定され、専門医として登録を完了した者であること</p> <p>6) 申請時において、本会の会員歴5年以上、もしくは本会会員歴3年以上でかつ2)に記載されている他学会の会員歴を含めて5年以上であること</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、群馬県済生会前橋病院、前橋赤十字病院は日本透析医学会の認定施設であり、公立藤岡総合病院は教育関連施設である。</p>	

学会等名	日本リウマチ学会
資格名	リウマチ専門医
資格要件	<p>1. 日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること</p> <p>2. 申請時において引き続き5年以上学会の会員であること</p> <p>3. 日本リウマチ学会が認定した教育施設等において、通算5年以上のリウマチ学の臨床研修を行ったこと</p> <p>4. 日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による研修単位を30単位以上取得していること</p> <p>5. 関連基本領域学会の認定医或いは専門医の資格を有すること</p> <p>基本領域学会</p> <p>日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本リハビリテーション医学会</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>群馬大学医学部附属病院、三思会東邦病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院、埼玉医科大学病院は日本リウマチ学会の教育施設である。</p>	

コース責任者名：野島美久

コース担当者名：前嶋明人

指導医名：廣村桂樹、黒岩卓、前嶋明人、池内秀和、坂入徹、櫻井則之

第三内科 HP : <http://mcs.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.html>

12 : 血液・腫瘍内科・臨床コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、血液専門医、がん薬物療法専門医、  
輸血細胞治療学会認定医

### (1) コースの全体像

本コースでは、内科、血液、がん薬物療法の3つの専門医取得を目指した臨床研修を行う。血液疾患は全身性疾患であるため、一つの臓器にとらわれることなく全身を診る力が重要となる。よって1～2年次には専門疾患を診療しながら、内科医として総合力を身につけることに重点をおき、2年次に内科学会認定医を取得することを必須とする。一方、血液疾患は抗がん薬治療が治療の主力であり、その合併症対策にも精通する必要がある。この治療概念、対処法は他の抗がん薬治療に共通であるため、血液疾患のみならず、腫瘍内科の基礎を学ぶことができる。1～2年毎に大学病院および関連病院の血液内科を循環し、内科学全般と腫瘍学を学んでいく。また、希望者は連携大学病院での一定期間の研修を選択することもできる。6～7年の研修を積むことで総合内科専門医と各専門医の資格の取得が可能となる。その後経験を積み指導医の取得を目指す。さらに希望者は、血液疾患に関連の深い輸血認定医の取得も可能である。希望者は臨床研究論文の作成や、学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	内科	血液内科	6名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修、輸血学研修	1～6名	1～2年
済生会前橋病院	内科	血液内科	5名	内科全般、血液内科、診療の研修	1～4名	1～2年
西群馬病院	内科	血液内科	4名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修	1～2名	1～2年
前橋赤十字病院	内科	血液内科	2名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修	1～2名	1～2年
公立藤岡総合病院	内科	血液内科	2名	内科全般、血液内科、診療の研修	1～2名	1～2年
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

臨床研修必修化以前は、医学部卒業後、群馬大学第三内科医会（血液グループ）に入会した医師に対して、1～2年毎に大学病院、関連病院のローテーションを行い

ながら、内科医ならびに各専門医のトレーニングを行ってきた。また臨床研修必修化後は、2年間の初期臨床研修修了後に入会した医師に対して、同様のトレーニングを行っている。最近の新規受け入れ数は、2007年2名、2009年2名、2010年5名である。

#### (4) コースの指導状況

各施設とも各学会の施設認定を受けており、専門医取得を目指した研修プログラムが遂行されている。そして受け入れ医師数と同数あるいはそれ以上の指導医のもと、日々の診療において、濃密な指導がなされている。また専門医としての幅広い知識が得られるよう、血液グループ全体で勉強会や研究会を開催している。さらに経験症例の学会発表、論文作成の指導も積極的に行っている。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院を含む）での内科研修1年以上＝計3年以上</li> <li>2. 臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）</li> </ol>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、西群馬病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。</p>	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、受験申込年度までの会費を完納し、次の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 （計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</li> <li>2. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</li> </ol>

学会の連携等の概要

前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、西群馬病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。

学会等名	日本血液学会
資格名	日本血液学会血液専門医
資格要件	(1) 日本内科学会認定医である者 (2) 本会の会員歴が継続して3年以上であること (3) 卒後6年以上の臨床研修、3年以上日本血液学会が認定した研修施設で研修を修了している者 (4) 臨床血液学に関係した筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者
学会の連携等の概要	
群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、西群馬病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院は日本血液学会認定の研修施設である。	

学会等名	日本臨床腫瘍学会
資格名	がん薬物療法専門医
資格要件	1) 申請時点で2年以上継続して学会員であること（専門医制度規則第13条1）。 2) 申請時において5年以上がん治療に関する研究活動を行っていること、およびがん治療に関する十分な業績があること（規則第13条および細則第12条）。 3) 研修認定施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2年以上臨床研究を行い、これを修了した者。 各科の基本となる学会の認定医あるいは専門医の資格を有していること。
学会の連携等の概要	
群馬大学医学部附属病院、西群馬病院、前橋赤十字病院は日本臨床腫瘍学会の認定施設である。	

学会等名	日本輸血細胞治療学会
資格名	輸血認定医
資格要件	1) 申請時点で5年以上継続して学会員であること。 2) 研修認定施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2年以上臨床研究を行い、これを修了した者。 3) 学術論文、学会発表の業績発表により、認定医申請の資格審査基準に必要な単位を取得していること。（以上、専門医制度規則

第11条1-3)
----------

学会の連携等の概要

群馬大学医学部附属病院は日本輸血細胞治療学会の認定施設である。

コース責任者名：野島美久

コース担当者名：半田寛

指導医名：塚本憲史、斉藤貴之、内海英貴、横濱章彦、三井健揮、  
星野匠臣

第三内科 HP : <http://mcs.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.html>

13 : 血液・腫瘍内科・大学院コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医、血液専門医、がん薬物療法専門医、  
輸血細胞治療学会認定医

### (1) コースの全体像

本コースでは、内科、血液、がん薬物療法の3つの専門医取得を目指すとともに、大学院に在学し、血液学、腫瘍学の基礎ならびに臨床研究を行い、学位を取得することを目標とする。まず1年目は内科医としての臨床的な総合力を身につけることに重点をおき、関連病院などで臨床研修を行い、2年目の大学院入学時に内科認定医を取得することを必須とする。大学院では指導教官のもと各自の研究テーマを決め、海外の一流専門誌への論文掲載を目指して、3～4年間の研究を行う。またこの期間も、研究に支障のない範囲で、外来診療などを中心に臨床研修を平行して行う。また、希望者には研究論文作成だけでなく、臨床研究論文の作成も目指すことができる。大学院卒業後は、大学病院および関連病院の血液内科で、内科学全般と血液、腫瘍の臨床研修を行い、各専門医を取得する。希望者には連携大学病院での一定期間の研修も選択することができる。その後、指導医を目指してさらに経験を積む。さらに研究を進めるため海外への研究留学、および血液疾患に関連の深い輸血認定医の取得も可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	内科	血液内科	6名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修、輸血学研修	1～6名	1～2年
済生会前橋病院	内科	血液内科	5名	内科全般、血液内科、診療の研修	1～4名	1～2年
西群馬病院	内科	血液内科	4名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修	1～2名	1～2年
前橋赤十字病院	内科	血液内科	2名	内科全般、血液内科、腫瘍学、HIV感染診療の研修	1～2名	1～2年
公立藤岡総合病院	内科	血液内科	2名	内科全般、血液内科、診療の研修	1～2名	1～2年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

最近では群馬大学第三内科医会（血液グループ）に入会した医師の約半数が、数年間の臨床研修の後に大学院に進学している。3～4年間の研究を行い、海外の一流



専門誌に論文を掲載し、学位を取得している。そして学位取得前後に、希望する各専門医の資格を取得している。最近の新規受け入れ大学院生は、2007年3名、2008年1名、2009年1名、2010年2名である。

#### (4) コースの指導状況

大学院では助教以上が指導教官となり、大学院生1～3名程度を直接指導する体制である。テーマの選択、実験遂行、学会発表、論文作成などを、きめ細やかに指導している。臨床研修については、受け入れ医師数と同数あるいはそれ以上の指導者のもと、日々の診療において濃密な指導がなされている。また専門医としての幅広い知識が得られるよう、血液グループ全体で勉強会や研究会を開催している。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること</p> <p>1. 臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院を含む）での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>2. 臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、西群馬病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。</p>	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、受験申込年度までの会費を完納し、次の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有する者</p> <p>1. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上 （計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>2. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</p>

学会の連携等の概要

前橋赤十字病院は日本内科学会の認定教育病院であり、西群馬病院、群馬県済生会前橋病院、公立藤岡総合病院は教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。

学会等名	日本血液学会
資格名	日本血液学会血液専門医
資格要件	(1) 日本内科学会認定医である者 (2) 本会の会員歴が継続して3年以上であること (3) 卒後6年以上の臨床研修、3年以上日本血液学会が認定した研修施設で研修を修了している者 (4) 臨床血液学に関係した筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者
学会の連携等の概要	
群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、西群馬病院、公立藤岡総合病院、前橋赤十字病院は日本血液学会認定の研修施設である。	

学会等名	日本臨床腫瘍学会
資格名	がん薬物療法専門医
資格要件	1) 申請時点で2年以上継続して学会員であること（専門医制度規則第13条1）。 2) 申請時において5年以上がん治療に関する研究活動を行っていること、およびがん治療に関する十分な業績があること（規則第13条および細則第12条）。 3) 研修認定施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2年以上臨床研究を行い、これを修了した者。 各科の基本となる学会の認定医あるいは専門医の資格を有していること。
学会の連携等の概要	
群馬大学医学部附属病院、西群馬病院、前橋赤十字病院は日本臨床腫瘍学会の認定施設である。	

学会等名	日本輸血細胞治療学会
資格名	輸血認定医
資格要件	1) 申請時点で5年以上継続して学会員であること。 2) 研修認定施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2年以上臨床研究を行い、これを修了した者。 3) 学術論文、学会発表の業績発表により、認定医申請の資格審査基準に必要な単位を取得していること。（以上、専門医制度規則

第11条1-3)
----------

学会の連携等の概要

群馬大学医学部附属病院は日本輸血細胞治療学会の認定施設である。

コース責任者名：野島美久

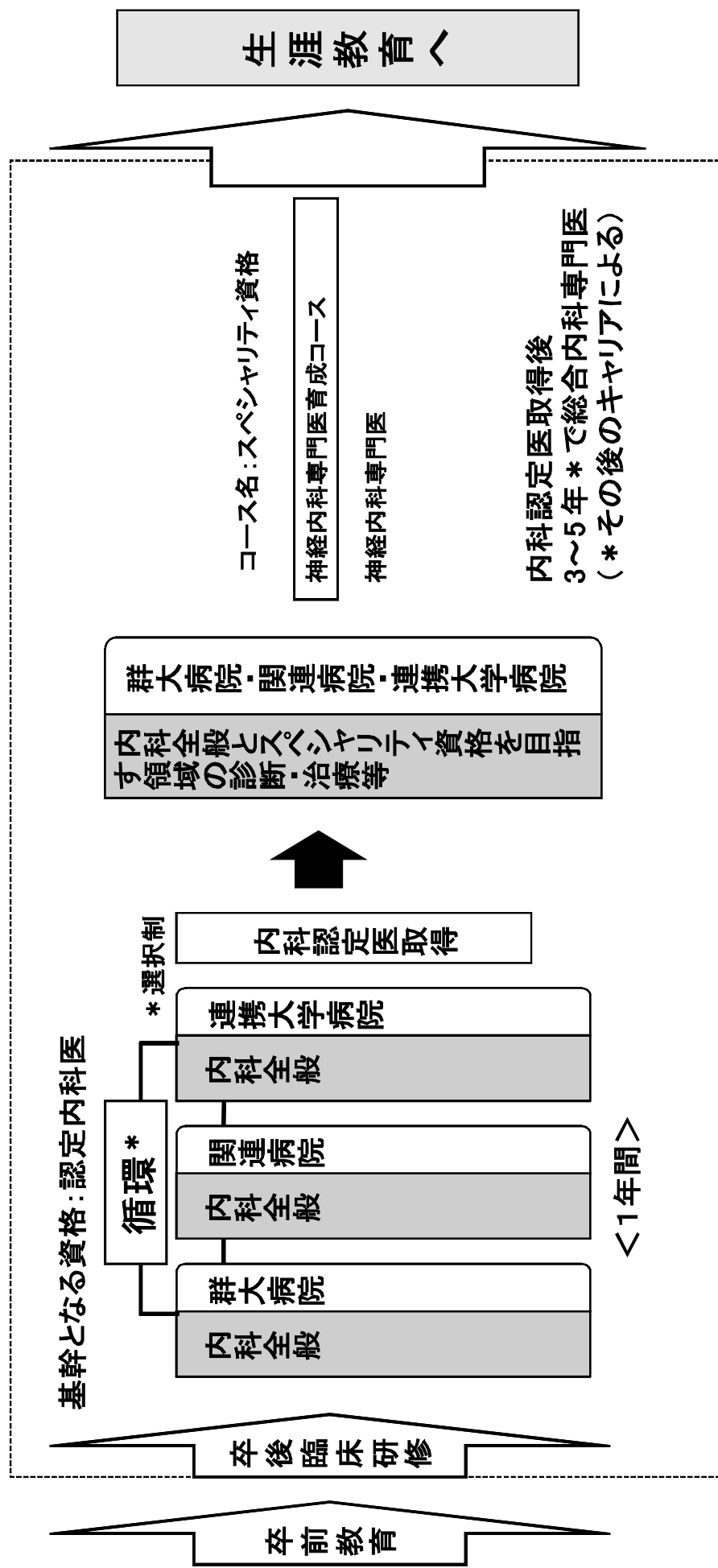
コース担当者名：半田寛

指導医名：塚本憲史、斉藤貴之、内海英貴、横濱章彦、三井健揮、  
星野匠臣

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：神経内科

14: 神経内科専門医育成コース 募集(人数10名)



神経内科 HP : <http://neurology.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

#### 14 : 神経内科専門医育成コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 神経内科専門医、総合内科専門医

##### (1) コースの全体像

後期専門研修開始後、基本的に大学病院・関連病院において神経内科全般についての知識、経験を身につける。大学病院では、脳卒中、変性疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患・筋疾患、神経感染など多岐にわたる神経内科疾患についての研修を積み、診断・治療への組み立てを理解する。また、神経生理検査、神経病理検査などの手技を身につけ、その所見を各自で評価し診断・治療にいかせることを目標とする。関連病院では脳卒中を中心とした救急疾患を中心に神経内科疾患の診療にあたる。後期専門研修2年目には認定内科医を取得し、その後、大学病院で専門分野の診療・研究を行いながら神経内科専門医の取得を目指す。研修期間中には、連携大学病院においてそれぞれの得意分野についての研修をすることで、知識・手技を深めることも可能である。本コースにより急性期疾患から神経難病まで幅広い知識と経験を有した神経内科専門医となることが出来る。神経内科専門医取得時には総合内科専門医の受験資格を得ていることも多く、神経内科専門医と共に取得可能である。なお、当科での研修後期研修終了後は随時大学院へ進学し、学位取得を目指すこともできる。

##### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	神経内科	神経内科	4	神経疾患の専門的診療能力の修得	5	2～3年
前橋赤十字病院	神経内科	神経内科	2	神経疾患の専門的診療能力の修得	1	1～2年
老年病研究所附属病院	神経内科	神経内科	1	神経疾患の専門的診療能力の修得	1	1～2年
伊勢崎市民病院	神経内科	神経内科	1	神経疾患の専門的診療能力の修得	1	1～2年
				受入人数	8名	

##### (3) コースの実績

受験資格を満たした医師は神経内科専門医試験を受験し、ほぼ全員が資格を獲得している。

##### (4) コースの指導状況

大学病院では、教官および上級医とチームを組み、入院患者および外来患者の診

療にあたっている。週 1 回行われる教授回診、外来カンファレンスでは入院患者と外来患者の症例検討会を行い、教育・指導体制を充実させている。神経生理、神経病理などの検査についてはそれぞれを専門とする指導医を中心に手技、標本の観察などの指導を行っている。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	下記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了した者 1. 臨床研修 2 年 + 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上（その内 1 8 か月間以上、内科研修していること） 2. 臨床研修 2 年 + 教育関連病院での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上（その内 1 8 か月間以上、内科研修していること）
学会の連携等の概要	

学会等名	日本神経学会
資格名	神経内科専門医
資格要件	取得の要件： 1. 受験時に初期研修を含め臨床研修歴が6年以上あり、本学会会員歴を3年以上有する者。2. 認定内科医であること。3. 研修期間のうち本学会が認定する教育施設・教育関連施設における研修が、次のいずれかを満たすもの。 A (1) 教育施設で3年以上。(2) 教育施設で2年以上と教育関連施設で1年以上。(3) 教育関連施設で4年以上。 B (1) 教育施設で3年以上。(2) 教育施設で2年以上と教育関連施設で1年以上。(3) 教育施設で1年以上と教育関連施設で3年以上。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、2011年度までの会費を完納し、※認定内科医資格取得後、次の1～5のいずれかに該当する内科研修歴を有する者および下記研修歴を試験日までに修了見込みの者。 以下の教育病院および教育関連病院は本会が認定したものを指す。

	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修3年以上</li> <li>2. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修2年以上 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上</li> <li>3. 教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上 + 教育関連病院での内科研修2年以上 = 計3年以上</li> <li>4. 教育関連病院での内科研修5年以上</li> <li>5. 教育病院での内科研修1年以上 + 無認定病院での内科研修2年以上（要派遣証明書） = 計3年以上 ・教育病院（大学病院含む）から内科研修の一環として本会が認定していない病院へ派遣された場合は、教育病院からの“派遣証明書”を以って無認定病院での内科研修および症例の提出を認める。</li> </ol>
<p>学会の連携等の概要</p>	

コース責任者名：岡本幸市

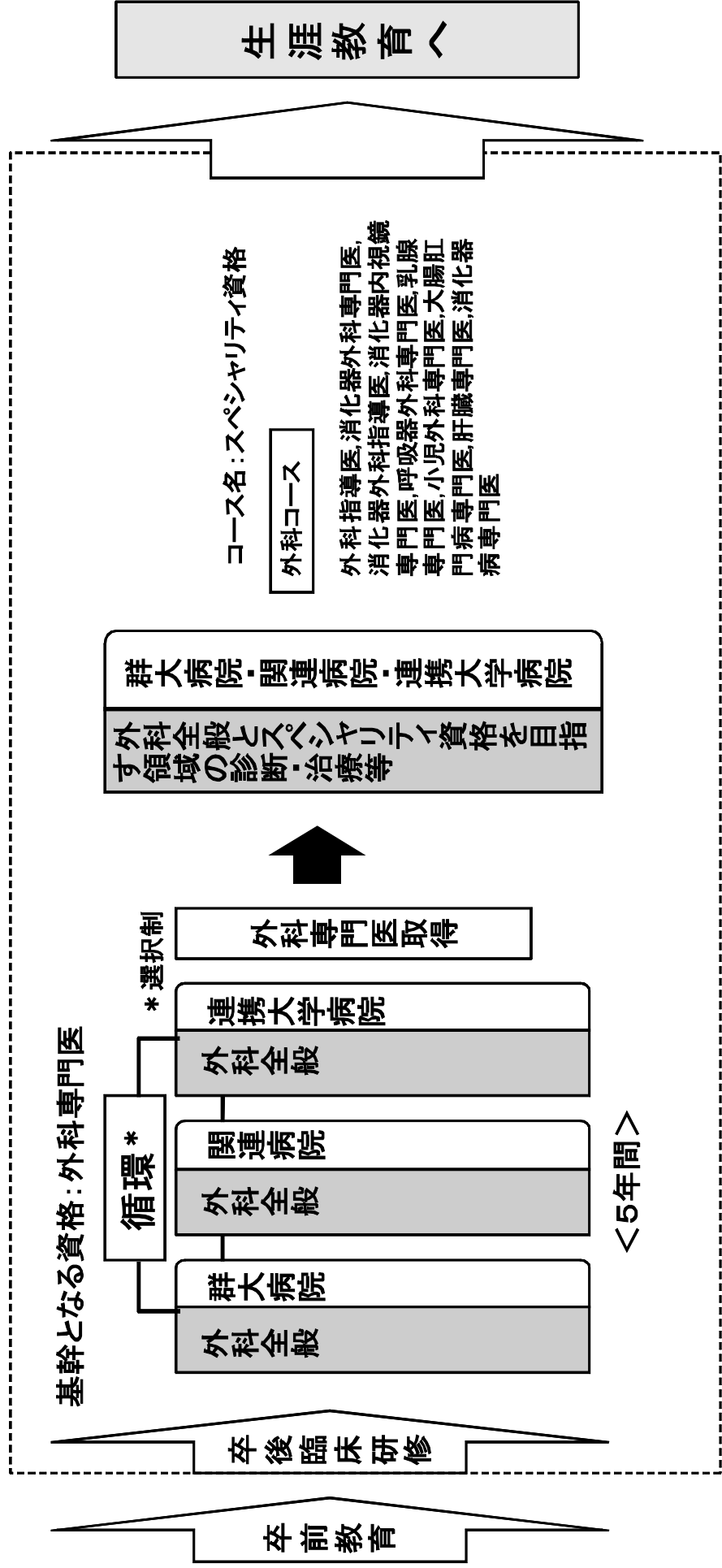
コース担当者名：藤田行雄

指導医名：池田将樹、水野裕司、藤田行雄、田野しのぶ

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：第一外科

15：外科コース 募集(人数10名)





第一外科 HP : <http://surgery.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

15 : 外科コース

基幹となる資格名 : 外科専門医

スペシャリティ資格名 : 日本外科学会指導医、消化器外科専門医、  
日本消化器外科学会指導医、消化器内視鏡専門医、  
大腸肛門病専門医、呼吸器外科専門医、乳腺専門医、  
小児外科専門医、肝臓専門医、消化器病専門医

### (1) コースの全体像

基盤学会の専門医である外科専門医の取得後、関連病院等での Sub specialty に向けての研修を行い、消化器外科学会専門医、消化器病学会専門医、大腸肛門病学会専門医、胸部外科学会専門医、呼吸器外科学会専門医、小児外科学会専門医、乳癌学会専門医、消化器内視鏡学会専門医の資格を取得する。  
臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。  
連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・ 医療機関名	診療 科名	専門分 野名	指導 者数	目 的	養成(受 入)人数	期 間
群馬大学 医学部附属病院	第一 外科		17名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	10名	5～10 年
原町赤十字病院	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成		5～10 年
利根中央病院	外科		4名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成		5～10 年
済生会前橋病院	外科		5名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
伊勢崎市民病院	外科		10名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
群馬県立 がんセンター	外科		7名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成		5～10 年
群馬県立 心臓血管センター	外科		2名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成		5～10 年
公立藤岡総合病院	外科		6名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
さいたま赤十字病院	外科		5名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
群馬県立 小児医療センター	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年

鬼石病院	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
群馬中央総合病院	外科		6名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
埼玉医科大学 総合医療センター	外科		5名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	3名	5～10 年
日高病院	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
近森病院	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
東邦大学医療センター 佐倉病院	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
国立病院機構 宇都宮病院	外科		2名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
館林厚生病院	外科		2名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
獨協医科大学	外科		2名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
獨協医科大学 越谷病院	外科		1名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	1名	5～10 年
埼玉県立循環器呼吸 器病センター	外科		3名	外科・腫瘍学関連の専門 医の育成	2名	5～10 年
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

これまでに外科専門医 108 名、指導医 29 名、日本消化器外科学会専門医 56 名、指導医 22 名、日本消化器病学会専門医 53 名、指導医 11 名、日本呼吸器外科学会専門医 3 名、日本小児外科学会専門医 4 名、指導医 3 名、日本乳癌学会専門医 1 名、認定医 11 名、日本大腸肛門病学会専門医 10 名、指導医 7 名、日本消化器内視鏡学会専門医 36 名、指導医 3 名、臨床腫瘍学会がん化学療法専門医 1 名、取得している。

### (4) コースの指導状況

- ・日本外科学会指導施設
- ・日本消化器外科学会認定施設
- ・日本消化器病学会認定(関連)施設
- ・日本胸部外科学会指定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設

- ・日本小児外科学会認定施設
- ・日本乳癌学会認定、関連施設
- ・日本胸部外科学会、呼吸器外科専門医認定修練施設
- ・臨床腫瘍学会研修施設

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医、指導医
資格要件	<p>専門医申請者は、申請時において、次の各号の修練の実績を有していること。</p> <p>1. 診療経験</p> <p>修練開始登録を申請した後に、学会が定めるすべての手術例数を含み、かつ、別に定める350例以上の手術に従事し、そのうち術者として120例以上の手術を行っていること。</p> <p>イ) 消化管及び腹腔内臓50例</p> <p>ロ) 乳腺10例</p> <p>ハ) 呼吸器10例</p> <p>ニ) 心臓及び大血管10例</p> <p>ホ) 頭蓋内血管を除く末梢血管10例</p> <p>ヘ) 頭頸部及び体表並びに内分泌外科10例</p> <p>ト) 小児外科10例</p> <p>チ) 外傷10例</p> <p>リ) 腹腔鏡及び胸腔鏡を含む鏡視下手術10例</p> <p>2. 業績</p> <p>修練開始登録を申請した後に、筆頭者として学術集会又は学術刊行物に研究発表又は論文発表をしていること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>外科の基盤学会である。</p>	

学会等名	日本消化器外科学会
資格名	指導医、専門医、認定医
資格要件	<p>専門医申請者の資格</p> <p>1. 日本外科学会認定医又は外科専門医であること。</p> <p>2. 継続3年以上本会会員であること。</p> <p>3. 臨床研修修了後、指定修練施設において所定の修練カリキュラムに従い、通算5年間以上の修練を行っていること。</p> <p>4. 所定の診療経験を有すること。指定修練施設における修練期間中に手術難易度・到達度別必須症例及び必須主要手術の術者としての規定例数を含む450例以上の経験を必要とする。</p>

	<p>5. 所定の業績を有すること。消化器外科に関する筆頭者としての研究発表を6件以上（論文3編を含む）有すること。</p> <p>6. 所定の研修実績を有すること。申請までの期間に本会総会に1回以上及び本会教育集会の全6領域に出席し、総会は参加証で、教育集会は受講証によって証明できるものとする。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>消化器病のSub specialtyとしての資格を認定している。</p>	

学会等名	日本消化器病学会
資格名	指導医、専門医、認定医
資格要件	<p>1. 申請時において継続3年以上本学会の会員であること。</p> <p>2. 申請時において認定内科医、外科専門医、放射線科専門医、小児科専門医のいずれかの資格を有すること。</p> <p>3. 認定内科医資格取得に必要な所定の内科臨床研修修了の後3年以上、外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後2年以上、放射線科専門医資格取得に必要な所定の放射線科臨床研修修了の後2年以上、あるいは小児科専門医資格取得に必要な所定の小児科臨床研修修了の後2年以上、本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>消化器病のSub specialtyとしての資格を認定している。</p>	

学会等名	日本胸部外科学会
資格名	指導医、専門医
資格要件	<p>1. 外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること。</p> <p>2. 卒後修練期間7年以上を有すること。</p> <p>3. 認定修練施設において3年以上の修練期間を有すること。</p> <p>4. 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。</p> <p>5. 呼吸器外科学に関する別に定める一定の業績および研修実績を有すること。</p> <p>6. 特定非営利活動法人日本呼吸器外科学会および特定非営利活動法人日本胸部外科学会の会員であり、3年以上の会員歴を有すること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>胸部外科のSub specialtyとしての資格を認定している。</p>	

学会等名	日本消化器内視鏡学会
資格名	専門医、指導医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 申請時において、5年以上継続本学会会員であること。</li> <li>2. 指導施設において5年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。</li> <li>3. 申請時において日本内科学会認定医または日本外科学会認定医もしくは専門医のいずれかの資格を有すること。</li> </ol>
学会の連携等の概要	
消化器内視鏡のSub specialtyとしての資格を認定している。	

学会等名	日本呼吸器外科学会
資格名	指導医、専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること。</li> <li>2. 卒後修練期間7年以上を有すること。</li> <li>3. 認定修練施設において3年以上の修練期間を有すること。</li> <li>4. 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。</li> <li>5. 呼吸器外科学に関する別に定める一定の業績および研修業績を有すること。</li> <li>6. 特定非営利活動法人日本呼吸器外科学会および特定非営利活動法人日本胸部外科学会の会員であり、3年以上の会員歴を有すること。</li> </ol>
学会の連携等の概要	
呼吸器外科のSub specialtyとしての資格を認定している。	

学会等名	日本乳癌学会
資格名	専門医、認定医
資格要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学会認定医であること。</li> <li>・ 継続5年以上本学会会員であること。</li> <li>・ 臨床研修医修了後、認定施設(関連施設を含む)において所定の修練カリキュラムにしたがい、通算5年以上の修練を行っていること。</li> <li>・ 別に定める研究及び研修業績を有すること。</li> <li>・ 別に定める診療経験を有すること。</li> </ul>
学会の連携等の概要	
乳癌のSub specialtyとしての資格を認定している。	

学会等名	日本小児外科学会
資格名	指導医、専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一定の基準をもつ施設において、3年以上の小児外科診療に専従した経歴をもつこと。</li> <li>2. 外科医として7年以上（うち5年以上は臨床研修とする）の経験を有すること。</li> <li>3. 外科専門医あるいは日本外科学会の認定医の資格を持つこと。</li> <li>4. 小児外科に関する筆頭者としての研究論文および症例報告を、それぞれ1篇以上、およびその他の論文を3篇以上発表していること。</li> </ol>
学会の連携等の概要 小児外科のSub specialtyとしての資格を認定している。	

学会等名	日本大腸肛門病学会
資格名	指導医、専門医
資格要件	<p>専門医の認定を申請する者は次の全ての条件を満たす必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 申請時に継続5年以上本学会会員である。</li> <li>2. 臨床研修修了後本学会認定施設において所定の修練カリキュラムに従い通算6年以上の修練を行っていること。</li> </ol>
学会の連携等の概要 大腸肛門病の専門医としての資格を認定している。	

コース責任者名：桑野博行

コース担当者名：浅尾高行、高橋 篤、持木彫人、鈴木秀樹、茂木 晃、  
宮崎達也、山口 悟

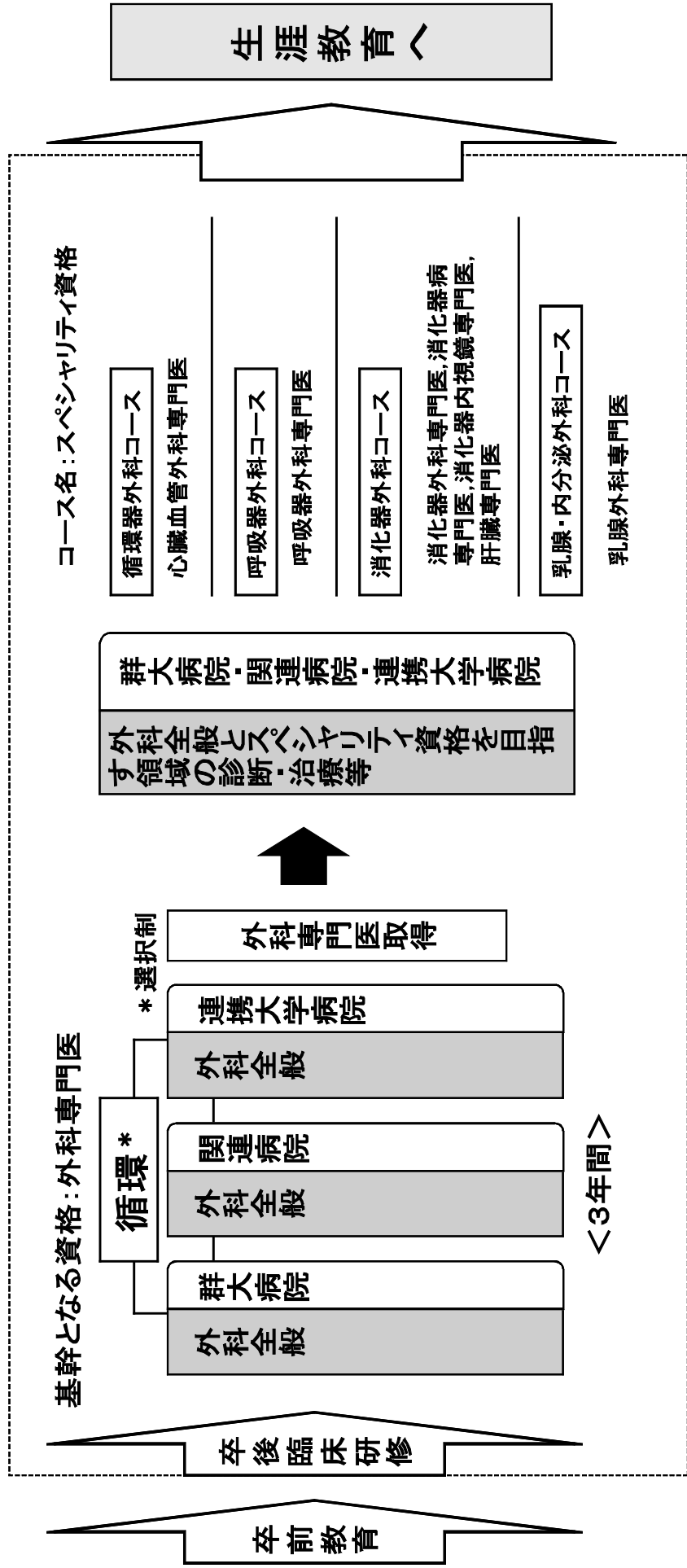
指導医名：堤 莊一、大野哲郎、高坂貴行、藤井孝明、佐々木 滋、猪瀬崇徳、  
緒方杏一、新木健一郎、田中成岳

関連病院指導医名：内田信之、安藤 哲、郡 隆之、根本雅明、鈴木則夫、  
平澤敏昭、工藤通明、石崎政利、野口俊昭、大沢清孝、  
西田保二、細内康男、内藤 浩、福地 稔、中林利博、  
根岸 健、田中司玄文、大沢秀信、尾嶋 仁、柳田康弘、  
中村純一、芳賀紀裕、長谷川忠、北村龍彦、加藤広行

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：第二外科

- 16: 循環器外科コース 募集(人数3名)
- 17: 呼吸器外科コース 募集(人数3名)
- 18: 消化器外科コース 募集(人数3名)
- 19: 乳腺・内分泌外科コース 募集(人数6名)



第二外科 HP : <http://www.gunma-u-surgery2.com/>

16 : 循環器外科コース

基幹となる資格名 : 外科専門医

スペシャリティ資格名 : 心臓血管外科専門医

### (1) コースの全体像

心臓血管外科専門医の取得前に基盤学会である日本外科学会専門医を取得する必要がある。そのため心臓血管領域のみならず、呼吸器外科や内分泌外科、消化器外科等を研修する。その後、大学病院および関連病院等で研修を行い、心臓血管外科専門医の資格を取得する。

また臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。希望により連携大学病院や他の臨床、研究施設での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	循環器外科(2)		3名	循環器外科疾患の専門的診療能力の取得	3名	2年間
群馬県立心臓血管センター	心臓血管外科		4名	循環器外科疾患の専門的診療能力の取得	2名	2年間
				受入人数	3名	

### (3) コースの実績

群馬大学医学部附属病院 循環器外科(2)

1. 循環器外科入院病床数 : 10床
2. 心臓血管外科専門医数 : 3名
3. 循環器外科手術診療実績 : 約70例/年

群馬県立心臓血管センター 心臓血管外科

1. 心臓血管外科専門医数 : 4名
2. 心臓血管外科手術診療実績 : 約380例/年

### (4) コースの指導状況

群馬大学医学部附属病院循環器外科(2)では、心臓血管外科専門医2名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週1回の回診ならびに週1回の入院患者全症例および手術予定患者を対象としたカンファランスを行い、教育指導の充実を図っている。



(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	日本外科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	心臓血管外科専門医認定機構
資格名	心臓血管外科専門医
資格要件	1) 日本国の医師免許証を有すること。 2) 日本外科学会認定医、あるいは外科専門医または外科専門医筆記試験合格者であること。 3) 卒後修練期間 7 年以上を有すること。 4) 認定修練施設において 3 年以上の修練期間を有すること。 5) 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。(心臓血管外科専門医認定のための臨床経験評価方式) 6) 心臓血管外科学に関する別に定める一定の業績(学会発表、論文発表) および研修実績(学会参加) を有すること。(申請に必要な業績と研修実績) 7) 日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会のうちの少なくとも 2 学会の会員であり、3年以上の会員歴を有すること。 8) 主たる認定修練施設の指導責任者からの申請者の評価を含めた推薦状を添付すること。推薦状には指導責任者の自筆署名と署名日を付けること。
学会の連携等の概要	
外科、循環器疾患のSub specialtyとしての資格を認定している。	

コース責任者名：竹吉泉

コース担当者名：高橋徹

指導医名：茂原淳

第二外科 HP : <http://www.gunma-u-surgery2.com/>

17 : 呼吸器外科コース

基幹となる資格名 : 外科専門医

スペシャリティ資格名 : 呼吸器外科専門医

### (1) コースの全体像

本コースは、呼吸器外科専門医の取得を目標とする。  
初期臨床研修修了後、1年間は心臓血管・消化器・乳腺・呼吸器外科及び初期臨床研修中に研修できなかった専門外科で研修を積み、外科専門医の取得の必要条件を満たす。その後1年間呼吸器外科にて、呼吸器外科グループの病棟医を担当する。この期間に指導医による直接の指導に加え、週一回の教授回診および症例検討会等を通じて、呼吸器外科疾患の診療の基本を学ぶ。その後2年間は、関連病院にて地域医療に貢献すると共に、呼吸器外科の基礎的な手技や周術期管理、胸部外傷の治療などを学びながら外科学会専門医を取得する。その後、大学病院の呼吸器外科で臨床腫瘍学を学びながら、呼吸器外科領域の手術手技や病棟管理と専門外来を担当する。研修期間に呼吸器外科臨床に関する学会発表を少なくとも5回、および論文発表を少なくとも3編行い、呼吸器外科専門医の受験資格を得て呼吸器外科専門医を取得する。

また臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。希望により連携大学病院や他の臨床、研究施設での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	心臓血管・消化器・乳腺・呼吸器外科	外科学全般	9名	外科専門医取得のため、必要な各専門外科にて研修を行う		1年間
群馬大学医学部附属病院	呼吸器外科	呼吸器外科	2名	呼吸器外科疾患の専門的診療能力の修得		1年間
西群馬病院	呼吸器外科	呼吸器外科	3名	呼吸器外科疾患の専門的診断能力、手術手技、周術期管理、胸部外傷に対する診療能力の修得		1～2年間
前橋赤十字病院			2名	胸部外傷に対する診療能力の修得		
群馬大学医学部附属病院	呼吸器外科	呼吸器外科	2名	臨床腫瘍学の習得呼吸器外科専門医の取得を目指す		

高崎総合医療センター	呼吸器外科	呼吸器外科	1名	呼吸器外科疾患に対する専門的診療能力の取得		
				受入人数	3名	

### (3) コースの実績

1. 呼吸器外科入院病床数：約 50 床（大学＋西群馬病院＋前橋赤十字病院）
2. 呼吸器外科指導医および専門医数：7 名（大学＋西群馬病院＋前橋赤十字病院＋高崎総合医療センター）  
外来患者数：約 160 名/週
3. 呼吸器外科年間手術症例数（大学＋西群馬病院＋前橋赤十字病院）
  - i) 肺癌：約 300 例、
  - ii) 気胸：約 100 例、
  - iii) 縦隔腫瘍：約 40 例、
  - iv) 転移性肺腫瘍：約 40 例、
  - v) 良性腫瘍：約 30 例、
  - vi) その他：約 130 例

### (4) コースの指導状況

本病院では

- 1)呼吸器（外科・内科・放射線科・画像診断）グループ全員参加の症例検討会（毎週火）
- 2)外科全体で、診療状況確認（月～金の毎朝）
- 3)呼吸器外科に関する抄読会（毎週水）
- 4)呼吸器外科手術症例中心のカンファレンス（毎週金）
- 5)予定手術は、呼吸器外科（火、木）その他緊急手術は随時対応

西群馬病院では

- 1) 呼吸器（外科・内科）グループ全員参加の症例検討会（毎週火）
- 2) 外科全体で、手術症例中心のカンファレンス（毎週火）
- 3) 予定手術は、呼吸器外科（月、火）

前橋赤十字病院では

- 1) 呼吸器（内科・外科）グループ全員参加の症例検討会（毎週火）
- 2) 外科全体での手術中心のカンファレンス（毎週月）
- 3) 予定手術は、呼吸器外科（火、水、金）

高崎総合医療センターでは

- 1) 呼吸器（内科・外科・放射線科・画像診断）グループ全員参加の症例検討会（毎週木）
- 2) 呼吸器外科中心の病棟カンファレンス（毎週月）
- 3) 予定手術は、呼吸器外科（月、金）

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	日本外科学会の規定による

学会の連携等の概要

学会等名	日本呼吸器外科学会
資格名	呼吸器外科専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続7年以上日本呼吸器外科学会の会員であること。</p> <p>(2) 申請時において、外科専門医あるいは日本外科学会認定医であること</p> <p>(3) 医療安全などに関する研修を2回以上受けていること (この研修は学会、医師会あるいは各施設などの主催であってもよいが参加を証明できる書類が必要である)</p> <p>(4) 日本呼吸器外科学会総会又は日本胸部外科学会学術集会に計5回以上参加していること</p> <p>(5) 日本呼吸器外科学会呼吸器外科セミナー、あるいは日本胸部外科学会Postgraduate Course (旧 卒後教育セミナー) に計2回以上参加していること</p> <p>(6) 日本呼吸器外科学会の認める全国あるいは地方開催の胸腔鏡セミナーないし講習会に2回以上参加している</p> <p>(7) 呼吸器外科に関する全国規模の学会において筆頭で5回以上の学会発表があること。</p> <p>(8) 査読制度のある論文発表が3編以上あり、少なくとも1編は筆頭者であること。</p> <p>(9) 術者として50例以上、助手として100例以上の手術経験があること。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>外科専門医ならびに呼吸器外科認定医試験資格においてはある程度の学会入会年数が必要なため初期臨床研修医時早期に入会することが望ましい。</p>	

コース責任者名：竹吉泉

コース担当者名：清水公裕

指導医名：中野哲宏

第二外科 HP : <http://www.gunma-u-surgery2.com/>

18 : 消化器外科コース

基幹となる資格名 : 外科専門医

スペシャリティ資格名 : 消化器外科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、  
肝臓専門医、内視鏡外科技術認定

### (1) コースの全体像

基盤学会である日本外科学会専門医を取得後、大学病院および関連病院等で研修を行い、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本内視鏡外科学会等の専門医の資格を取得する。

また臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。希望により連携大学病院や他の臨床、研究施設での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導 者数	目的	養成(受 入)人数	期 間
群馬大学医学 部附属病院	消化器外科 (2)		10名	消化器疾患の専門 的診療能力の取得	5名	2年間
埼玉県立がん センター	消化器外科		6名	消化器疾患の専門 的診療能力の取得	3名	2年間
				受入人数	3名	

### (3) コースの実績

群馬大学医学部附属病院 消化器外科(2)

1. 消化器外科入院病床数 : 25 床
2. 消化器外科専門外来担当指導医および専門医数 : 10 名
3. 消化器外科手術診療実績 : 約 300 例/年

埼玉県立がんセンター 消化器外科

1. 消化器外科入院病床数 : 60 床
2. 消化器外科専門外来担当指導医および専門医数 : 6 名
3. 消化器外科手術診療実績 : 約 700 例/年

### (4) コースの指導状況

群馬大学医学部附属病院消化器外科(2)では、外科学会指導医 2 名および消化器外科専門医 5 名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週 1 回の回診ならびに週 1 回の入院患者全症例および手術予定患者を対象としたカンファランスを行い、教育指導の充実を図っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	日本外科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本消化器外科学会
資格名	専門医、認定医
資格要件	<p>専門医申請者の資格</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許を有し、日本外科学会認定医又は外科専門医であること。</li> <li>2. 継続3年以上本会会員であること。</li> <li>3. 臨床研修修了後、指定修練施設において所定の修練カリキュラムに従い、通算5年間以上の修練を行っていること。</li> <li>4. 所定の診療経験を有すること。専門医修練カリキュラムⅠ（新）に示された手術については、指定修練施設における修練期間中に手術難易度・到達度別必須症例及び必須主要手術の術者としての規定例数を含む450例以上の経験を必要とする。</li> <li>5. 所定の業績を有すること。消化器外科に関する筆頭者としての研究発表を6件以上（論文3編を含む）とし、対象となる業績は、「本会評議員審査のための業績基準」に定められた「医学雑誌」及び「学会の学術集会（総会・大会：地方会は除く）」に発表されたもので、資格認定委員会が判定する。</li> <li>6. 所定の研修実績を有すること。申請までの期間に本会総会に1回以上及び本会教育集会の全6領域に出席し、総会は参加証で、教育集会は受講証によって証明できるものとする。</li> </ol>
学会の連携等の概要	
消化器病のSub specialtyとしての資格を認定している。	

学会等名	日本消化器病学会
資格名	消化器病専門医
資格要件	<p>専門医認定を申請する者は、次の条件を全て満たすことを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。</li> <li>2. 申請時において継続4年以上本学会の会員であること。</li> <li>3. 会員として本学会が主催するポストグラデュエイトコース、支部教育講演会、JDDWが主催するJDDW教育講演のい</li> </ol>

	<p>ずれかに1回以上の出席があること。但し、半日単位の支部教育講演会は2回以上の出席があること。</p> <p>4. 申請時において外科専門医の資格を有すること。</p> <p>5. 認定内科医資格取得に必要な所定の外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後2年以上、本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本消化器内視鏡学会
資格名	消化器内視鏡専門医
資格要件	<p>専門医の認定基準・申請資格は次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国の医師免許証を有すること。</li> <li>2. 申請年度の6月30日を基準として、5年以上継続本学会会員であること。</li> <li>3. 指導施設において5年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。</li> <li>4. 申請時において日本外科学会専門医の資格を有すること。</li> </ol>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本肝臓学会
資格名	肝臓専門医
資格要件	<p>専門医の認定を申請するものは、次の各号の条件を全て満たすものであることを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本国の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えている者</li> <li>(2) 申請時において本学会の会員である者</li> <li>(3) 日本外科学会専門医資格を有する者。</li> <li>(4) 2年間の一般研修を終了後、本規則に定める認定施設、関連施設又は日本消化器病学会専門医制度による認定施設、関連施設において、別に定める本学会専門医研修カリキュラムに従って、5年以上の肝臓病学の臨床研修を終了した者。</li> </ol> <p>ただし、このうち少なくとも1年は本規則に定める認定施設、関連施設において研修を行うことを要する。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内視鏡外科学会
資格名	内視鏡外科技術認定
資格要件	<p>技術認定を申請する者（以下、申請者と略記）は、次に定めるすべての資格を要する。なお、各領域の申請資格の細則は、施行細則第7条に示す。</p> <p>1) 申請時に本学会会員であること。</p> <p>2) 第1診療科群に属する領域の専門医取得以後、2年以上内視鏡外科の修練を行っていること。あるいは各領域で指定する専門医であること。</p> <p>3) 各領域の主要な内視鏡下手術を独立した術者として遂行できる技量を持っていること。</p> <p>4) 本学会ならびに関連学会が主催する、あるいはこれら学会が公認あるいは後援する内視鏡外科に関する教育セミナーに参加していること。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：竹吉泉

コース担当者名：須納瀬豊

指導医名：吉成大介、戸塚統、戸谷裕之



第二外科 HP : <http://www.gunma-u-surgery2.com/>

19 : 乳腺・内分泌外科コース

基幹となる資格名 : 外科専門医

スペシャリティ資格名 : 乳腺専門医

### (1) コースの全体像

乳腺専門医の取得には外科専門医を先行して取得する必要がある。外科専門医をまず取得し、乳腺専門医を取得するコースの場合には初期研修修了後、群馬大学附属病院で外科全般を研修し、日本外科学会専門医を取得する。引き続き、日本乳癌学会認定医を取得し、その後は申請担当大学病院において、乳腺、内分泌外科の研修を行い、乳腺専門医、甲状腺・内分泌外科専門医および日本外科学会指導医を取得する。日本外科学会専門医および日本乳癌学会認定医を取得後に乳腺外科コースと内分泌外科コースに参画することも可能である。乳腺外科参画コースでは、乳癌症例の多い埼玉県立がんセンター乳腺外科での研修が可能であり、内分泌外科コースでは、群馬大学医学部附属病院において甲状腺、上皮小体、副腎の外科研修が可能である。

また臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。希望により連携大学病院や他の臨床、研究施設での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	乳腺外科	乳腺外科	6名	乳腺疾患の専門的診療能力の修得	3名	2年間
埼玉県立がんセンター	乳腺外科	乳腺外科	3名	乳腺疾患の専門的診療能力の修得	3名	2年間
				受入人数	6名	

### (3) コースの実績

1. 乳腺内分泌外科入院病床数 : 7床
2. 乳腺外科専門外来担当指導医および専門医数 : 6名  
外来患者数 : 約 500 名/週
3. 乳腺内分泌外科手術診療実績
  - i) 乳腺疾患 : 約 280 例/年間
  - ii) 甲状腺疾患 : 約 100 例/年間
  - iii) 副甲状腺疾患 : 約 10-20 例/年間、
  - iv) 副腎疾患 : 10-20 例/年間

### (4) コースの指導状況

群馬大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科(2)では外科学会指導医1名および乳腺専門医6名、甲状腺・内分泌外科専門医3名で病棟ならびに外来における専門的診療指導を行っている。診療部長・科長による週1回の回診ならびに週2回入院患者全症例を対象にした症例検討会を開催し、教育指導の充実を図っている。関連

病院である埼玉県立がんセンターには、乳腺専門医 4 名が常勤しており、外来・入院担当医に専門的指導を行っている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	日本外科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本乳癌学会
資格名	乳腺専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、乳癌学会の認定医であること。継続5年以上日本乳癌学会の会員であること。(休会期間は会員歴には含まれません。)</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医(または専門医)として認められている者。内科系にあつては日本内科学会認定医、放射線系にあつては日本放射線医学学会の認定医として認められている者。</p> <p>(3) 臨床研修修了後、認定施設(関連施設を含む)において所定の修練カリキュラムにしたがい通算5年以上の修練を行っていること。ただし、平成15年迄の医師免許取得者は、医師免許取得後7年以上修練し、そのうち5年以上は認定施設において所定の修練カリキュラムに従い修練を行っていること。</p> <p>(4) 別に定める研究および研修業績を有すること。</p> <p>(5) 別に定める診療経験を有すること。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：竹吉泉

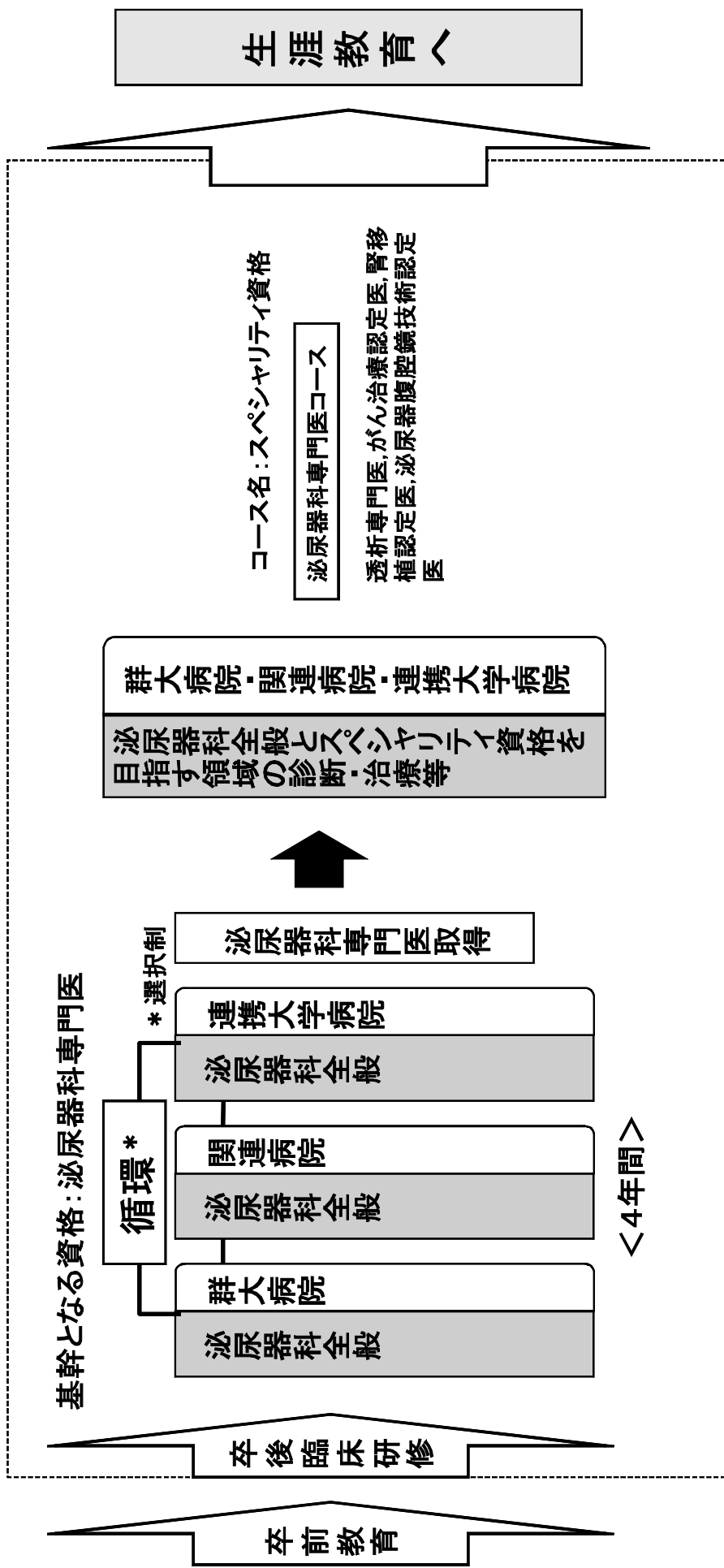
コース担当者名：堀口淳

指導医名：高他大輔、六反田奈和、長岡りん

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：泌尿器科

20：泌尿器科専門医コース 募集(人数5名)



泌尿器科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=528>

## 20 : 泌尿器科専門医コース

基幹となる資格名 : 泌尿器科専門医

スペシャリティ資格名 : 透析専門医、がん治療認定医、腎移植認定医、  
泌尿器腹腔鏡技術認定医

### (1) コースの全体像

泌尿器科専門医取得に向けて、初期研修では3ヶ月から6ヶ月の泌尿器科研修を経験後、後期専門研修を開始することを推奨する。泌尿器科診療の基礎技術の習得のため、群馬大学医学部附属病院泌尿器科で1年研修を行ったのち、群馬大学泌尿器科教育基幹病院においてさらに研修を行う。研修4年目9月に専門医試験受験、その後、研修内容をまとめる認定申請に向けて、経験症例、経験手術などをバランスよく研修するようになっている。また希望者は連携大学病院での研修を選択することもできる。

専門医取得後は、さらにキャリアをつむことが必要で、指導医になるべく、泌尿器科全般の診療技術の更なる向上を目指しつつ、サブスペシャリティの選択も可能となる。泌尿器科悪性腫瘍、内視鏡手術、腎移植、透析など様々な分野に対応すべく、適切な施設の設定をおこなって、ニーズに対応する。

希望者は専門医研修2年修了以後に臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。通常大学院では、群馬大学医学部附属病院に籍をおいて、臨床技術を磨きつつ研究活動を行う。夜間大学院では、通常研修を行いつつ研究に従事する。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	泌尿器科	泌尿器科全般	10	泌尿器科診療の基礎および高度医療の習得	年5人	1年ごとの循環コース
群馬大学泌尿器科教育基幹病院	泌尿器科	泌尿器科全般	各施設3以上	群馬大学医学部附属病院から始まる泌尿器科専門医研修の一環として、泌尿器科診療(診断・手術など)の専門教育を受ける	年5人	
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績

平成16年から22年までに8名のコース選択があり、教育基幹病院にて専門教育

を受けており、それぞれの学年に応じて、泌尿器科疾患に対する診断・治療技術の向上が認められる。

#### (4) コースの指導状況

群馬大学泌尿器科教育基幹病院（8施設）では、大学で10名、その他の基幹施設では、4名から3名の指導医が指導にあたっている。毎年、施設の手術数などを見直し、教育施設として適切かを判断し、指導を行っている。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本泌尿器科学会
資格名	泌尿器科専門医
資格要件	研修開始宣言後4年間の研修で、試験および書類審査がある
学会の連携等の概要 日本泌尿器科学会に入会し、基幹教育施設（学会認定）で2年以上の教育が義務付けられている。	

学会等名	日本透析医学会
資格名	透析認定医
資格要件	泌尿器科専門医で学会に5年以上在籍し、試験および書類審査に合格する
学会の連携等の概要 群馬大学医学部附属病院を含め、透析教育施設を群馬大学グループで有しており、サブスペシャリティとしての認定が可能	

学会等名	日本がん治療認定医
資格名	日本がん治療認定医機構
資格要件	泌尿器科専門医で、所定のがん治療に関連した教育を修了しているもので、試験および書類審査に合格する
学会の連携等の概要 群馬大学医学部附属病院を含め、泌尿器科悪性腫瘍治療に関してサブスペシャリティを確立することが可能	

学会等名	日本臨床腎移植学会
資格名	腎移植認定医
資格要件	泌尿器科専門医で、所定の腎移植に関連した業績、診療内容を有するもの
学会の連携等の概要 群馬大学医学部附属病院を含め、腎移植医療に関してサブスペシャリティを確立することが可能	

学会等名	日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会
資格名	泌尿器腹腔鏡技術認定医
資格要件	泌尿器科専門医で、腹腔鏡手術手技の審査に合格する必要がある
学会の連携等の概要 群馬大学医学部附属病院を含め、腹腔鏡手術に関してサブスペシャリティを確立することが可能	

コース責任者名：鈴木和浩

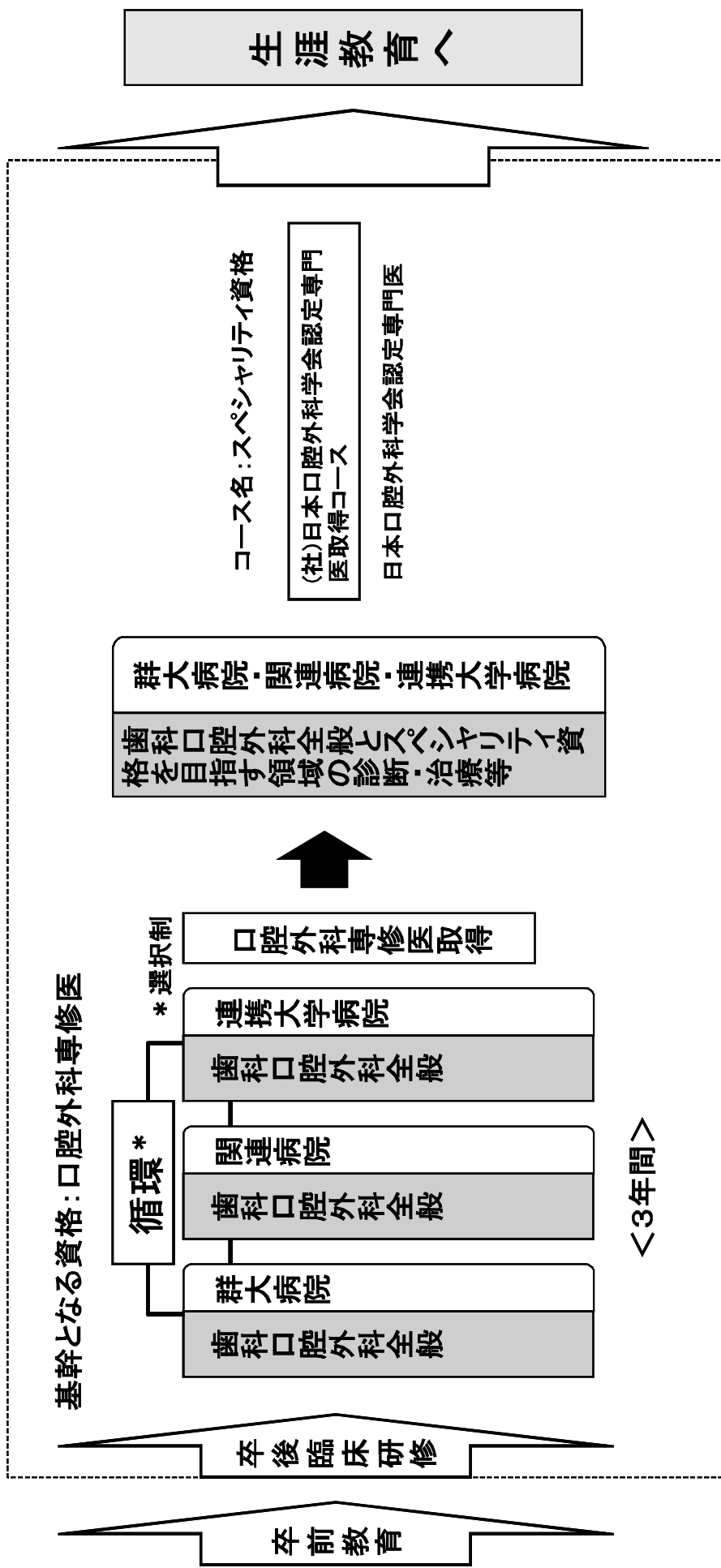
コース担当者名：伊藤一人

指導医名：羽鳥基明、柴田康博、松井 博、小池秀和、関根芳岳、  
野村昌史、森川泰如、宮久保真意、新田貴士、  
古谷洋介、周東孝浩、加藤春雄、中嶋仁、藤塚雄司

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：歯科口腔外科

22:(社)日本口腔外科学会認定専門医取得コース 募集(人数2名)



歯科口腔外科 HP : <http://oamfs.med.gunma-u.ac.jp/>

22 : (社)日本口腔外科学会認定専門医取得コース

基幹となる資格名 : 日本口腔外科学会認定専修医

スペシャリティ資格名 : 日本口腔外科学会認定専門医

### (1) コースの全体像

※群馬大学医学部附属病院において2年間の初期研修を修了し、(社)日本口腔外科学会認定専修医を取得した者のみ募集

口腔外科の専門的知識と技能を有する歯科医師を養成するとともに、口腔外科医療の発展と向上を図り国民の福祉に貢献するため、(社)日本口腔外科学会認定専門医取得コースを設ける。

専門医取得コースは、(社)日本口腔外科学会認定専修医取得後に選択可能である。

(社)日本口腔外科学会認定研修施設である当院の他、(社)日本口腔外科学会認定研修施設である連携大学病院あるいは(社)日本口腔外科学会認定関連研修施設である桐生厚生病院での研修が可能である。また、学位の取得を目指して大学院への進学(社会人大学院)も可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	歯科口腔外科	口腔外科	2	(社)日本口腔外科学会認定専門医取得	2名	4年
桐生厚生病院	歯科口腔外科	口腔外科	1	(社)日本口腔外科学会認定専門医取得	1名	
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

当科に在籍している(社)日本口腔外科学会認定指導医は2名、専門医3名であり、いずれも当科における実績により指導医あるいは専門医を取得している。また、関連研修施設である桐生厚生総合病院には、当科における実績により認定された専門医が1名在籍している。

### (4) コースの指導状況

学会より公示されている研修カリキュラムに則り、診断、周術期管理、手術管理および手術経験の実績を修めるように指導している。



### (5) 専門医の取得等

最初に取得を目指す専門医等名：日本口腔外科学会認定専修医

学会等名	(社) 日本口腔外科学会
資格名	(社) 日本口腔外科学会認定専修医
資格要件	臨床研修修了登録後2年以上の口腔外科に関する診療に従事
学会の連携等の概要 当院は、昭和53年より(社) 日本口腔外科学会認定研修施設(第2023号)である。 連携大学病院は、4大学病院とも(社) 日本口腔外科学会認定研修施設である。 桐生厚生総合病院は、(社) 日本口腔外科学会認定関連研修施設(第関2001号)である。	

本コースにて取得を目指す専門医等名：日本口腔外科学会認定専門医

学会等名	(社) 日本口腔外科学会
資格名	(社) 日本口腔外科学会認定専門医
資格要件	臨床研修修了登録後6年以上の口腔外科に関する診療に従事、 (社) 日本口腔外科学会認定専修医資格取得者
学会の連携等の概要 当院は、昭和53年より(社) 日本口腔外科学会認定研修施設(第2023号)である。 連携大学病院は、4大学病院とも(社) 日本口腔外科学会認定研修施設である。 桐生厚生総合病院は、(社) 日本口腔外科学会認定関連研修施設(第関2001号)である。	

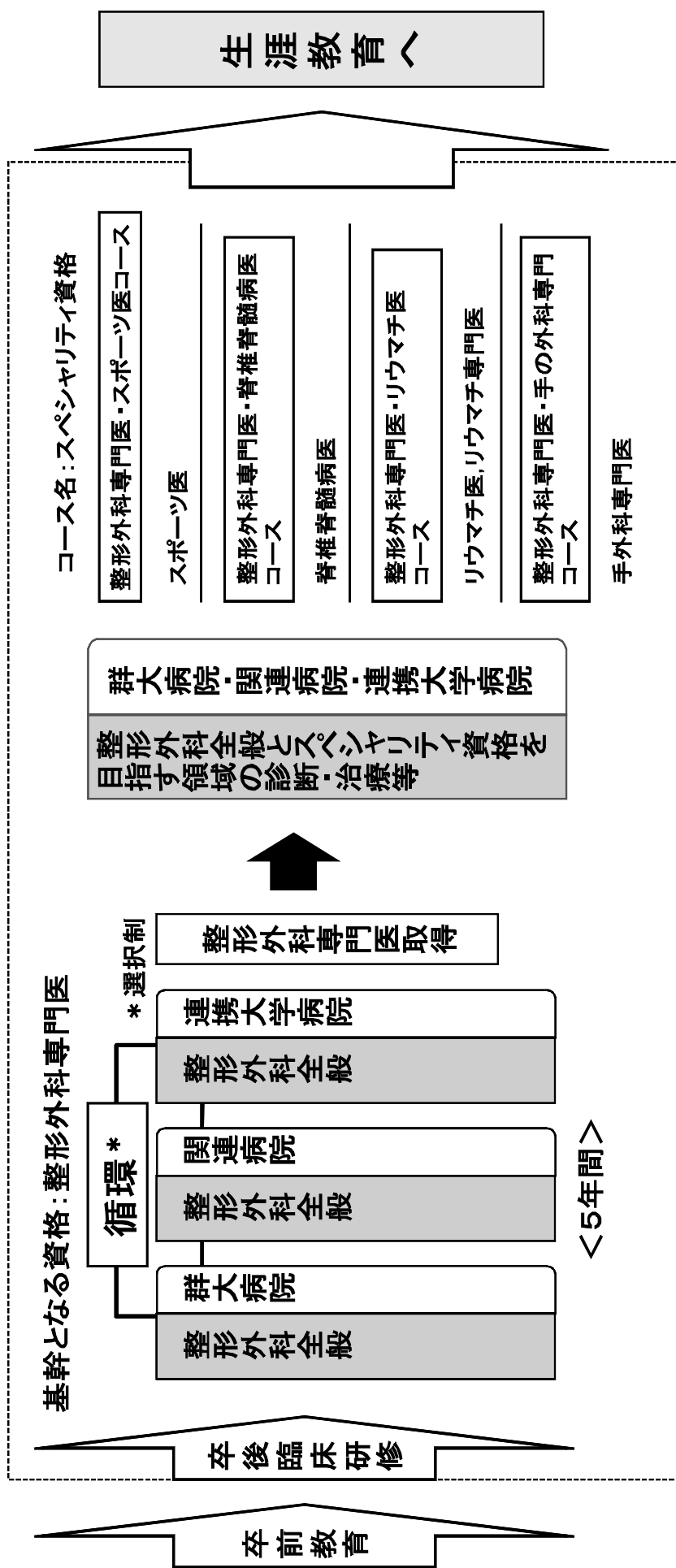
コース責任者名：横尾聡

コース担当者名：根岸明秀

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：整形外科

- 25：整形外科専門医・スポーツ医コース 募集(人数8名)
- 26：整形外科専門医・脊椎脊髄病医コース 募集(人数2名)
- 27：整形外科専門医・リウマチ医コース 募集(人数2名)
- 28：整形外科専門医・手の外科専門医コース 募集(人数2名)



整形外科 HP : <http://orthop.dept.med.gunma-u.ac.jp/~seikei/index.html>

25 : 整形外科専門医・スポーツ医コース

基幹となる資格名 : 整形外科専門医

スペシャリティ資格名 : スポーツ医

### (1) コースの全体像

整形外科学は、骨・関節に生じた外傷及び変性性疾患を対象に加療している。その中には、スポーツにより生じたスポーツ外傷も治療対象となる。スポーツ外傷としては、主にサッカー等による膝関節・足関節の靭帯損傷や、野球やテニス等による肩関節・肘関節の損傷等が頻発している。群馬大学整形外科は、サッカーJリーグザスパ草津のチームドクターを務め、また高校野球のメディカルサポートを行い、スポーツ外傷の治療・発生の予防に努めてきた。本コースでは、まずは整形外科医としての基礎を十分身につけた後に、多くのスポーツ外傷例が集積している前橋市内の善衆会病院などにて研修し、スポーツ整形外科としての能力を身につける。また整形外科専門医を取得した後、日本整形外科学会認定スポーツ医を取得する事が可能になる。大学院への進学や、臨床研究論文の作成、連携大学病院での研修をすることも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	整形外科	整形外科	12名	基本から高度なレベルまでの整形外科診療を修得する	8名	5年以上
善衆会病院	整形外科	整形外科	5名	スポーツ整形外科診療の技術を修得する	1~2名	1~2年
前橋赤十字病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
伊勢崎市民病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
公立富岡総合病院	整形外科	整形外科	5名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
桐生厚生総合病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
				受入人数	8名	

### (3) コースの実績

群馬大学整形外科では、四肢（肩関節・肘関節・膝関節他）のスポーツ障害例を数多く経験する事が出来る。それに加え、全国屈指の膝関節靭帯損傷治療例が集まっている善衆会病院においては、下肢関節のスポーツ外傷例の治療の研修をすることが出来る。

#### (4) コースの指導状況

群馬大学整形外科では、教授は整形外科専門医に加え日本整形外科学会スポーツ医資格をもっている。また善衆会病院では、院長が同様に資格を持っている。両名ともスポーツ整形外科の中では、指導的立場である。専門医取得後、更に高いレベルの研修を希望する場合、大学病院あるいは善衆会病院等の関連病院にて研修を積む事も可能である。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本整形外科学会
資格名	整形外科専門医・スポーツ医
資格要件	日本整形外科学会の規定による
学会の連携等の概要 受験資格は、整形外科学会会員歴5年以上を有し、整形外科学会研修指定病院での研修期間・学会発表・論文発表などの受験資格を満たした上で、日本整形外科学会が行う専門医試験に合格すること。スポーツ医は専門医を獲得した後に、取得が可能となる。	

コース責任者名：高岸憲二

コース担当者名：小林勉

指導医名：篠崎哲也、柳川天志、佐藤貴久、山本敦史、割田敏朗、柳沢真也

整形外科 HP : <http://orthop.dept.med.gunma-u.ac.jp/~seikei/index.html>

26 : 整形外科専門医・脊椎脊髄病医コース

基幹となる資格名 : 整形外科専門医

スペシャリティ資格名 : 脊椎脊髄病医

### (1) コースの全体像

厚生労働省が調査した国民の愁訴に関する報告によると、一番目が腰痛であり二番目が肩こりである。つまり、国民の愁訴の内最たる物は整形外科に関連し、更には脊椎に関連するものである。この様な背景もあり、脊椎脊髄疾患に精通した整形外科医の存在は、時代のニーズであると思われる。本コースでは、まずは整形外科医としての基礎を十分身につけた後に、多くの脊椎脊髄疾患例が集積している県内の病院にて研修し、脊椎脊髄病医としての能力を身につける。それにより日本整形外科学会専門医を取得した後に、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医を取得する事が可能になる。また、大学院への進学や、臨床研究論文の作成、連携大学病院での研修をすることも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	整形外科	整形外科	12名	基本から高度なレベルまでの整形外科診療を修得する	2名	5年以上
公立富岡総合病院	整形外科	整形外科	5名	脊椎脊髄病診療の技術を修得する	1名	原則1年
桐生厚生総合病院	整形外科	整形外科	4名	脊椎脊髄病診療を修得する	1名	原則1年
前橋赤十字病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
高崎総合医療センター	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
群馬中央総合病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

群馬大学整形外科では、多種多様な脊椎脊髄疾患を経験する事が出来る。それに加え、関連病院である富岡総合病院・桐生厚生総合病院等においても、多くの脊椎脊髄疾患例が集中しており、ここにおいても更なる研修が可能である。

### (4) コースの指導状況

群馬大学整形外科では、助教二名が整形外科専門医に加え整形外科脊椎脊髄病医

資格をもっている。また関連病院にも、同様の資格を持つ医師を配置している。専門医・脊椎脊髄病医取得後、更に高いレベルの研修を希望する場合、関連病院にて更なる研修を行い、日本脊椎脊髄病学会認定の脊椎脊髄外科指導医を取得する事も可能である。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本整形外科学会
資格名	整形外科専門医・脊椎脊髄病医
資格要件	日本整形外科学会の規定による
学会の連携等の概要 受験資格は、整形外科学会会員歴5年以上を有し、整形外科学会研修指定病院での研修期間・学会発表・論文発表などの受験資格を満たした上で、日本整形外科学会が行う専門医試験に合格すること。脊椎脊髄病医は専門医を獲得した後に、取得が可能となる。	

コース責任者名：高岸憲二

コース担当者名：飯塚伯

指導医名：飯塚陽一

整形外科 HP : <http://orthop.dept.med.gunma-u.ac.jp/~seikei/index.html>

27 : 整形外科専門医・リウマチ医コース

基幹となる資格名 : 整形外科専門医

スペシャリティ資格名 : リウマチ医、リウマチ専門医

### (1) コースの全体像

整形外科学の中では、一般整形外科治療に加えて関節リウマチの治療も必要である。昨今の生物学的製剤の急速な発展により、関節リウマチの治療は飛躍的進歩を遂げた。それは、薬物投与方法の複雑化並びに大きな合併症の発生の可能性を生じ、関節リウマチ治療に精通した医師の存在が求められている。

本コースでは、まずは整形外科医としての基礎を十分身につけた後に、多くの関節リウマチ例が集中している県内の病院にて研修し、リウマチ医としての能力を身につける。それにより日本整形外科学会専門医を取得した後に、日本整形外科学会認定リウマチ医を取得する事が可能になる。また、大学院への進学や、臨床研究論文の作成、連携大学病院での研修をすることも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	整形外科	整形外科	12名	基本から高度なレベルまでの整形外科診療を修得する	2名	5年以上
井上病院	整形外科	整形外科	3名	関節リウマチ診療の技術を修得する	1-2名	原則1年
前橋赤十字病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
伊勢崎市民病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
公立富岡総合病院	整形外科	整形外科	5名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
桐生厚生総合病院	整形外科	整形外科	4名	一般整形外科診療を修得する	1名	原則1年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

群馬大学整形外科では関節リウマチ外来を開設し、多くの関節リウマチ例に薬物治療及び、手術的加療を行っている。それに加え、高崎市の井上病院においても全国屈指の関節リウマチ例治療経験があり、関節リウマチ治療の薬物的治療・外科的治療の十分な研修をすることが出来る。

#### (4) コースの指導状況

群馬大学整形外科では、教授が整形外科専門医に加え日本整形外科学会リウマチ医資格をもっている。また井上病院では、院長が同様に資格を持っている。両名とも関節リウマチ診療に関する学会において、指導的立場である。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本整形外科学会
資格名	整形外科専門医・リウマチ医
資格要件	日本整形外科学会の規定による
学会の連携等の概要 受験資格は、整形外科学会会員歴5年以上を有し、整形外科学会研修指定病院での研修期間・学会発表・論文発表などの受験資格を満たした上で、日本整形外科学会が行う専門医試験に合格すること。リウマチ医は専門医を獲得した後に、取得が可能となる。	

学会等名	日本リウマチ学会
資格名	リウマチ専門医
資格要件	日本リウマチ学会の規定による
学会の連携等の概要 受験資格は、日本整形外科学会などリウマチ関連学会の認定医資格を有し、会員歴5年以上を有し、指定された研修指定教育施設等において、通算5年以上のリウマチ学の臨床研修を行った後、取得が可能となる。	

コース責任者名：高岸憲二

コース担当者名：小林勉

指導医名：岡邨興一



整形外科 HP : <http://orthop.dept.med.gunma-u.ac.jp/~seikei/index.html>

28 : 整形外科専門医・手の外科専門医コース

基幹となる資格名 : 整形外科専門医

スペシャリティ資格名 : 手外科専門医

### (1) コースの全体像

手外科は手指の再接着、血管柄付筋皮弁、をはじめとする機能再建を行うものであり、極めて高い専門的知識と高度のスキルを必要とするものである。本コースでは、まずは整形外科医としての基礎を十分身につけた後に、多くの手外科疾患例が集積している県内の病院にて研修し、手外科専門医としての能力を身につける。それにより日本整形外科学会専門医を取得した後に、日本手外科学会認定手外科専門医を取得する事が可能になる。また、大学院への進学や、臨床研究論文の作成、連携大学病院での研修をすることも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	整形外科	整形外科	12名	基本から高度なレベルまでの整形外科診療を修得する	2名	5年以上
済生会前橋病院	整形外科	整形外科	3名	手の外科診療の技術を修得する	1名	原則1年
日高病院	整形外科	整形外科	2名	手の外科診療を修得する	1名	原則1年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

群馬大学整形外科では、多種多様な手外科疾患を経験する事が出来る。それに加え、関連病院である済生会前橋病院・日高病院においても、多くの手外科疾患例が集中しており、これらの施設でも更なる研修が可能である。

### (4) コースの指導状況

群馬大学整形外科・済生会前橋病院・日高病院ではそれぞれひとりずつ整形外科専門医に加え、手外科専門医資格をもっている。また、受験資格を有するものも教室内に多数在籍し、今後さらなる専門医の増加、指導の充実が期待される。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本手外科学会
資格名	整形外科専門医・手外科専門医
資格要件	日本手外科学会の規定による

学会の連携等の概要

平成21年から日本手外科学会手外科専門医試験が行われている。受験資格は学会の定める手術数・研修実績・業績で一定の基準を満たすものである。

コース責任者名：高岸憲二

コース担当者名：小林勉

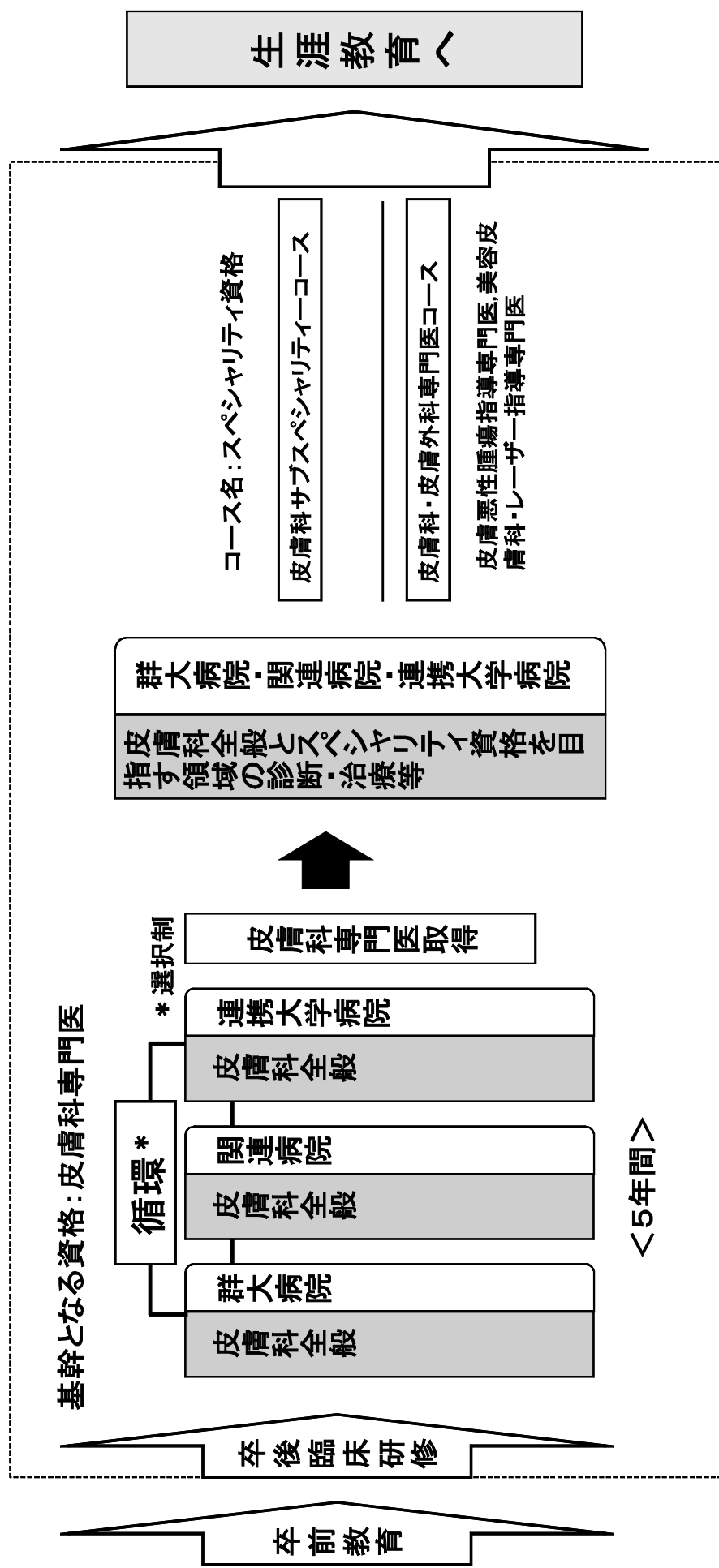
指導医名：田鹿毅

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：皮膚科

29：皮膚科サブスペシヤリテイーコース 募集(人数5名)

30：皮膚科・皮膚外科専門医コース 募集(人数2名)



皮膚科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=534>

29 : 皮膚科サブスペシャリティーコース

基幹となる資格名 : 皮膚科専門医

スペシャリティー資格名 :

### (1) コースの全体像

皮膚科医が対象とする疾患は、アトピー性皮膚炎・自己免疫性水疱症・皮膚感染症、皮膚の悪性および良性腫瘍、熱傷や膠原病など多岐に亘る。従って、真の実力を備えた皮膚科専門医には病理組織診断、全身管理方法、皮膚外科手技、癌化学療法、免疫抑制療法などを実際に適切に遂行できる能力を有していることが求められる。

群馬大学皮膚科は国内でも屈指のベッド数(35床)を有し、入院患者は皮膚科固有の疾患患者ばかりでなく、皮膚悪性腫瘍患者、重症熱傷患者、膠原病患者など多彩で、臨床医としての能力をバランスよく伸ばす最適の環境を提供してきた。また、臨床写真と病理組織を同時に提示する症例カンファレンスは、生検を行った医師自らが症例提示と病理組織の解説を行うことにより病理診断能力が自然に身につくシステムである。本コースで専門医を取得すれば、どこにでても恥ずかしくない臨床能力に秀でた皮膚科医として一本立ちできる。

本コースにおいては、学位の取得を目指して大学院への進学等を選択することができる。また、臨床研究論文の作成や連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	皮膚科	皮膚科	10名	基本から高度レベルまでの皮膚科診療を修得する	5名	5年以上
前橋赤十字病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
利根中央病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
伊勢崎市民病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
桐生厚生総合病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績

群馬大学皮膚科で修練を積んだ医師は、皮膚科学会入会 5～8 年後に専門医資格を取得している（皮膚科学会への入会は初期研修開始時から可能で、初期研修期間も皮膚科研修期間にカウントされる）。専門医取得後は、大学病院と関連病院を 1～2 年ごとに循環することにより、地域医療への貢献とさらなるレベルアップを可能としている。

### (4) コースの指導状況

大学皮膚科では、専門医資格を持つ教授 1 名（膠原病、難治性皮膚潰瘍）、准教授 1 名（膠原病、難治性皮膚潰瘍）、講師 2 名（膠原病、アトピー性皮膚炎、乾癬、難治性皮膚潰瘍）、院内講師 1 名（皮膚腫瘍および形成外科、皮膚病理）、助教 3 名、臨床助教 1 名が皮膚科診療全般を指導している。さらに、より高いレベルの専門医、あるいは指導者を目指す者には、本人の希望に沿ったサブスペシャリティー分野での育成・指導を行っている。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	皮膚科専門医
資格要件	日本皮膚科学会の規定による
学会の連携等の概要 受験資格は、皮膚科学会会員歴5年以上を有し、皮膚科学会研修指定病院での研修期間、学会発表、論文発表（日本語の症例報告も可）などの受験資格を満たした上で日本皮膚科学会が行う専門医試験に合格すること。	

コース責任者名：石川治

コース担当者名：永井弥生

指導医名：安部正敏、天野博雄、清水晶、岡田悦子、田子修、服部友保

皮膚科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=534>

30 : 皮膚科・皮膚外科専門医コース

基幹となる資格名 : 皮膚科専門医

スペシャリティ資格名 : 皮膚悪性腫瘍指導専門医、美容皮膚科・レーザー指導専門医

### (1) コースの全体像

高齢者の増加に伴って皮膚悪性腫瘍患者が増加の一途をたどっており、皮膚外科手技、皮膚の再建を行う形成外科的手技、癌化学療法、全身管理法を身につけた皮膚科医は不可欠の存在となっている。本院には形成外科がないため、希望する医師を他施設（筑波大学、川崎医科大学、埼玉医科大学）の形成外科に派遣し、修練を積み重ねてきた。現在、院内講師を含め研修を積んだ医師が3名おり、形成外科ができる皮膚科医として当皮膚科の重要な役割を担っている。本コースでは、群馬に隣接する埼玉医大形成外科、埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科などの連携病院における研修が選択可能であり、皮膚外科を中心とした形成外科医としての能力の獲得、また皮膚悪性腫瘍治療専門医取得を目標とする。

皮膚腫瘍の治療には病理診断が不可欠である。当科では生検を行った医師自らが症例提示と病理組織の解説を行い、病理診断能力が自然に身につくシステムをとっている。本コースで専門医を取得すれば、多種類に亘る皮膚腫瘍の臨床診断・病理診断・外科治療・化学療法を一貫して実施できる有能な専門医として一本立ちできる。なお、学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することもできる。臨床研究論文の作成を行うことができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	皮膚科	皮膚科	10名	基本から高度レベルまでの皮膚科診療を修得する	5名	5年以上
埼玉医科大学	形成外科	形成外科	3名	皮膚外科、皮膚形成外科技術を修得する	1名	原則1年
埼玉医科大学国際医療センター	皮膚腫瘍科・皮膚科	皮膚腫瘍科	3名	皮膚外科技術の習得、皮膚悪性腫瘍治療に特化した研修	1名	原則1年
前橋赤十字病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
利根中央病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
伊勢崎市民病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける。皮膚外科、皮膚形成外科	1名	原則1年

				術を修得する		
桐生厚生総合病院	皮膚科	皮膚科	1名	日常診療対応能力を身につける	1名	原則1年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

現在、皮膚外科をサブスペシャリティーとする医師は院内講師1名、助教2名である。いずれも他施設の形成外科で修練を積んだ経験を持つ。今後は、埼玉医大形成外科と協力して形成外科の技術・知識を持つ皮膚科専門医の育成を図る。

### (4) コースの指導状況

本コースは専門医取得後、皮膚外科というサブスペシャリティーを持つ医師を目指す医師のためのコースである。群馬大学皮膚科には、県内関連病院から治療の難しい皮膚悪性腫瘍患者が多数紹介されている。臨床診断から病理診断、治療、フォローアップまで、経験豊富な指導医の下で多くの症例を経験できる。形成外科の素養をもつ需要の高い皮膚科医となることを確約できる。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	皮膚科専門医
資格要件	日本皮膚科学会の規定による
学会の連携等の概要	
受験資格は、皮膚科学会会員歴5年以上を有し、皮膚科学会研修指定病院での研修期間、学会発表、論文発表（日本語の症例報告も可）などの受験資格を満たした上で日本皮膚科学会が行う専門医試験に合格すること。	

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	皮膚悪性腫瘍指導専門医
資格要件	日本皮膚科学会の規定による
学会の連携等の概要	
日本皮膚悪性腫瘍学会、日本皮膚外科学会、日本臨床皮膚外科学会いずれかの学会に5年以上在籍し、規定の研修、業績、皮膚悪性腫瘍治療、手術・化学療法実績などの受験資格を満たした上で日本皮膚科学会が行う認定試験に合格すること。	

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	美容皮膚科・レーザー指導専門医
資格要件	日本皮膚科学会の規定による
学会の連携等の概要	
日本美容皮膚科学会、日本臨床皮膚外科学会、日本皮膚外科学会、日本レーザー医学	

会、日本レーザー治療学会のいずれかの学会に5年以上在籍し、規定の研修、業績などの受験資格を満たした上で日本皮膚科学会が行う認定試験に合格すること。

コース責任者名：石川治

コース担当者名：岡田悦子

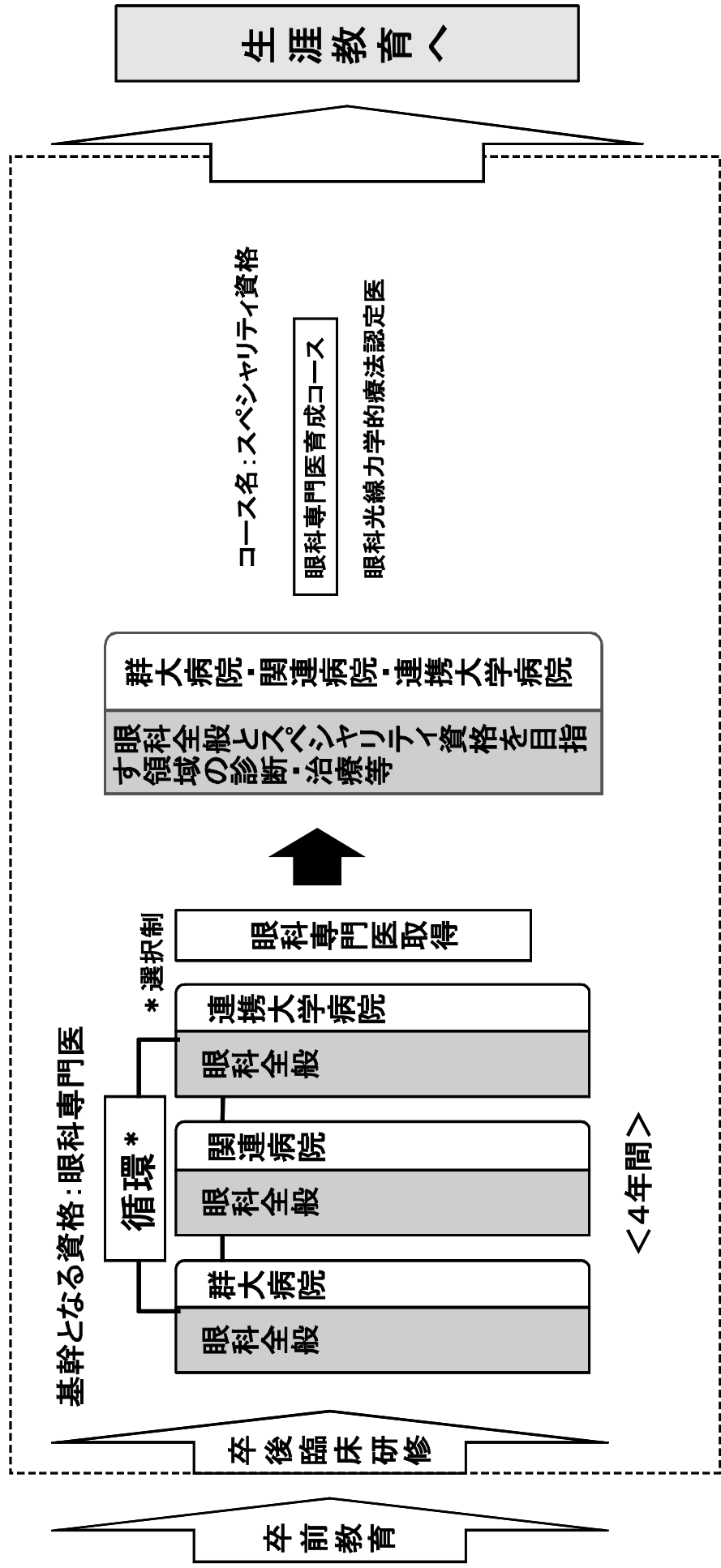
指導医名：永井弥生、山田和哉



# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：眼科

31:眼科専門医育成コース 募集(人数8名)



眼科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=536>

### 31 : 眼科専門医育成コース

基幹となる資格名 : 眼科専門医

スペシャリティ資格名 : 眼科光線力学的療法認定医

#### (1) コースの全体像

初めは大学病院で2年間研修し眼科の基礎的な事柄、診察方法、手術などを学ぶ。また、専門分野や大学院などへの進学も考慮に入れる時期である。次に関連病院で医長になりさらに診察レベルを向上させ、主に白内障手術を習得する。最後は、大学病院に戻り専門分野の研修・研究を行い、眼科専門医習得のための高い知識・技術獲得を目指す。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学を選択することができる。また連携大学病院での研修を選択することができる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	眼科	網膜硝子体 白内障 角膜 斜視	10	基本的手技を学びながら、患者の診察、手術などに携わる。専門分野や大学院への進学などを選択する。また学会への参加、発表を行う。	6	2
関連病院	眼科	白内障		主に患者の診察と白内障手術を習得する。	6	2～3
群馬大学医学部附属病院	眼科	網膜硝子体 白内障 角膜 斜視	10	専門分野の研修・研究を行い、専門医資格取得のための高い知識・技術を習得する。	6	3～
				受入人数	8名	

#### (3) コースの実績

今年度大学院卒業 1名  
大学院在籍 4名  
今年度眼科専門医 20名  
専門医受験予定 1名

#### (4) コースの指導状況

大学院生の論文指導は、主に教授が行っている。基礎医学の実験や臨床研究などは主に講師が指導を行っている。レジデントの臨床的な知識や手技に関しては、レジデント一人にオーベンと呼ばれる指導医がつきマンツーマンで行っているほか、

症例検討会・輪読会などを毎週行い、指導を徹底している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本眼科学会、日本眼科医会
資格名	日本眼科学会認定眼科専門医
資格要件	規定する施設において、施行細則で定める研修内容により5年以上眼科臨床を研修した者。あるいは厚生労働省の定める卒後臨床研修（2年間）修了後、規定する施設において施行細則で定める研修内容により4年以上眼科臨床を研修した者。即ち卒後臨床研修を含め6年以上の臨床経験を修了した者でかつ委員会が行う専門医認定試験に合格した者。
学会の連携等の概要 日本眼科学会専門医制度規則で（1）卒後研修委員会（2）試験委員会（3）生涯教育委員会（4）資格認定委員会が定められており、当院のような研修施設と連携しながら、専門医の認定・育成を図っていく。	

学会等名	眼科PDT研究会
資格名	眼科光線力学的療法認定医
資格要件	眼科PDT研究会の規定による
学会の連携等の概要	

コース責任者名：岸章治

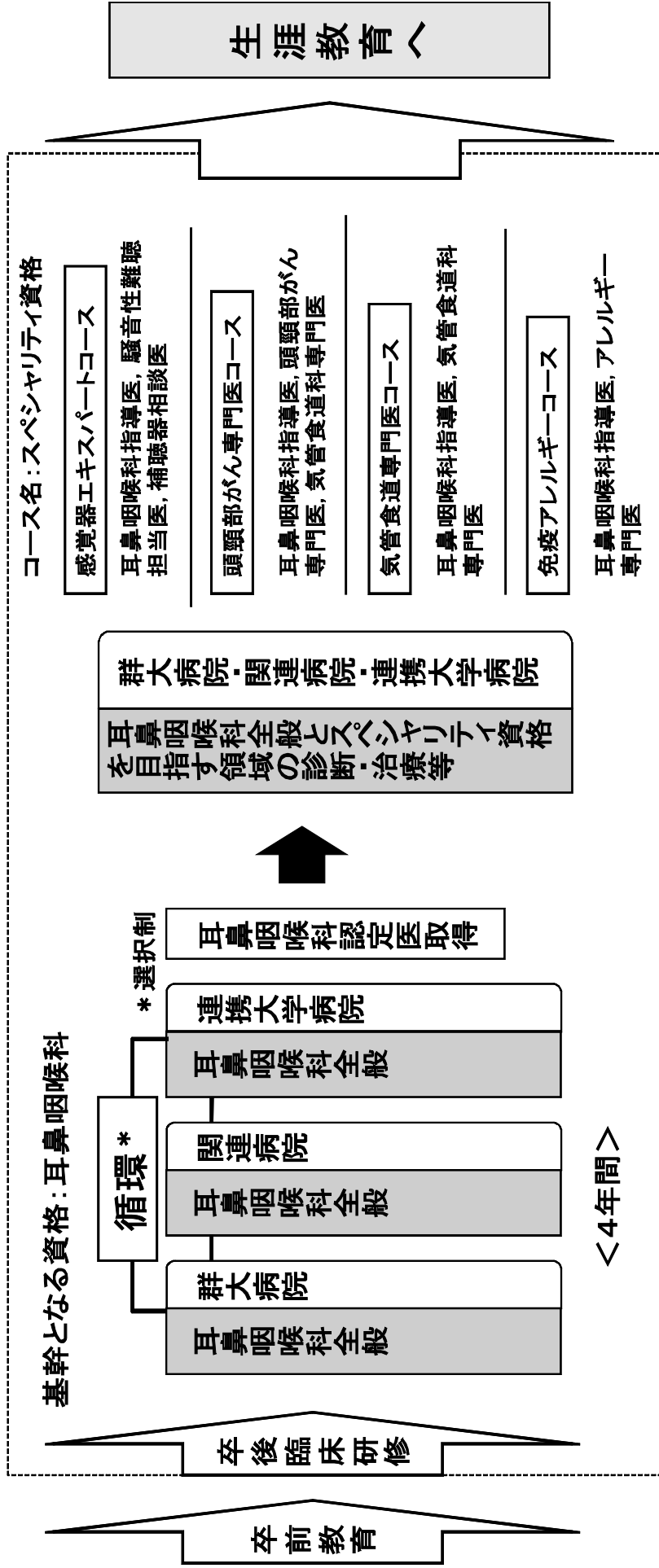
コース担当者名：大谷倫裕

指導医名：秋山英雄、佐藤拓、池田史子、山口由美子、戸所大輔、  
橋本英明、堀内康史、山田教弘、下田幸紀、榎真理子

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：耳鼻咽喉科

- 33：感覚器エキスパートコース 募集(人数5名)
- 34：頭頸部がん専門医コース 募集(人数3名)
- 35：気管食道専門医コース 募集(人数2名)
- 36：免疫アレルギーコース 募集(人数2名)



耳鼻咽喉科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=538>

### 33 : 感覚器エキスパートコース

基幹となる資格名 : 耳鼻咽喉科専門医

スペシャリティ資格名 : 耳鼻咽喉科指導医、騒音性難聴担当医、補聴器相談医

#### (1) コースの全体像

耳鼻咽喉科で扱う疾患はアレルギー、末梢及び中枢神経疾患、腫瘍、外傷、音声・言語障害など多種多様である。ゆえにコース初期の4年間は、学会指定の研修施設で所定の研修プログラムに従った研修を行った後、耳鼻咽喉科学会専門医試験に合格する事を目標とする。専門医資格取得後は、感覚器のエキスパートとして特に中耳手術の習得や難聴者支援のため騒音性難聴相談医、補聴器相談医の取得を行う。これら幅広い分野全体を充実したものにするために連携大学病院での研修を選択することができる。また、卒後5年目より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択すること薦めている。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	耳鼻咽喉科	13名	耳鼻咽喉科の一般的な手術に加え特に中耳手術や人工内耳手術の習得を目指す。めまい平衡障害についての診断と研究。	5名	2年間
群馬中央総合病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2名	難聴やめまいの診療、中耳手術を群馬大学と連携している。	1名	半年～2年間
伊勢崎市民病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2名	中耳疾患の他、多岐にわたる耳鼻科疾患の治療を経験する。	1名	半年～2年間
				受入人数	5名	

#### (3) コースの実績

耳鼻咽喉科における主要疾患である中耳手術、人工内耳埋め込み術を行い良好な結果を得ているとともに術者の養成にも精力を注いでいる。めまい平衡障害においては、多くの学位取得者がおり、基礎研究を継続して行っている。

#### (4) コースの指導状況

後期専門研修 4～5年目に専門医の資格を取得する。6年目以降は、大学病院で特殊な手術技術を習得した後、関連病院で多くの症例を経験する。後期専門研修を開始した後、7～8年で独立して医療が行えるような医師を養成する。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	後期専門研修後4年で所定の研修を修了し、試験に合格したもの
学会の連携等の概要 専門医認定施設での研修を義務付けられているがすべてのコースの病院は認可を受けている。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科指導医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医資格取得後4年、論文2編を受験資格とする
学会の連携等の概要 受験資格のある専門医でかつ指導医認定病院で一定以上勤務したものに資格が与えられる（制度は平成22年以後に発令される）。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	騒音性難聴担当医
資格要件	
学会の連携等の概要 学会が開催する講習会に参加することにより資格が与えられる。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	補聴器相談医
資格要件	
学会の連携等の概要 学会が開催する講習会に参加することにより資格が与えられる。	

学会等名	日本めまい平衡医学会
資格名	
資格要件	
学会の連携等の概要	

学会等名	日本耳科学会
資格名	
資格要件	
学会の連携等の概要	

コース責任者名：高橋克昌

コース担当者名：高橋克昌、長井今日子、宮下元明、岡宮智史、村田考啓

指導医名：鎌田英男、飯田英基、高安幸弘、豊田実、島田哲明、紫野正人、  
中島恭子、加家壁美樹子

耳鼻咽喉科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=538>

### 34 : 頭頸部がん専門医コース

基幹となる資格名 : 耳鼻咽喉科専門医

スペシャリティ資格名 : 耳鼻咽喉科指導医、頭頸部がん専門医、気管食道科専門医

#### (1) コースの全体像

耳鼻咽喉科で扱う疾患はアレルギー、末梢及び中枢神経疾患、腫瘍、外傷、音声・言語障害など多種多様である。ゆえにコース初期の4年間は、学会指定の研修施設で所定の研修プログラムに従った研修を行った後、耳鼻咽喉科学会専門医試験に合格する事を目標とする。専門医資格取得後は、頭頸部腫瘍外科医のエキスパートとしてがん専門医となるべく、特殊な手術手技を取得するコースへ進む。より専門的な技術の習得のため、連携大学病院での研修を選択することができる。また、卒後5年目より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択すること薦めている。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	耳鼻咽喉科	13名	頭頸部がん専門医を養成する教育の一環として研修を行う。	3名	2年間
群馬県立がんセンター	頭頸科	頭頸部外科	1名	頭頸部がん専門医を養成する教育の一環として研修を行う。	2名	1～2年
				受入人数	5名	

#### (3) コースの実績

群馬県立がんセンターに1～2名の医師を常時派遣している。過去には国立がんセンター東病院へ短期臨床研修を受けさせ、ガン切除法や切除後の再建、血管吻合などの技術習得を行った。今後は埼玉医科大学国際医療センターとも連携してがん専門医の養成を行う。

#### (4) コースの指導状況

後期専門研修4～5年目に専門医の資格を取得する。6年目以降は、大学病院で特殊な手術技術を習得した後、関連病院や他大学の施設で専門的な多くの症例を経験する。後期専門研修を開始した後、7～8年で独立して医療が行えるような医師を養成する。



(5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	後期専門研修後4年で所定の研修を修了し、試験に合格したものの
学会の連携等の概要 専門医認定施設での研修を義務付けられているがすべてのコースの病院は認可を受けている。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科指導医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医資格取得後4年、論文2編を受験資格とする
学会の連携等の概要 受験資格のある専門医でかつ指導医認定病院で一定以上勤務したものに資格が与えられる（制度は平成22年以後に発令される）。	

学会等名	日本頭頸部外科学会
資格名	頭頸部がん専門医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医資格取得後3年以上、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域での基準以上の臨床経験を有すること
学会の連携等の概要 専門医認定施設での研修と手術症例の達成目標がある。群馬大学と群馬県立がんセンターは認可研修施設である。	

学会等名	日本気管食道科学会
資格名	気管食道科専門医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医でかつ所定の研修を修了したものに受験資格
学会の連携等の概要 学会主催の専門医試験に合格したものの。	

コース責任者名：高橋克昌

コース担当者名：高安幸弘、豊田実

指導医名：鎌田英男、長井今日子、宮下元明、飯田英基、岡宮智史、島田哲明、紫野正人、村田考啓、中島恭子、加家壁美樹子

耳鼻咽喉科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=538>

### 35 : 気管食道専門医コース

基幹となる資格名 : 耳鼻咽喉科専門医

スペシャリティ資格名 : 耳鼻咽喉科指導医、気管食道科専門医

#### (1) コースの全体像

耳鼻咽喉科で扱う疾患はアレルギー、末梢及び中枢神経疾患、腫瘍、外傷、音声・言語障害など多種多様である。ゆえにコース初期の4年間は、学会指定の研修施設で所定の研修プログラムに従った研修を行った後、耳鼻咽喉科学会専門医試験に合格する事を目標とする。専門医資格取得後は、気管食道のエキスパートとして、診断・治療についての特殊技術を習得し、気管食道科学専門医へ進む。より専門的な技術の習得のため、連携大学病院での研修を選択することができる。また、卒後5年目より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択すること薦めている。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学 医学部附属 病院	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外 科	耳鼻咽喉科	13名	気管食道科に関する研究を行い、気管食道科専門医を取得	2名	6ヶ月 ～2年
前橋赤十字 病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2名	気管食道科専門医を養成	1名	1～2年
館林厚生病 院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2名	気管食道科専門医を養成	1名	1～2年
				受入人数	4名	

#### (3) コースの実績

サブスペシャリティとして気管専門医を取得するコースで、学会認定医受験し資格に必要な研修を行う。

#### (4) コースの指導状況

後期専門研修4～5年目に専門医の資格を取得する。6年目以降は、大学病院で特殊な手術技術を習得した後、関連病院や他大学の施設で専門的な多くの症例を経験する。後期専門研修を開始した後、7～8年で独立して医療が行えるような医師を養成する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	後期専門研修後4年で所定の研修を修了し、試験に合格したもの
学会の連携等の概要 専門医認定施設での研修を義務付けられているがすべてのコースの病院は認可を受けている。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科指導医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医資格取得後4年、論文2編を受験資格とする
学会の連携等の概要 受験資格のある専門医でかつ指導医認定病院で一定以上勤務したものに資格が与えられる（制度は平成22年以後に発令される）。	

学会等名	日本気管食道科学会
資格名	気管食道科専門医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医でかつ所定の研修を修了したものに受験資格
学会の連携等の概要 学会主催の専門医試験に合格したもの。	

コース責任者名：高橋克昌

コース担当者名：飯田英基、紫野正人

指導医名：鎌田英男、長井今日子、宮下元明、高安幸弘、岡宮智史、島田哲明、  
村田考啓、中島恭子、加家壁美樹子

耳鼻咽喉科 HP : <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=538>

### 36 : 免疫アレルギーコース

基幹となる資格名 : 耳鼻咽喉科専門医

スペシャリティ資格名 : 耳鼻咽喉科指導医、アレルギー専門医

#### (1) コースの全体像

免疫アレルギーのエキスパートを目指した耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を養成することを目的にする。耳鼻咽喉科で扱う疾患はアレルギー、末梢及び中枢神経疾患、腫瘍、外傷、音声・言語障害など多種多様である。ゆえにコース初期の4年間は、学会指定の研修施設で所定の研修プログラムに従った研修を行った後、耳鼻咽喉科学会専門医試験に合格する事を目標とする。専門医資格取得後は、免疫アレルギーのエキスパートとして、アレルギー疾患、細菌感染症の診断治療法について集学的に技術を習得しアレルギー専門医の資格を目指す。また、専門的な鼻科手術の技術を習得する。これらの分野全体を充実したものにするため連携大学病院での研修を選択することができる。また、卒後5年目より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択すること薦めている。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	耳鼻咽喉科	13名	アレルギー専門医の取得 専門的な鼻科手術の習得	2名	6ヶ月～2年
桐生厚生病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2名	アレルギー患者の診療 鼻科手術を中心とした技術の習得	1名	6ヶ月～2年
				受入人数	3名	

#### (3) コースの実績

耳鼻咽喉科領域で最も対象疾患の多い急性感染症に付き研究し、ICD 制度協議会認定のインフェクションコントロールドクターの認定を受ける。

鼻科手術の専門的知識を習得するため、獨協医科大学にレジデントを派遣した。

#### (4) コースの指導状況

後期専門研修4～5年目に専門医の資格を取得する。6年目以降は、大学病院で特殊な診断・治療技術を習得した後、関連病院や他大学の施設で専門的な多くの症例を経験する。後期専門研修を開始した後、7～8年で独立して医療が行えるような医師を養成する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	後期専門研修後4年で所定の研修を修了し、試験に合格したもの
学会の連携等の概要 専門医認定施設での研修を義務付けられているがすべてのコースの病院は認可を受けている。	

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科指導医
資格要件	耳鼻咽喉科専門医資格取得後4年、論文2編を受験資格とする
学会の連携等の概要 受験資格のある専門医でかつ指導医認定病院で一定以上勤務したものに資格が与えられる（制度は平成22年以後に発令される）。	

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	アレルギー専門医
資格要件	5年以上学会の会員であること。所定の研修を修了し試験に合格すること。
学会の連携等の概要	

コース責任者名：高橋克昌

コース担当者名：鎌田英男、島田哲明

指導医名：長井今日子、宮下元明、飯田英基、高安幸弘、豊田実、岡宮智史、  
紫野正人、村田考啓、中島恭子、加家壁美樹子

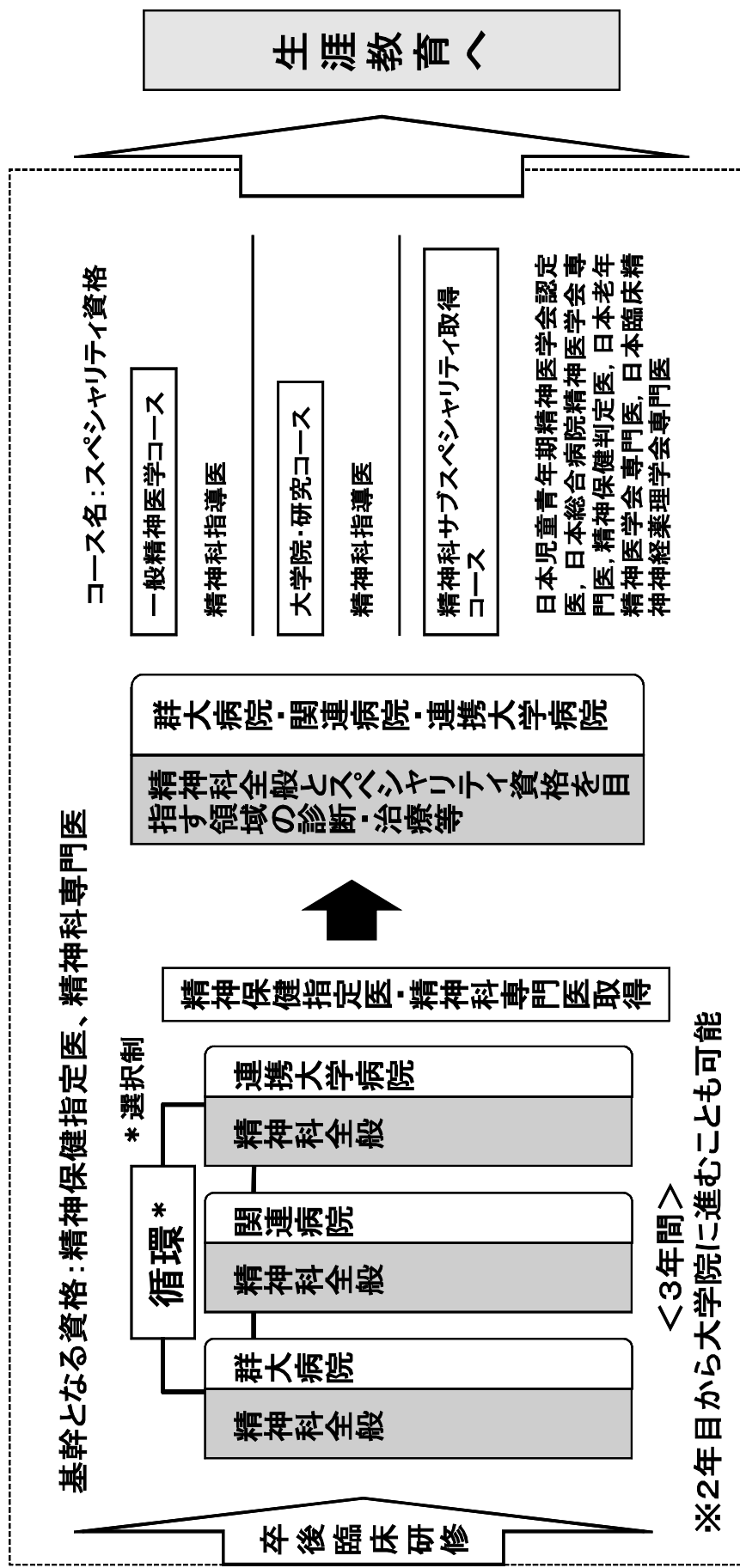
# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名:精神科神経科

67: 一般精神医学コース 募集(人数10名)

68: 大学院・研究コース 募集(人数5名)

69: 精神科サブスペシャリティ取得コース 募集(人数5名)



## 精神科神経科

HP : [http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=course.fp7&-lay=set\\_web&order=10&-find](http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=course.fp7&-lay=set_web&order=10&-find)

67 : 一般精神医学コース

基幹となる資格名 : 精神保健指定医、精神科専門医

スペシャリティ資格名 : 精神科指導医

### (1) コースの全体像

このコースでは、大学病院・総合病院精神科・単科精神科病院（精神科救急含む）で各1～3年の研修を行い、精神科全般について必要な知識と技術をバランスよく身につけることを目的とする。また、精神保健指定医・日本精神神経学会専門医の資格を得ることができる。

研修内容としては、大学病院で系統的なクルーズや定期的な症例検討会を通して知識と理解を深め、内因性精神疾患・神経症性疾患・症状精神病・児童思春期症例など多岐にわたる症例を経験する。その後、群馬県立精神医療センターで精神科救急および司法精神医学を、総合病院精神科でリエゾンや一般救急での精神科対応例を、そして単科精神科病院で地域医療などを経験することができる。

また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、コースの途中に大学院への進学を選択したり、連携大学病院での研修を選択することも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	精神科	精神医学全般	11	精神科基礎研修	10	2～3年
群馬県立精神医療 センター(例)	精神科	精神科救急 司法精神医学	7	精神科救急・ 司法精神医学研 修	5	1～2年
前橋赤十字病院 (例)	精神科	リエゾン 精神医学	1	リエゾン精神医 学研修	1	1～2年
高崎総合医療セン ター(例)	精神科	リエゾン 精神医学	1	リエゾン精神医 学研修	1	1～2年
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

単科精神科病院はもちろんのこと、群馬県立精神医療センター（救急・司法）、総合病院精神科（リエゾン・緩和ケア）で、毎年研修の実績がある。特性の異なる複数の病院を研修するため、精神保健指定医・日本精神神経学会専門医の症例を得やすくなっている。

#### (4) コースの指導状況

当教室での指導医は 11 名おり、各専門領域の指導・クルズスを担当している。入院担当症例は毎週ケースカンファレンスを開き、指導医や他医師とのディスカッションをおこなう。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	厚生労働省
資格名	精神保健指定医
資格要件	3年以上の精神科実務経験を有し、指定の研修会への参加が必要である。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	専門医
資格要件	5年以上の臨床経験を有し、うち3年以上の精神科臨床経験を有するもの。ただし、3年以上の精神科臨床経験については、精神科の基礎的素養が身につけられる医療機関（日本精神神経学会が認定した研修施設である精神科病院、大学病院や総合病院の精神科等）において、常勤の精神科医の指導のもとでの精神科臨床実務経験が1年以上あることが必要。
学会の連携等の概要 当教室三國雅彦教授が理事を務める精神科基本領域認定学会である。	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	指導医
資格要件	指導医は、原則として専門医であり所定の指導医講習会への参加が必要である。
学会の連携等の概要 当教室三國雅彦教授が理事を務める精神科基本領域認定学会である。	

コース責任者名：三國雅彦

コース担当者名：亀山正樹

指導医名：福田正人、米村公江、間島竹彦、成田耕介、高橋啓介、  
武井雄一、成田秀幸、青山義之、酒井努



## 精神科神経科

HP : [http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=course.fp7&-lay=set\\_web&order=10&-find](http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=course.fp7&-lay=set_web&order=10&-find)

68 : 大学院・研究コース

基幹となる資格名 : 精神保健指定医、精神科専門医

スペシャリティ資格名 : 精神科指導医

### (1) コースの全体像

医学博士取得・研究活動への参画を主として希望する場合、選択が可能なコースである。

研究活動を開始するタイミングとして次の2パターンがある。

- ① 後期専門研修早期の開始 : 研修開始後1年間大学病院にて精神科基礎研修を行い、その後より大学院に進学する。
- ② 指定医・専門医を取得してからの開始 : 研修開始後3年間大学病院・単科精神科病院・総合病院精神科において各1年の研修を行い、日本精神神経学会専門医及び精神保健指定医の取得に十分な知識・技術を身につける。途中連携大学病院での研修を選択することも可能。その後、大学院在籍あるいは大学病院に勤務しながら研究にたずさわる。

当教室でのおもな研究テーマとしては下記のものがある。

[病態研究]

◆脳画像研究 (PET・NIRS・MRI)

◆神経内分泌学的研究 (DEX・CRH)

◆神経生理学的研究 (MEG)

[病因研究]

■遺伝子研究 (精神疾患の原因遺伝子解明)

■死後脳研究 (脳の病理学・生化学的研究)

■神経細胞新生研究

■神経発達学的研究 (動物モデルで脳研究)

[治療研究]

●覚醒剤逆耐性治療研究 (MAP)

●経頭蓋磁気刺激 (rTMS)

●心理教育研究 (摂食障害・トラウマ・司法)

●若年認知症・高次脳機能障害研究

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	精神科	精神科全般 臨床研究	12	精神科基礎研修 臨床研究	18	1～5 年

群馬大学大学院	神経精神医学	神経精神医学	12	臨床研究・基礎研究	12	4年
高崎総合医療センター(例)	精神科	リエゾン精神医学	1	リエゾン精神医学研修	1	1年
群馬県立精神医療センター(例)	精神科	精神科救急・司法精神医学	7	精神科救急・司法精神医学研修	5	1年
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績

大学院生について、研究は原則として週5日行う。研究時間は研究内容に応じて決まる。生活費は、奨学金、週1日の精神科病院・総合病院精神科での日勤勤務、および夜間や土曜の当直により十分確保できる。医員については主に研究に関連のある症例を担当する。

### (4) コースの指導状況

テーマごとに研究チームを組むプロジェクト研究方式を採用している。各プロジェクトが週1回程度、随時に行うミーティング以外に、指導教官と大学院生・研究担当医の全員で月1回程度のラボ・ミーティングをもち、研究の進行状況を報告・検討し、全体の運営を調整している。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	厚生労働省
資格名	精神保健指定医
資格要件	3年以上の精神科実務経験を有し、指定の研修会への参加が必要である。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	専門医
資格要件	5年以上の臨床経験を有し、うち3年以上の精神科臨床経験を有するもの。ただし、3年以上の精神科臨床経験については、精神科の基礎的素養が身につけられる医療機関（日本精神神経学会が認定した研修施設である精神科病院、大学病院や総合病院の精神科等）において、常勤の精神科医の指導のもとでの精神科臨床実務経験が1年以上あることが必要。
学会の連携等の概要	
当教室三國雅彦教授が理事を務める精神科基本領域認定学会である。	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	指導医
資格要件	指導医は、原則として専門医であり所定の指導医講習会への参加が必要である。
学会の連携等の概要	

コース責任者名：三國雅彦

コース担当者名：福田正人

指導医名：米村公江、間島竹彦、成田耕介、亀山正樹、高橋啓介、  
武井雄一、成田秀幸、青山義之、酒井努

## 精神科神経科

HP : [http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=courses.fp7&-lay=set\\_web&order=10&-find](http://www2.med.gunma-u.ac.jp/fmi/xsl/neurosci/index.xsl?-db=courses.fp7&-lay=set_web&order=10&-find)

69 : 精神科サブスペシャリティ取得コース

基幹となる資格名 : 精神保健指定医、精神科専門医

スペシャリティ資格名 : 日本児童青年期精神医学会認定医、

日本総合病院精神医学会専門医、

精神保健判定医、日本老年精神医学会専門医、

日本臨床精神神経薬理学会専門医

### (1) コースの全体像

後期専門研修開始後3年間は、基本的に大学病院・単科精神科病院・総合病院精神科において各1年の研修を行い、精神科全般について必要な知識・技術・経験を身につけ、日本精神神経学会専門医及び精神保健指定医を習得する。3年経過後は、各サブスペシャリティのグループに属し、専門医等の取得を目的とし診療に従事する。また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、コースの途中に大学院への進学を選択したり、連携大学病院での研修を選択することも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	精神科	児童青年期・リエゾン・老年期精神医学・臨床精神神経薬理学	11	児童青年期・リエゾン・老年期精神医学・臨床精神神経薬理学研修	10	2～5年
群馬県立精神医療センター(例)	精神科	精神科救急 司法精神医学	7	精神科救急・司法精神医学研修	5	1～3年
東京都立梅ヶ丘病院(例)	精神科	児童青年期	8	児童青年期精神医学研修	1	3年
前橋赤十字病院(例)	精神科	リエゾン精神医学	1	リエゾン精神医学研修	1	1～3年
高崎総合医療センター(例)	精神科	リエゾン精神医学	1	リエゾン精神医学研修	1	1～3年
				受入人数	5名	

### (3) コースの実績、(4) コースの指導状況

児童青年期については、当教室では児童思春期専門外来及びこども発達相談を行っており、指導医のもと研修が可能である。また、地域の児童相談所や精神保健福祉センターとも連携し、症例検討会等も行っている。さらに、東京都立梅ヶ丘病院及び埼玉県立精神医療センターにて研修実績がある。

総合病院・リエゾン精神医学については、当院は県内でも希少な精神科病床を有する総合病院であり、県内各地より精神科及び身体科病床に症例が集まってくるため、入院患者のリエゾン・緩和ケアについて十分な研修が可能である。

司法精神医学については、当県は行政との連携により精神科救急システムが整備されており、その中核を県立精神医療センターが担っている。特に触法行為を認めた患者は多数おり、措置診察や行政との連携についても研修が可能である。また刑事訴訟法上における精神鑑定も指導医のもとで研修可能である。心神喪失者等医療観察法における入院治療・通院治療・鑑定入院も経験できる。

老年期精神医学については、入院・外来とも認知症を含む器質性精神疾患の症例を多く経験できる。また、関連病院で認知症疾患専門病棟や老人保健施設を併設している病院が多く、十分な症例数が経験可能である。また家庭裁判所より成年後見人制度の鑑定依頼を受け、鑑定を行っている。

臨床神経精神薬理学については、薬理学についての専門的な知識を学会指導医から指導を受ける。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	厚生労働省
資格名	精神保健指定医
資格要件	3年以上の精神科実務経験を有し、指定の研修会への参加が必要である。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	精神科専門医
資格要件	5年以上の臨床経験を有し、うち3年以上の精神科臨床経験を有するもの。ただし、3年以上の精神科臨床経験については、精神科の基礎的素養が身につけられる医療機関（日本精神神経学会が認定した研修施設である精神科病院、大学病院や総合病院の精神科等）において、常勤の精神科医の指導のもとでの精神科臨床実務経験が1年以上あることが必要。
学会の連携等の概要 当教室三國雅彦教授が理事を務める精神科基本領域認定学会である。	

学会等名	日本児童青年期精神医学会
資格名	認定医
資格要件	(1) 現在児童青年精神医学の臨床に従事しており、かつ、一般精神科2年以上、および児童青年精神科3年以上を含む5年以上の臨床経験を有するもの。 (2) 継続して5年以上日本児童青年精神医学会の会員であること。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本総合病院精神医学会
資格名	専門医
資格要件	①日本精神神経学会専門医または精神保健指定医であること。 ②継続して5年以上日本総合病院精神医学会の会員であること。 ③5年以上認定研修施設において総合病院精神医学の研修をしていること。
学会の連携等の概要 学会認定指導医3名が常駐し、指導にあたる。総会出席に際して診療面でのサポートを行っている。	

法令名	心神喪失者等医療観察法
資格名	精神保健判定医
資格要件	精神保健審判員及び鑑定医として必要な学識経験を有すること。
学会の連携等の概要 群馬県の精神保健判定医は全て当教室関連の施設より選出されている。	

学会等名	日本老年精神医学会
資格名	専門医
資格要件	①研修医期間を含め7年以上の臨床経験を有すること。 ②精神保険指定医ないし専門医、あるいはこれに準ずる資格を有していること。 ③申請時において、継続して5年以上本学会の会員であること。
学会の連携等の概要 学会認定指導医が指導にあたる。関連病院でも学会認定指導医が常駐し指導可能である。	

学会等名	日本臨床精神神経薬理学会
資格名	専門医
資格要件	①医学の基本的領域の専門医またはこれに相当するもの。 ②継続して3年以上日本臨床精神薬理学会の会員であること。 ③3年以上認定研修施設において研修をしていること。 ④臨床精神薬理学に関する学術活動をしていること。
学会の連携等の概要 学会認定指導医である教授・准教授の指導により、学会発表を行っている。	

コース責任者名：三國雅彦

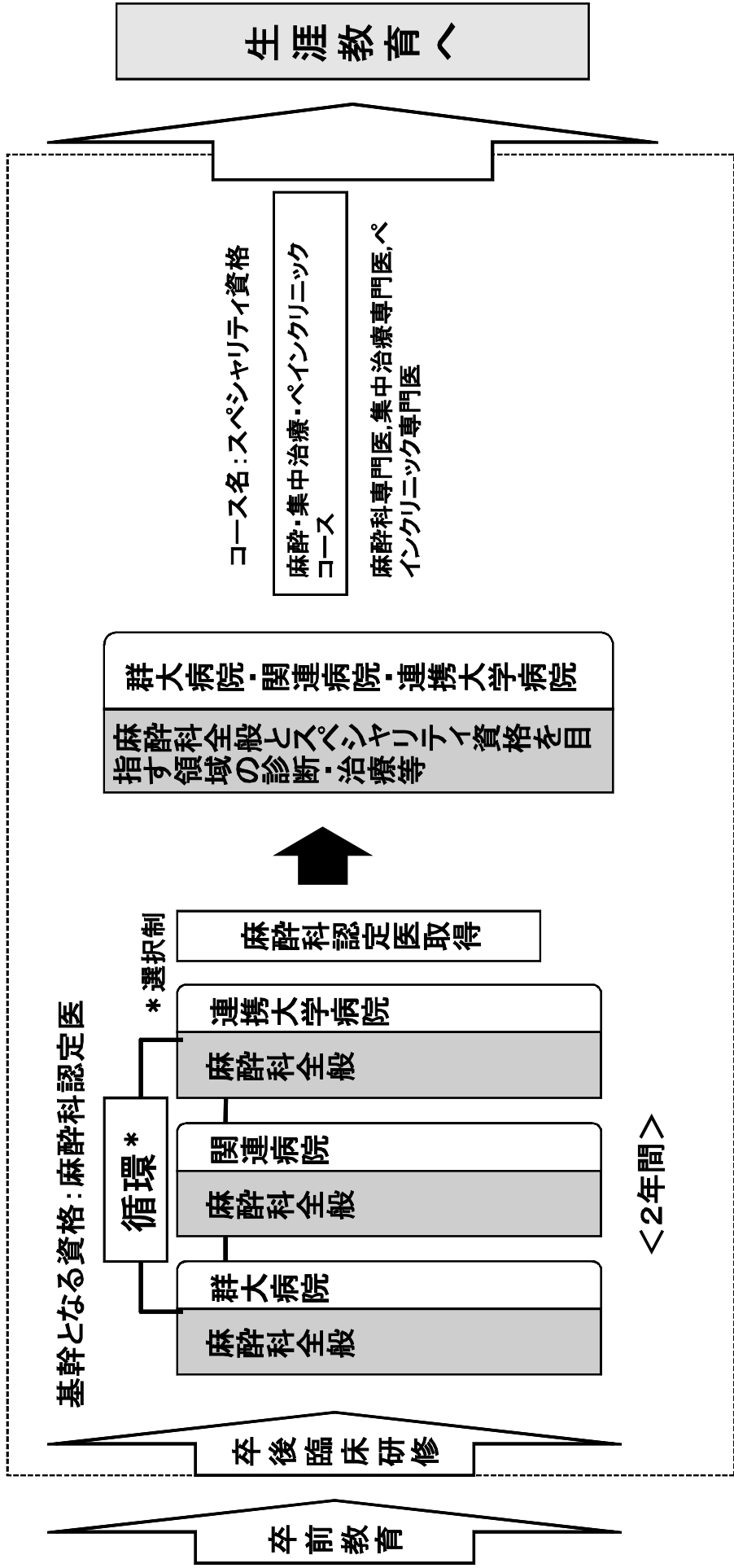
コース担当者名：福田正人、米村公江、間島竹彦、成田耕介、成田秀幸

指導医名：亀山正樹、高橋啓介、武井雄一、青山義之、酒井努

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：麻酔科蘇生科

43：麻酔・集中治療・ペインクリニックコース 募集(人数10名)





麻酔科蘇生科 HP : <http://anesthesiology.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

43 : 麻酔・集中治療・ペインクリニックコース

基幹となる資格名 : 麻酔科認定医

スペシャリティ資格名 : 麻酔科専門医、集中治療専門医、ペインクリニック専門医

### (1) コースの全体像

麻酔・集中治療・ペインクリニックコースでは、広範な周術期管理、重症病態管理、疼痛管理を研修する。周術期管理では、手術麻酔を中心として、術前患者管理、術中管理、術後管理を各種の病態毎に研修し、基礎的な麻酔手技の技術を更に高めるとともに、difficult airway management、経食道心超音波診断法、小児麻酔、産科麻酔なども研修する。また、集中治療部において、高侵襲手術後の術後管理、重症病態管理を集中治療医として経験する。最新の人工呼吸器を用いた呼吸管理や補助循環を含めて循環管理、血液濾過透析などによる体液管理も研修項目となる。疼痛管理では基本的な神経ブロック法に加え、超音波ガイド、CTガイド、内視鏡下などの神経ブロックも経験する。主に薬物に依る疼痛管理では、緩和医療を含む慢性疼痛管理も研修する。有痛性の末梢循環障害に対する治療も研修する。また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。さらに希望に応じて、連携大学病院での研修を選択することも可能である。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	麻酔科蘇生科	麻酔神経科学分野	21	周術期管理と集中治療、ペインクリニック手技の研修	10人	1～3年
前橋赤十字病院	麻酔科・救命救急センター	同左	4	周術期管理と集中治療、救急医療の研修	10人	1～3年
伊勢崎市民病院	麻酔・ペインクリニック科	同左	3	周術期管理とペインクリニックの研修	8人	1～3年
日本赤十字社医療センター	麻酔集中治療部	同左	5	周術期管理と救急医療の研修	10人	1～3年
亀田総合病院	麻酔科	同左	4	周術期管理の研修	10人	1～3年
宇都宮済生会病院	麻酔科	同左	3	周術期管理と集中治療の研修	6人	1～3年
獨協医科大学附属病院	麻酔ペインクリニック科	同左	21	ペインクリニックと東洋医学の研修	2人	1～3年

信州大学医学 部附属病院	麻酔科蘇生 科	同左	12	ペインクリニックの 研修	2人	1～3年
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

既にこのコースと同様のキャリアパスを用いて、多くの麻酔専門医、麻酔指導医、集中治療専門医、緩和医療専従医などが養成されている。関東周辺エリアにおいて、このプログラムの前身となるプログラムを修了した200名を超える医師が活躍しており、30を超える基幹病院において麻酔科部長、手術部長、集中治療部長、ペインクリニック科医長として後進の指導に当たっている。

### (4) コースの指導状況

日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本ペインクリニック学会のそれぞれから指導施設として認定されている上記病院群において、初期研修を終えた若年医師を継続的に指導している。各施設には各領域の指導医、認定医が配置されており、専門医取得を意識した症例提示、実技指導、坐学指導を行っている。また、経験症例の報告や臨床研究への参画を通じて、学会発表、論文発表も一定年限内に確実に出来るよう配慮している。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本麻酔科学会
資格名	麻酔科認定医
資格要件	麻酔科標榜医（以下標榜医）であること、あるいは標榜医許可申請中であること。
学会の連携等の概要 日本における麻酔科医師の統括団体である。群馬大学、獨協医科大学、信州大学、日本大学の何れも、この学会に評議員や理事を輩出し、学会本体の運営にも深く関与している。	

学会等名	日本麻酔科学会
資格名	麻酔専門医
資格要件	麻酔科認定医取得後、更に3年以上の認定指導施設における研修と、学会参加・発表などの履歴、記述試験、口頭面接試験、実技試験の合格
学会の連携等の概要 日本における麻酔科医師の統括団体であり、本邦での専門医認定の草分け的存在である。群馬大学、獨協医科大学、信州大学、日本大学の何れも、この学会に評議員や理事を輩出し、学会本体の運営にも深く関与している。	

学会等名	日本集中治療医学会
資格名	集中治療専門医
資格要件	麻酔専門医等、関連学会の専門医資格取得後更に2年以上の認定指導施設における研修と、学会参加・発表などの履歴、記述試験、口頭面接試験の合格
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本の集中治療医の統括団体であり、救急医学・循環器医学・麻酔学などの専門領域から、更に集中治療医学に特化した医療技術を研鑽する団体である。このプログラムに参加する各大学も学会の運営に関与している。</p>	

学会等名	日本ペインクリニック学会
資格名	ペインクリニック専門医
資格要件	麻酔専門医等、関連学会の専門医資格取得後更に1年以上の認定指導施設における研修と、学会参加・発表などの履歴、記述試験の合格
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本の疼痛治療学の統括団体であり、麻酔、整形外科、神経内科などの専門領域から、更にペインクリニックに特化した医療技術を研鑽する団体である。このプログラムに参加する各大学も学会の運営に関与している。</p>	

コース責任者名：齋藤繁

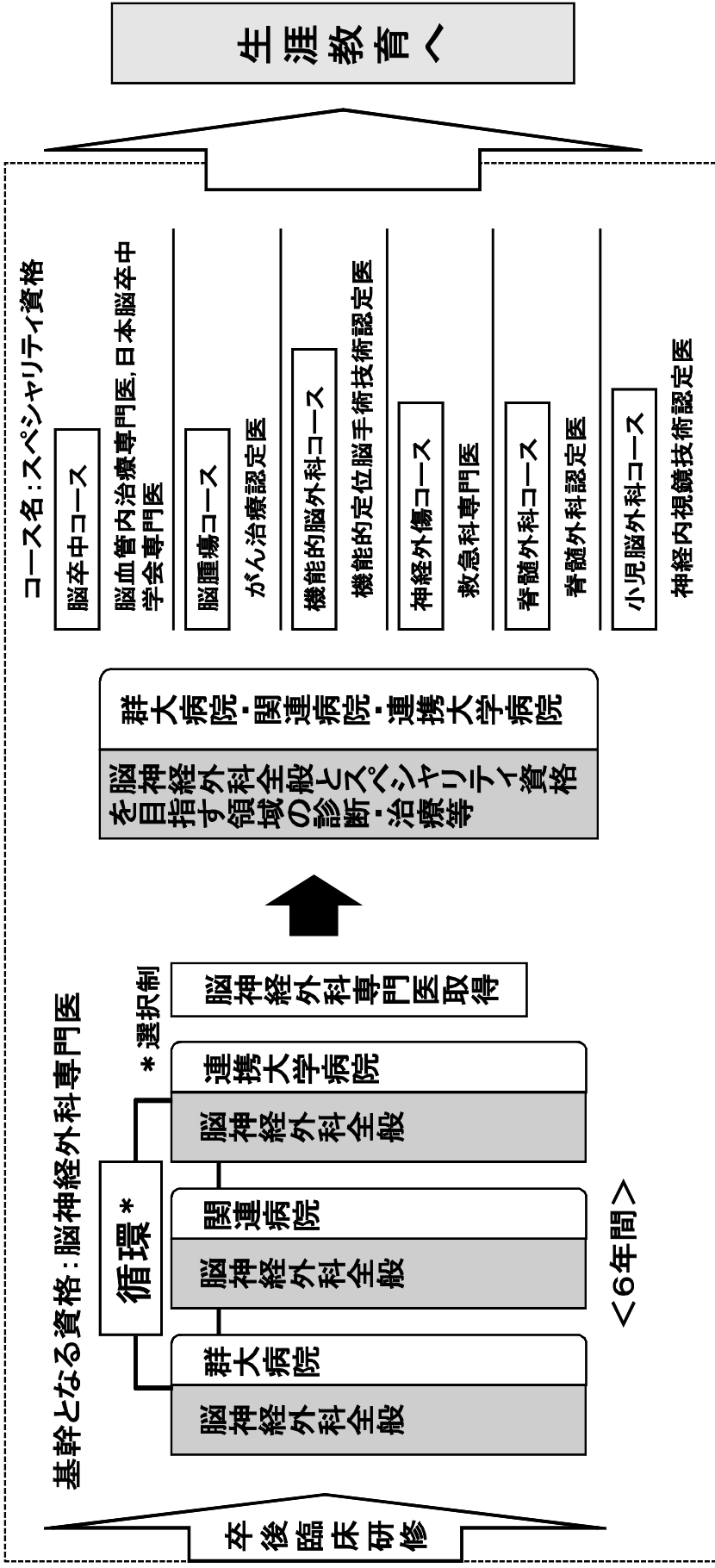
コース担当者名：齋藤繁、麻生知寿

指導医名：國元文生、門井雄司、西川光一、小幡英章、日野原宏、  
肥塚史郎、荻野祐一、中島邦枝

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名:脳神経外科

- 44:脳卒中コース 募集(人数2名)
- 45:脳腫瘍コース 募集(人数2名)
- 46:機能的脳外科コース 募集(人数1名)
- 47:神経外傷コース 募集(人数1名)
- 48:脊髄外科コース 募集(人数1名)
- 49:小児脳外科コース 募集(人数1名)



## 脳神経外科

### 44：脳卒中コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：脳血管内治療専門医、日本脳卒中学会専門医

#### (1) コースの全体像

くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中は脳神経外科にて多くの症例を経験することができます。まずは脳卒中急性期の神経学的診断や検査の基本を学び、その後の点滴等による保存的治療やクリッピング等の外科的治療を経験します。主に大学病院において脳卒中に関する基礎的研究が行われており、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することが可能です。脳神経外科専門医取得後はさらに専門性を高め、基礎的な研究を続けながら専門領域の手術を重ねたり、関連施設において多岐にわたる脳卒中の外科治療の症例を重ねたりします。近年、脳卒中の血管内治療症例も増えており、日本脳神経血管内治療学会の専門医の取得を目指す場合もあります。他、日本脳卒中学会の専門医の取得も可能です。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	脳神経外科	脳動脈瘤手術脳血管内治療	5	脳卒中手術、血管内治療脳卒中基礎研究	2	1～4年
老年病研究所附属病院	脳神経外科	脳動脈瘤手術脳血管内治療	2	脳卒中手術、血管内治療	2	1～4年
前橋赤十字病院	脳神経外科	脳動脈瘤手術脳血管内治療	3	脳卒中手術、血管内治療	2	1～4年
				受入人数	2名	

#### (3) コースの実績

脳卒中の臨床例を経験すると共に、脳虚血及び脳血管攣縮の基礎研究等による論文発表、学位取得を行ってまいりました。血管内治療につきましては、2007年11月時点で、全国で脳神経血管内治療学会専門医は496名（うち指導医104名）で、群馬大学関連病院においては10名（うち指導医2名）資格を有しています。

#### (4) コースの指導状況

一般的にどの脳神経外科施設においても、脳卒中の治療は多く経験できます。学位の取得を目指した研究については主に大学病院において実験設備の整備、指導が

行われています。血管内治療については、指導医の在籍する施設において研修をしていただき、集中的に症例を経験いたします。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	<p>1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。関連学科とは</p> <p>神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脳神経血管内治療学会
資格名	日本脳神経血管内治療学会専門医
資格要件	<p><u>訓練（基礎、5年以上）</u>；日本脳神経外科学会専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医</p> <p><u>訓練（脳血管内治療、1年）</u>；研修施設で通算1年以上の常勤訓練（実地監査免除）または指導医症例の見学（30例、1例毎の証明要、過去6年以内）</p>

	<p>脳脊髄血管撮影；300例</p> <p>脳血管内治療の経験；100例（内訳を変更、今後5年毎に見直し予定）、指導医専門医の下で経験する（指導者名を全例記載）</p> <p>試験あり。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>資格条件にもあるが、関連学会の専門医取得が必要で、日本脳神経外科学会医、日本医学放射線学会、日本内科学会と連携しています。</p>	

学会等名	日本脳卒中学会
資格名	日本脳卒中学会専門医
資格要件	<p>以下の1～5をすべて満たすものとする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本神経学会神経内科専門医、日本脳神経外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医、日本救急医学会専門医、日本内科学会内科専門医、日本外科学会専門医、日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、日本老年医学会老年病専門医のいずれかを有していること。</li> <li>申請締切日時点（2010年4月末日時点）で、日本脳卒中学会に在籍3年度以上（2009年1月31日以前に入会された方）で会費を完納していること。 但し、特例として本学会機関誌「脳卒中」あるいは日米合同誌「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」に筆頭著者として掲載された論文がある場合に限り、日本脳卒中学会在籍期間1年度以上（2009年4月末日以前に入会された方）であっても(2)を満たすものとする。</li> <li>日本脳卒中学会認定研修教育病院（当学会HP：<a href="http://www.jsts.gr.jp/">http://www.jsts.gr.jp/</a>にて御確認下さい）で、通算3年以上（申請締切日の2010年4月末日時点で）の研修歴があり、現在脳卒中診療に従事していること。 臨床研修歴の確認のため、脳卒中の症例要約を10症例提出する。 なおこの要約には教育責任者（診療科の長、あるいは日本脳卒中学会専門医）の署名・捺印が必要である。</li> <li>日本脳卒中学会もしくは日本脳卒中の外科学会で、1回以上筆頭演者として発表ないし講演していること。</li> <li>本学会機関誌「脳卒中」あるいは日米合同誌「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」に1編以上（共著でも可）、または日本脳卒中学会誌以外の学術雑誌に脳卒中に関する原著論文もしくは症例報告等が2編以上（共著でも可）掲載されていること。</li> </ol> <p>試験あり。</p>

学会の連携等の概要

資格条件にもあるが、関連学会の専門医取得が必要で、脳神経外科学会その他、日本神経学会、日本リハビリテーション医学会、日本救急医学会、日本内科学会、日本外科学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本医学放射線学会、日本核医学会、日本老年医学会と連携している。

コース責任者名：好本裕平

コース担当者名：吉田貴明

指導医名：佐藤晃之、内藤功、高玉真、朝倉健、藤巻広也、橋場康弘



## 脳神経外科

### 45：脳腫瘍コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：がん治療認定医

#### (1) コースの全体像

脳腫瘍に関する診断、手術治療、放射線、化学療法等の様々な知識と技術を会得することを目的とします。手術治療に関しては、最新の術中ナビゲーション装置、術中 CT 診断、術中蛍光診断、モニタリング等を駆使し、頭蓋底部に至るまで様々な腫瘍の摘出を学びます。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することが可能です。病理診断につきましては、群馬大学第一病理学教室と症例検討会を定期的で開催しております。放射線治療につきましても、定期的な症例検討を行い、将来的には脳腫瘍の重粒子線治療にも協力する予定です。脳腫瘍専門医は特に設けられておりませんが、化学療法を施行する立場よりがん治療専門医の取得を目指す場合もあります。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	脳神経外科	脳腫瘍	2	脳腫瘍の臨床及び基礎研究	2	1～4年
埼玉県立がんセンター	脳神経外科	脳腫瘍	2	脳腫瘍の治療 がん化学療法	2	1～4年
高崎総合医療センター	脳神経外科	脳腫瘍	1	脳腫瘍の治療	2	1～4年
				受入人数	2名	

#### (3) コースの実績

脳腫瘍の多数の治療に加え、基礎研究においても多数の論文発表を行っております。

#### (4) コースの指導状況

脳腫瘍に関する基礎的研究は大学内の各教室と連携し、論文発表、学位取得を行ってまいりました。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	<p>1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。関連学科とは</p> <p>神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本がん治療認定医機構
資格名	日本がん治療認定医
資格要件	<p>1. 日本国の医師免許を有すること</p> <p>2. 所属する基本領域の学会の認定医又は専門医、あるいは日本口腔外科学会の専門医の資格を有すること。</p> <p>3. 本機構の定める認定研修施設において、本機構の定める『研修カリキュラム』に基づくがん治療研修（通算2年以上のフルタイム研修、ただし医師国家試験合格後2年間の初期基盤診療科研修期間を除く）を終了し、指導責任者（当機構 暫定教育医または認定医）による証明がなされていること。担当医として経験したがん患者</p>

	<p>(入院・外来は問わない)のうち20例(予備を含め25例まで申請可)の症例一覧を提出する。</p> <p>4. 過去5年間に下記の業績を有すること。</p> <p>①学会発表 「がん診療」についての業績2件(予備を含め5件まで申請可) 「がん診療」についての業績 審査基準(学会発表)</p> <p>②論文発表 「がん診療」についての業績1件(予備を含め3件まで申請可) 「がん診療」についての業績 審査基準(論文発表)</p> <p>5. 本機構が開催する教育セミナーに参加し、認定試験に合格していること。</p> <p>6. 過去5年間に指定された学術単位を合計で20単位以上取得していること。</p>
<p>学会の連携等の概要 主な関連学会；日本脳腫瘍学会、日本脳腫瘍の外科学会、日本脳腫瘍病理学会</p>	

コース責任者名：好本裕平

コース担当者名：菅原健一

指導医名：登坂雅彦、堀口桂志、楮本清史、早瀬宣昭、栗原秀行

## 脳神経外科

### 46：機能的脳外科コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：機能的定位脳手術技術認定医

#### (1) コースの全体像

パーキンソン病、不随意運動、難治性疼痛、てんかんなどを対象とした機能的脳外科治療の会得を目指します。特にパーキンソン病や不随意運動に関する定位的脳手術は国内有数の実績を誇り、多くの臨床例を経験できます。基礎的、臨床的研究は主に大学病院にて行い、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して大学院への進学等を選択することが可能です。群馬大学は機能的定位脳手術技術認定施設に認定されており、機能的定位脳手術技術認定医の取得が可能です。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	脳神経外科	機能的脳外科	2	機能的脳外科の臨床 機能的脳外科の研究	1	1～4年
日高病院	脳神経外科	機能脳外科	1	機能的脳外科の臨床	1	1～4年
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

機能的脳外科における国内の中心的施設として多くの症例を治療してきました。

#### (4) コースの指導状況

臨床的指導に加え、大学院生に対する研究・論文指導を行い、学位取得を行ってまいりました。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。

	<p>関連学科とは 神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。 試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本定位・機能神経外科学会
資格名	機能的定位脳手術技術認定医
資格要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳神経外科専門医かつ日本定位・機能神経外科学会会員であること。</li> <li>・認定施設にて5症例以上の手術症例に関与していること。</li> </ul>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：好本裕平

コース担当者名：平戸政史

指導医名：渡辺克成

## 脳神経外科

### 47：神経外傷コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：救急科専門医

#### (1) コースの全体像

高度救命センターやICUを有した基幹病院にて頭部外傷の先進的治療を目指します。重症頭部外傷においては、脳への直接損傷に加え、頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳循環代謝障害等により二次的損傷が加わるため、この病態生理の理解と研究が求められます。頭蓋内出血に対する外科的治療や神経保護を目的とした薬物治療、低体温治療のエキスパートを目指します。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して大学院への進学等を選択することも可能です。日本救急医学会認定の救急科専門医の取得を目指す場合もあります。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	脳神経外科	神経外傷	5	神経外傷の臨床	1	1～4年
前橋赤十字病院	脳神経外科	神経外傷	4	神経外傷の臨床 高度救命救急センターでの臨床	1	1～4年
高崎総合医療センター	脳神経外科	神経外傷	2	神経外傷の臨床 高度救命救急センターでの臨床	1	1～4年
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

関連施設において、重症頭部外傷にたいする、脳モニタリングや低体温治療等を積極的に行っております。

#### (4) コースの指導状況

外傷性頭蓋内出血にたいする血腫除去や外減圧術の手術指導を行っております。また、外傷、救急に関する各種講習、インストラクター養成にも積極的に参加しております。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	<p>1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。関連学科とは</p> <p>神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本救急医学会、日本神経外傷学会
資格名	救急科専門医
資格要件	<p>1. 日本国の医師免許を有すること。</p> <p>2. 申請時において、継続して3年以上本学会の会員であること。</p> <p>3. 5年以上の臨床経験を有すること。</p> <p>4. 専門医指定施設またはこれに準じる救急医療施設において、救急部門の専従医として3年以上の臨床修練を行った者であること。または、それと同等の学識、技術を習得した者であること。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：好本裕平

コース担当者名：佐藤晃之

指導医名：吉田貴明、長岐智仁、朝倉健、藤巻広也、橋場康弘、田中志岳  
笹口修男



## 脳神経外科

### 48：脊髄外科コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：脊髄外科認定医

#### (1) コースの全体像

脊髄腫瘍や脊椎変性疾患に対するエキスパートを目指します。脊髄外科の認定医、指導医を目指す場合、国内の専門施設への留学も視野に入れた研修も可能です。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することも可能です。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学 医学部附属病院	脳神経外科	脊髄外科	1	脊髄腫瘍の治療	1	1～4年
高崎総合医療センター	脳神経外科	脊髄外科	1	脊髄腫瘍の治療	1	1～4年
前橋赤十字病院	脳神経外科	脊髄外科	1	脊髄腫瘍の治療 小児脊椎奇形の治療	1	1～4年
伊勢崎市民病院	脳神経外科	脊髄外科	1	脊椎変性疾患の治療	1	1～4年
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

脊髄腫瘍の顕微鏡下での摘出や、脊椎変性疾患の治療を行っております。

#### (4) コースの指導状況

関連施設に加え、埼玉医科大学等での研修を行ってまいりました。将来的にも獨協医科大学、埼玉医科大学等との連携を目指しております。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。

	<p>関連学科とは 神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本脊髄外科学会
資格名	脊髄外科認定医、指導医
資格要件	<p>脊髄外科認定医</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳神経外科専門医の資格を有し、日本脊髄外科学会に連続して4年以上入会していること。</li> <li>2. 認定訓練施設で1年以上の研修経験があること。訓練施設長の推薦および研修期間の手術記録（執刀医または第一助手としての手術）の提出をし、さらに学術活動がきちんとなされていること。</li> <li>3. 脊髄外科指導医のもと、A項あるいはC項病院の常勤医として過去に総計100件以上、頰椎・腰椎の変性疾患の手術を中心に脊椎脊髄の手術を経験し、複数の脊髄外科指導医の推薦がある者。</li> <li>4. 過去に十分な脊髄外科の経験と当学会への貢献がある脳神経外科専門医を審査の対象とする。</li> <li>5. 上記条件に加えて、アカデミックスコアとして下記の項目をスコア化しており、一定スコアをクリアしていることも選考基準になる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄外科学会過去4年間の発表</li> </ul> </li> </ol> <p>シンポジウム、ランチョン、サテライト、ハンズオン、一般発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他全国規模の主要学会</li> </ul> <p>招待講演（ランチョン、モーニングセミナー等を含む）、シンポジ</p>

	<p>ウム、一般発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊椎脊髄に関する過去10年間の論文および書籍 (邦文・英文 共著を含める)</li> <li>・ 脊髄外科教育セミナーの参加</li> </ul> <p>などをもとに判定する。</p> <p>脊髄外科指導医</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本脳神経外科学会専門医であること。</li> <li>2. 日本脊髄外科学会の会員を連続して4年以上継続していること。</li> <li>3. 脊髄外科学会認定医であること。</li> <li>4. 過去4年間に日本脳神経外科学会認定A項、C項病院にて執刀医または第一助手として実際に参加した手術が年間50件以上（合計200件以上）であること。</li> <li>5. 上記条件に加えて、アカデミックスコアとして下記の項目をスコア化しており、一定スコアをクリアしていること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊髄外科学会過去4年間の発表</li> </ul> </li> </ol> <p>シンポジウム、ランチョン、サテライト、ハンズオン、一般発表 その他の主要学会（日本脳神経外科総会、日本脳神経外科コンGRESS、日本脊椎脊髄病学会、日本脊髄障害医学会、国際学会に限る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 招待講演（ランチョン、モーニングセミナー等を含む）、シンポジウム、一般発表</li> <li>・ 過去4年間の居住地県外での特別講演</li> <li>・ 脊椎脊髄に関する過去10年間の論文および書籍 (邦文・英文 共著を含める)</li> <li>・ 全国規模の脊椎脊髄の学会、研究会の会長経験</li> <li>・ 全国規模の脊椎脊髄の学会、研究会の世話人、幹事</li> <li>・ 脊椎脊髄関係の雑誌編集、査読の貢献</li> </ul>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：好本裕平

コース担当者名：本多文昭

指導医名：栗原秀行、藤巻広也、矢内由美

## 脳神経外科

### 49：小児脳外科コース

基幹となる資格名：脳神経外科専門医

スペシャリティ資格名：神経内視鏡技術認定医

#### (1) コースの全体像

小児先天奇形や小児脳腫瘍等の治療のエキスパートを目指します。神経内視鏡を用いた水頭症治療の技術に関し、神経内視鏡技術認定医の取得を目指す場合もあります。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することも可能です。将来的に他大学病院との連携も目指しております。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学 医学部附属 病院	脳神経外科	小児脳外科	3	小児脳腫瘍 小児先天奇形	1	1～4年
前橋赤十字 病院	脳神経外科	小児脳外科	2	小児先天奇形 小児外傷	1	1～4年
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

新生児からの先天奇形の治療や小児脳腫瘍の治療を重ねております。

#### (4) コースの指導状況

主に県内2カ所の施設にて治療、指導を行っております。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	脳神経外科専門医
資格要件	1 卒後臨床研修2年の後、社団法人日本脳神経外科学会認定の専門医のもとで通算4年以上所定の訓練場所で訓練を経たもの。この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従するものとする。日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従するものとする。尚関連学科についての訓練は脳神経外科医以外の適当な指導者についてもよい。 関連学科とは 神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等であり、これらの

	<p>学科については脳神経外科診療に必要な程度の知識を修得することが要求される。</p> <p>2 専門医を目指すものは日本脳神経外科学会が指定する研修記録帳（データファイル）に研修記録および研修到達目標を記入し、専門医認定委員会に提出しなければならない。研修症例は、20例は外傷・奇形・機能的脳手術・脊髄脊椎疾患（各々3例以上合計20例）、20例は腫瘍、20例は動脈瘤・動静脈奇形の直達手術症例であることが望まれる。一訓練施設でこれらが満たされない場合は複数施設に訪問研修することが望ましい。</p> <p>3 少なくとも4年以上社団法人日本脳神経外科学会の正会員であり、所属する指定訓練場所（A項）の長である専門医が日本脳神経外科学会の認定を受ける資格があると認めたもの。また、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員である外国人医師で、指定訓練場所の長が認定を受ける資格があると認めたもの。</p> <p>試験あり。</p>
学会の連携等の概要	

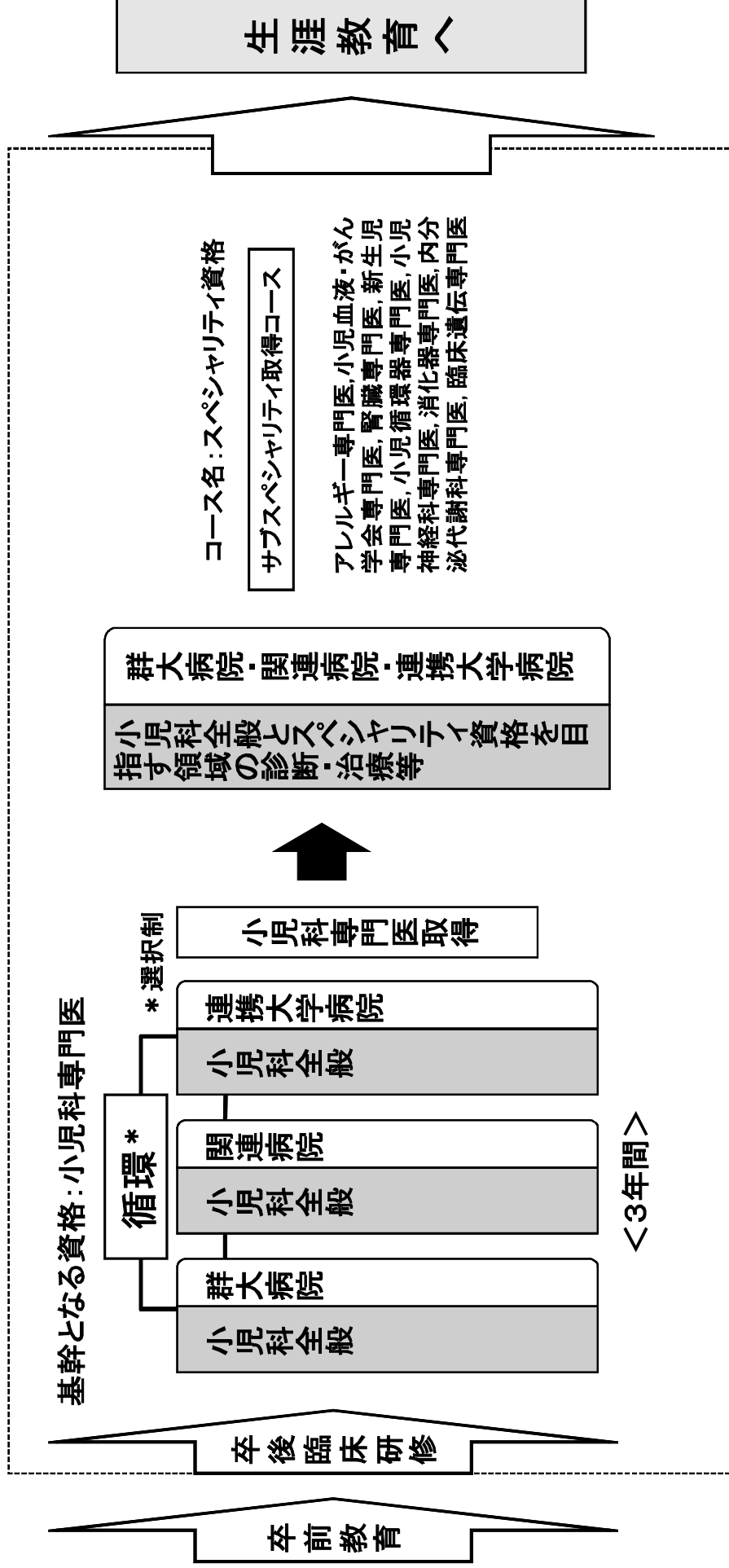
学会等名	日本神経内科学会
資格名	神経内視鏡技術認定医
資格要件	<p>1. 本制度の対象手術手技は、1) 第3脳室底開窓術・生検術を含む脳室・嚢胞内手術、2) 経蝶形骨洞手術、3) 脳内血腫吸引術、および4) 神経内視鏡補助顕微鏡手術、5) その他の脳内視鏡手術（脳内視鏡を用いる脳神経外科手術手技を含む）とする。</p> <p>2. 上記対象手術手技を合計助手として10例以上、術者として10例以上、いずれも*指導者のもとで経験していなければならない（*指導者は本制度技術認定医を取得していなければならない）。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：好本裕平  
コース担当者名：登坂雅彦  
指導医名：朝倉健、藤巻広也

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：小児科

50:サブスペシャリティ取得コース 募集(人数10名)



小児科 HP : <http://ped.dept.med.gunma-u.ac.jp/ipa/index.html>

50 : サブスペシャリティ取得コース

基幹となる資格名 : 小児科専門医

スペシャリティ資格名 : アレルギー専門医、小児血液・がん学会専門医、  
腎臓専門医、新生児専門医、小児循環器専門医、  
小児神経科専門医、消化器専門医、内分泌代謝専門医、  
臨床遺伝専門医

### (1) コースの全体像

日本小児科学会の専門医を医師免許取得後5年後に取得するためには、小児科学会の認定する施設での小児科臨床研修を3年以上（そのうち半数は研修支援施設（大学等大規模な施設））受け、筆記試験、症例要約評価（10分野 30症例）、面接試験及び審査に合格する必要がある。小児科のいくつかの領域には専門医制度が存在するが、小児科専門医であることが必要条件である。当コースでは、小児科専門医の取得に偏りなく各疾患の診療を体験できるよう、関連病院で一次、二次疾患を中心に研修し、大学病院及び小児医療センターで三次医療を研修する。この間、大学、関連病院間の良好な連携のもと、各専門医からのアドバイスを得ることができる。小児科専門医取得後は、各人の希望により新生児、アレルギー、血液、内分泌、神経、循環器、腎臓、消化器等のサブスペシャリティ決め、分野により研修病院を選択し研修を積むことにより各分野の専門医、さらには指導医を取得することが可能である。また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。連携大学病院での研修を選択することもできる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学 医学部附 属病院	小児科	小児アレルギー 小児感染免疫 小児呼吸器 小児血液腫瘍 小児内分泌代謝 小児神経 新生児 小児消化器 小児腎臓 小児精神 小児循環器	18人	小児三次疾患研修	2人	1年～2年
小児医療 センター	小児科	小児アレルギー 新生児 小児血液腫瘍	18人	小児三次疾患研修	2人	1年～2年

		小児循環器 小児神経 小児腎臓 小児精神				
桐生厚生 総合病院	小児科	小児一般 新生児	4人	小児一次・二次疾患 研修	2人	1年～2 年
群馬中央 総合病院	小児科	小児一般 小児腎臓 新生児	4人	小児一次・二次疾患 研修	2人	1年～2 年
公立藤岡 総合病院	小児科	小児一般 新生児 小児内分泌代謝	4人	小児一次・二次疾患 研修	2人	1年～2 年
				受入人数	10名	

### (3) コースの実績

新臨床研修制度開始前を含み毎年4～8名の小児科専門医を輩出している。その後の各分野の専門医についても、現在、アレルギー、内分泌、血液、腎臓、臨床遺伝、神経、新生児等の分野の専門医を擁している。

### (4) コースの指導状況

大学病院、小児医療センターには常時10名以上の小児科専門医、及び複数の各専門分野専門医がおり綿密なプログラムの基に指導を行っている。上記関連病院でも複数の小児科専門医が常勤しておりカンファレンスを定期的にしながら指導を行っており、小児科臨床はもとより小児科専門医取得さらにその上のステップアップまで十分な指導を受けることができる。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本小児科学会
資格名	小児科専門医
資格要件	初期研修2年終了後、3年以上学会指定施設で研修し試験に合格すること（学会会員歴5年以上）
学会の連携等の概要 各サブスペシャリティ専門医取得には小児科専門医が必要なところが殆どである。	

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	アレルギー専門医
資格要件	日本アレルギー学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	



学会等名	日本小児血液・がん学会
資格名	小児血液・がん学会専門医
資格要件	日本小児血液・がん学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本腎臓病学会
資格名	腎臓専門医
資格要件	日本腎臓学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本周産期・新生児医学会
資格名	新生児専門医
資格要件	日本周産期・新生児医学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本小児循環器学会
資格名	小児循環器専門医
資格要件	日本小児循環器学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本小児神経学会
資格名	小児神経科専門医
資格要件	日本小児神経学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本消化器病学会
資格名	消化器専門医
資格要件	日本消化器病学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内分泌学会
資格名	内分泌代謝科専門医
資格要件	日本内分泌学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本人類遺伝学会
資格名	臨床遺伝専門医

資格要件	日本文類遺伝学会の専門医規定による
学会の連携等の概要	

コース責任者名：荒川浩一

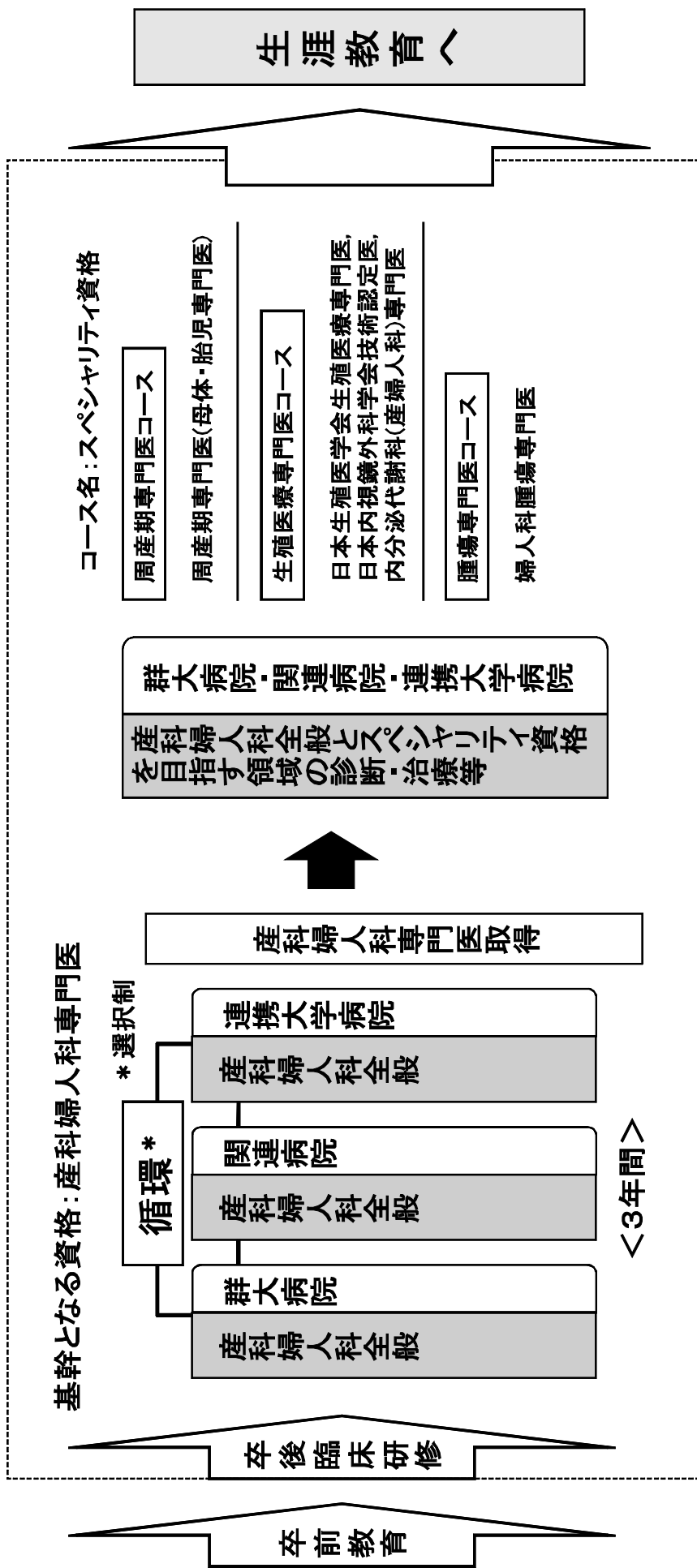
コース担当者名：荒川浩一、大木康史、渡部登志雄、山田思郎、金澤崇、  
澤浦法子、服部重人、小林徹、石毛崇

指導医名：滝沢琢己、岡田恭典、河野美幸

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：産科婦人科

- 51: 周産期専門医コース 募集(人数4名)
- 52: 生殖医療専門医コース 募集(人数2名)
- 53: 腫瘍専門医コース 募集(人数3名)



51 : 周産期専門医コース

基幹となる資格名 : 日本産科婦人科学会専門医

スペシャリティ資格名 : 周産期専門医 (母体・胎児専門医)

(1) コースの全体像

日本周産期新生児医学会の周産期専門医を取得することを目的とする。初期臨床研修修了後、3年間は大学病院または関連病院で産科婦人科の研修を積み、日本産科婦人科学会専門医を取得する。その後、周産期暫定指導医や超音波指導医が所属し、症例豊富な関連施設において引き続き周産期医療を学ぶ。

後期専門研修中には、日本産科婦人科学会の地方部会での症例報告を行い、症例ごとのポイントを把握し、研究会で発表するための症例のまとめ、解析、今後の検討課題を明らかにすることで病態の解析を行う。同時に発表能力の研鑽を行う。

3年間の研修期間に周産期に関する学会発表を少なくとも5回行う。その後の研修期間に筆頭論文を少なくとも2編提出し、周産期専門医を取得する。後期専門研修期間は、初年度より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学を選択することができる。研修先は、下記関連病医院の他、連携大学病院での研修を選択することができる。

(2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	産科婦人科	周産期学	5名	周産期分野の専門的診療能力の習得	3名	1年間
群馬県立小児医療センター	産科	周産期学	3名	周産期分野の専門的診療能力の習得	1名	1年間
桐生厚生総合病院	産婦人科	周産期学	5名	周産期分野の専門的診療能力の習得	1名	1年間
公立藤岡総合病院	産婦人科	周産期学	3名	周産期分野の専門的診療能力の習得	1名	1年間
群馬中央総合病院	産婦人科	周産期学	4名	周産期分野の専門的診療能力の習得	1名	1年間
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

それぞれの研修病院は日本周産期・新生児学会の周産期専門制度の研修病院に指定されている。産婦人科認定医取得後の三年間に、これらの研修指定病院で集中的に研修することにより、最短期間での周産期専門医取得が可能である。

### (4) コースの指導状況

胎児異常・早産症例が中心の研修病院、母体合併症が中心の研修病院、多胎の症例の多い研修病院とそれぞれの研修病院に特徴がある。これら関連の研修病院でそれぞれ研修することにより、早産症例、胎児異常症例、多胎症例、母体合併症症例とそれぞれの症例を偏りなく学ぶことができる。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本産科婦人科学会
資格名	日本産科婦人科学会専門医
資格要件	1. 日本国の医師免許証を有すること。 2. 2年間の新医師卒業後臨床研修（初期研修）を完了している者（研修中に大学院、留学、妊娠・出産、疾病などで臨床を離れる期間として通算6か月までは認められます） 3. 少なくとも専攻医指導施設における研修期間中通算3年以上本会の会員である者。（中途入会者は、9月までの入会に限り1年間の会員歴に算定できます） 4. 専門医認定審査の概要 研修記録や症例レポートなど書類による一次審査と、筆記試験と面接試験からなる二次審査を行う。実地経験目録として研修記録を提出する：分娩症例100例（帝王切開執刀10例以上を含む）、手術症例50例（腹式単純子宮全摘術執刀5例以上を含む）、子宮内容除去手術10例（人工妊娠中絶手術・流産手術・診断のための全搔爬術などの子宮内操作を含む）。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本周産期・新生児学会
資格名	周産期専門医（母体・胎児専門医）
資格要件	3年間の研修期間（うち6ヶ月は基幹施設） 症例要約20例 学会参加：20単位 学会発表：筆頭演者 10単位 論文：筆頭で1編以上 資格認定試験（筆答試験＋口答試験）

#### 学会の連携等の概要

日本産科婦人科学会の専門医取得後、周産期専門医（母体・胎児専門医）の研修開始可能となる。研修期間は3年以上で、うち6ヶ月間は周産期・新生児医学会の周産期専門制度の基幹施設（群馬大学あるいは群馬県立小児医療センター）で研修しなければならない。

コース責任者名：峯岸敬

コース担当者名：勝俣祐介

指導医名：定方久延、笠原慶充、阿美聡明

産科婦人科 HP : <http://obgyn.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

## 52 : 生殖医療専門医コース

基幹となる資格名 : 産科婦人科学会専門医

スペシャリティ資格名 : 日本生殖医学会生殖医療専門医、  
日本内視鏡外科学会技術認定医、  
内分泌代謝科（産婦人科）専門医

### (1) コースの全体像

日本生殖医学会の生殖医療専門医、日本内視鏡外科学会の技術認定医または日本内分泌学会の内分泌代謝科（産婦人科）専門医を取得することを目的とする。初期臨床研修修了後、3年間は大学病院または関連病院で産科婦人科の研修を積み、日本産科婦人科学会専門医を取得する。

後期専門研修中には、日本産科婦人科学会の地方部会での症例報告を行い、症例ごとのポイントを把握し、研究会で発表するための症例のまとめ、解析、今後の検討課題を明らかにすることで病態の解析を行う。同時に発表能力の研鑽を行う。

研修期間中に生殖医療に関する学会発表を少なくとも10題（うち筆頭2題以上）行う。その後の研修期間に筆頭論文を少なくとも2編を含む10報を提出し、生殖医療指導医取得を目指す。

不妊外来、不育症外来、生殖内分泌外来などの生殖医学関連の専門外来診療に携わり、体外受精、顕微授精などのART技術を習得する。生殖医療施行に伴って発生する倫理的問題も、十分に社会的コンセンサスの得られる方法で模範となれるように配慮する。女性の晩婚化で、子宮筋腫、子宮内膜症等が増加し腹腔鏡手術のニーズが高まっており、腹腔鏡手術に関しても日本内視鏡外科学会の技術認定医の指導のもと妊孕性を温存した手術の習得に努める。後期専門研修期間は、初年度より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。研修先は、群馬大学病院の他、連携大学病院での研修を選択することもできる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成（受入）人数	期間
群馬大学医学部附属病院	産科婦人科	生殖 産婦人科	2名 3名	生殖医療及び内分泌代謝疾患に関する研修	2名	2年
前橋赤十字病院	産婦人科	産婦人科	2名	内視鏡下手術及び生殖医療に関する研修	1名	1年
				受入人数	2名	

### (3) コースの実績

体外受精年間件数 150 例

内視鏡手術年間件数 65 例

### (4) コースの指導状況

1年間で不妊症、不育症の基礎を習得し、一般不妊治療を診断から妊娠、流産防止まで行える技術を習得している。また、体外受精の概要も習得している。

内視鏡手術では、卵巣嚢腫の腔内法が指導医の助手のもと執刀できるレベルに達している。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本産科婦人科学会
資格名	日本産科婦人科学会専門医
資格要件	1. 日本国の医師免許証を有すること。 2. 2年間の新医師卒業後臨床研修（初期研修）を完了している者（研修中に大学院、留学、妊娠・出産、疾病などで臨床を離れる期間として通算6か月までは認められます） 3. 少なくとも専攻医指導施設における研修期間中通算3年以上本会の会員である者。（中途入会者は、9月までの入会に限り1年間の会員歴に算定できます） 4. 専門医認定審査の概要 研修記録や症例レポートなど書類による一次審査と、筆記試験と面接試験からなる二次審査を行う。実地経験目録として研修記録を提出する：分娩症例100例（帝王切開執刀10例以上を含む）、手術症例50例（腹式単純子宮全摘術執刀5例以上を含む）、子宮内容除去手術10例（人工妊娠中絶手術・流産手術・診断のための全面搔爬術などの子宮内操作を含む）。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本生殖医学会
資格名	日本生殖医学会生殖医療専門医
資格要件	(1) 会員歴が通算5年以上の会員 (2) 産婦人科専門医（日本産科婦人科学会認定）あるいは泌尿器科専門医（日本泌尿器科学会認定）で専門医資格取得後3年以上の生殖医療の臨床経験があること (3) 生殖医療に関する論文が10編以上（うち主著2編以上）および学会発表が10題以上（うち筆頭2題以上）あること (4) 生殖医療専門医としての適切な知識、品位、高い倫理性があること



学会の連携等の概要

学会等名	日本内視鏡外科学会
資格名	日本内視鏡外科学会技術認定医
資格要件	<p>(1) 継続3年以上本学会会員であること。</p> <p>(2) 日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医であること。</p> <p>(3) 通算2年以上の産婦人科内視鏡手術の修練を行っていること。ただしこの2年以上の修練とは専門医取得以後の期間とする。</p> <p>(4) 術者として以下の規定件数以上の内視鏡手術経験を有する。</p> <p>① 腹腔鏡下手術で申請するものは100件</p> <p>② 子宮鏡下手術で申請するものは50件</p> <p>(5) 産婦人科内視鏡手術に関係する学会、研究会、研修会、セミナー等に複数回出席していること。</p> <p>(6) 国内外において、筆頭演者として学会発表5題以上の内視鏡に関係する発表があること。</p> <p>(7) 国内外において、内視鏡に関係する論文があること【論文5題以上（内1題は筆頭著者）】</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内分泌学会
資格名	日本内分泌学会 内分泌代謝科（産婦人科）専門医
資格要件	<p>(1) 申請時において、継続3年以上または通算5年以上本学会会員であること。</p> <p>(2) 申請時において、基幹学会の認定医または専門医として認められている者。</p> <p>(3) 認定内科医研修の課程を修了後、申請時まで3年以上、認定医教育施設において内分泌代謝科指導医の指導のもとで内分泌代謝疾患の診療に従事している者（小児科及び産科婦人科に関しては別途定める）または、海外の内分泌専門医の資格を有している。</p> <p>(4) 内分泌代謝疾患の臨床に関する学会発表、または論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>(5) 内分泌代謝疾患の相当例以上の入院及び外来の診療経験を有する者。その細則は専門医認定部会で定める。</p> <p>(6) 本学会が執行する専門医のための試験に合格すること。（内分泌代謝専門医の内科、小児科及び産婦人科の専門医試験は共通及び科別の試験問題を実施する。）</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：峯岸敬

コース担当者名：五十嵐茂雄

指導医名：岸裕司、今井文晴

53 : 腫瘍専門医コース

基幹となる資格名 : 産科婦人科学会専門医

スペシャリティ資格名 : 婦人科腫瘍専門医

(1) コースの全体像

日本婦人科腫瘍学会の婦人科腫瘍専門医を取得することを目的とする。初期臨床研修修了後、3年間は大学病院または関連病院で産科婦人科の研修を積み、日本産科婦人科学会専門医を取得する。

後期専門研修中には、日本産科婦人科学会の地方部会での症例報告を行い、症例ごとのポイントを把握し、研究会で発表するための症例のまとめ、解析、今後の検討課題を明らかにすることで病態の解析を行う。同時に発表能力の研鑽を行う。日本産科婦人科学会専門医を取得後、5年間の研修期間に腫瘍に関する学会発表を少なくとも2回行う。その後の研修期間に筆頭論文を少なくとも1編提出し、腫瘍専門医を取得する。また、卵巣癌、子宮頸癌、体癌の専門グループに分かれて系統立った治療を行うため、臨床データに基づいて報告を行う。後期専門研修期間は、初年度より臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学を選択することができる。研修先は、下記関連病医院の他、連携大学病院での研修を選択することができる。

(2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	産科婦人科	婦人科腫瘍学	6	婦人科腫瘍分野の専門的診療能力の習得	2	3年
高崎総合医療センター	産婦人科	産婦人科 婦人科腫瘍学	3	婦人科腫瘍分野の専門的診療能力の習得	1	1年
県立がんセンター	産婦人科	婦人科腫瘍学	3	婦人科腫瘍分野の専門的診療能力の習得	1	1年
				受入人数	3名	

(3) コースの実績

診療ガイドラインに準ずる標準的治療が研修可能であり、2施設で年に卵巣癌 40-50例、子宮頸癌(浸潤癌) 30-40例、体癌 60-70例の根治的手術症例を有し、産婦人科専門医取得後の5年間に、これらの研修指定病院で集中的に研修することにより、最短期間での婦人科腫瘍専門医取得が可能である。

#### (4) コースの指導状況

婦人科腫瘍専門医の修練ガイドラインに従った修練が行われ、3年間に婦人科浸潤癌症例の手術を150例以上経験し、研究発表を2例以上行っている。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本産科婦人科学会
資格名	日本産科婦人科学会専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 日本国の医師免許証を有すること。</li><li>2. 2年間の新医師卒業後臨床研修（初期研修）を完了している者（研修中に大学院、留学、妊娠・出産、疾病などで臨床を離れる期間として通算6か月までは認められます）</li><li>3. 少なくとも専攻医指導施設における研修期間中通算3年以上本会の会員である者。（中途入会者は、9月までの入会に限り1年間の会員歴に算定できます）</li><li>4. 専門医認定審査の概要 研修記録や症例レポートなど書類による一次審査と、筆記試験と面接試験からなる二次審査を行う。実地経験目録として研修記録を提出する：分娩症例100例（帝王切開執刀10例以上を含む）、手術症例50例（腹式単純子宮全摘術執刀5例以上を含む）、子宮内容除去手術10例（人工妊娠中絶手術・流産手術・診断のための全面搔爬術などの子宮内操作を含む）。</li></ol>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本婦人科腫瘍学会
資格名	婦人科腫瘍専門医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 日本国の医師免許証を有すること。</li><li>2. 日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医であること。</li><li>3. 継続3年以上本学会会員であること。</li><li>4. 指定修練施設において所定の修練ガイドラインに従い、通算3年以上の修練を行っていること。ただし、この3年以上の修練期間とは、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医の資格を取得してから3年以上とする。</li><li>5. 資格認定施行細則に定める業績を有すること。 診療経験：指定修練施設において修練ガイドラインに則り、通算3年以上5年までの修練を受けて、この間の診療実績一覧表を提出する。婦人科浸潤がん症例（手術、放射線治療、化学療法などを含む）150例以上の経験を必要とする。手術は、浸潤がんの執刀者として30例以上、第一助手として30例、その他の助手として40例を含めて100例以上の浸潤がんの手術経験</li></ol>

	<p>を必要とする。この手術経験のうち 15 例以上は広汎子宮全摘出術の執刀者でなければならない。また、消化器外科と泌尿器科の経験症例を診療実績一覧表に記入する。関連施設で経験した症例を加算してもよいが、その関連施設は指定修練施設の条件を満たしており、また専門医（または暫定指導医）が常勤していなければならない。</p> <p>業績：婦人科腫瘍に関する筆頭者としての研究発表 2 件以上（論文 1 編を含む）を必要とする。この業績は、資格認定委員会の審査によって適当であると認められた医学雑誌および学術集会に発表されたものでなければならない。</p> <p>研修実績：修練ガイドラインにそって 5 年間以上の研修を受けること。また、専門医修練期間中に婦人科腫瘍学会の総会および教育プログラムに年 1 回以上出席しなければならない。</p>
<p>学会の連携等の概要</p>	

コース責任者名：峯岸敬

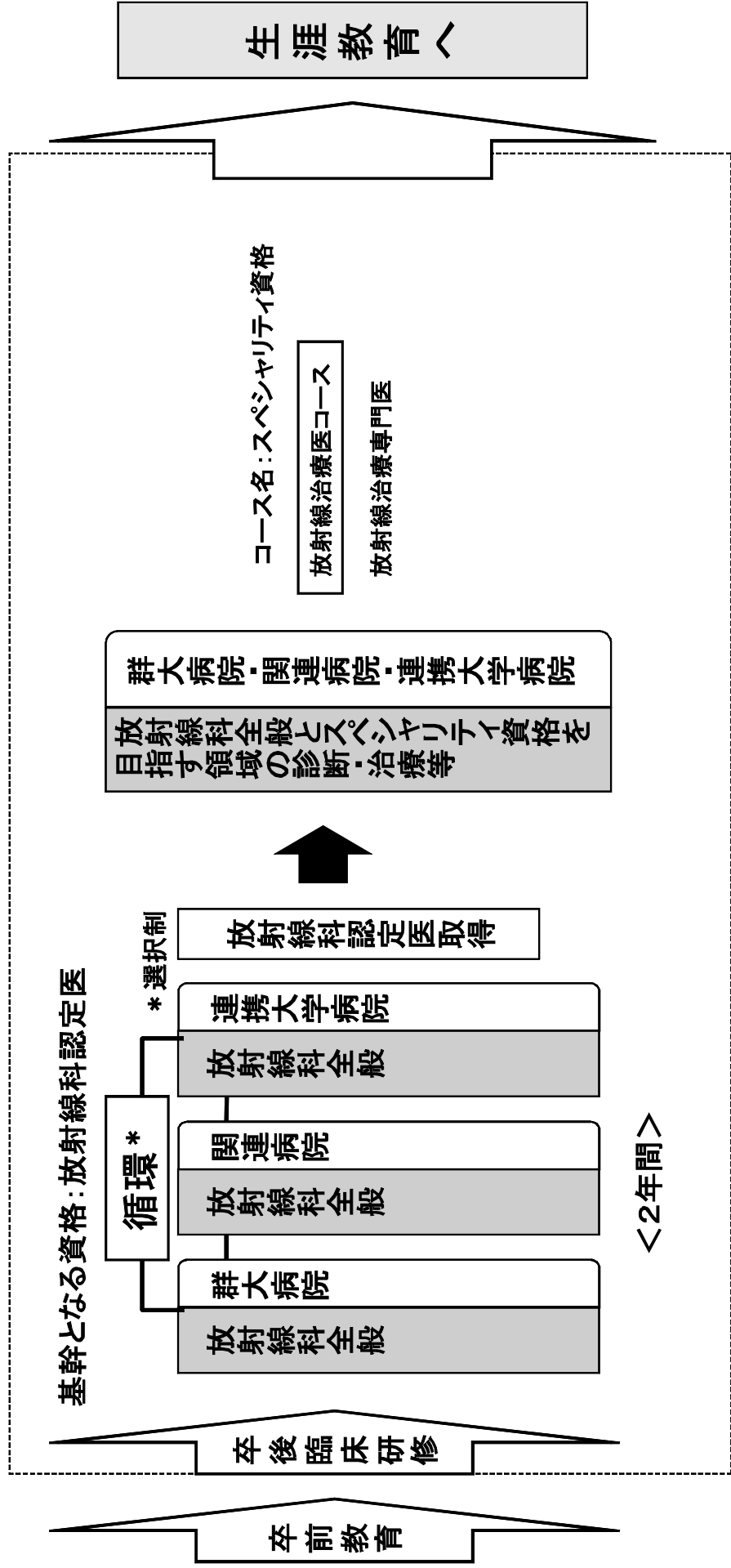
コース担当者名：中村和人

指導医名：青木宏、村田知美、池田禎智、木暮圭子

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：放射線科

54：放射線治療医コース 募集(人数8名)



放射線科 HP : <http://radiology.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

#### 54 : 放射線治療医コース

基幹となる資格名 : 放射線科認定医

スペシャリティ資格名 : 放射線治療専門医

#### (1) コースの全体像

本コースでは、放射線治療医（腫瘍医）に必要な臨床腫瘍学を習得し、放射線治療医に必要とされる基本的な臨床能力を身につけることを目標としている。対象疾患は、肺癌・乳癌・前立腺癌・婦人科癌など日本の主要な死因である悪性腫瘍から、中枢神経系腫瘍や骨軟部腫瘍など比較的稀な腫瘍まで、悪性腫瘍全般の他に、バセドウ氏病などの良性疾患まで幅広く含まれている。治療法も、一般に広く導入されている3次元原体照射をはじめとし強度変調放射線療法（IMRT）や重粒子線治療といった高精度放射線治療まで修練を行う。なお、希望により各種画像診断の修練も可能である。また、埼玉医科大学などの連携大学病院での研修の選択も可能である。

到達目標は、放射線医学全般の知識（画像診断含む）として日本医学放射線学会放射線科専門医試験（3年次）に、同試験合格2年後に放射線治療を専攻する医師として放射線治療専門医試験に合格することを目標とする。また、同時に、臨床・基礎研究論文の作成や学位の取得を目指す者には、大学院への進学等を推奨している。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	放射線科	放射線治療	11	放射線治療	3	1～2年
群馬県立がんセンター	同上	同上	2	放射線治療	1	1～2年
埼玉県立がんセンター	同上	同上	3	放射線治療	1	1～2年
放射線医学総合研究所	同上	同上	1	放射線治療	1	1～2年
高崎総合医療センター	同上	同上	1	放射線治療	1	1～2年
埼玉医科大学国際医療センター	同上	同上	2	放射線治療	1	1～2年
				受入人数	8名	

### (3) コースの実績

本プログラムでは、本院・放射線科、県内・外の関連病院の放射線科で、5年間修練し、放射線治療医（腫瘍医）に必要な臨床腫瘍学を習得する。これまでの専門医取得率は100%。

### (4) コースの指導状況

#### 1) 放射線科専門医について

本院は日本医学放射線学会認定修練機関である。また群馬県内外にある関連病院の多くは、放射線科専門医が常勤医として勤務し、日本医学放射線学会修練協力機関として指定されており、専門医取得の際に修練実績となる。

#### 2) 放射線治療認定医について

本院は日本放射線腫瘍学会認定修練機関である。また群馬県内にある関連病院の多くは、放射線科専門医が常勤医として勤務し、日本放射線腫瘍学会修練協力機関として指定されており、専門医取得の際に修練実績となる。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線科認定医
資格要件	放射線診断・核医学・IVR・放射線治療を修練する
学会の連携等の概要	

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線治療専門医
資格要件	放射線治療及び、関連する画像診断、核医学検査・治療、RIの安全取扱いなどを修練する
学会の連携等の概要	

コース責任者名：中野隆史

コース担当者名：野田真永

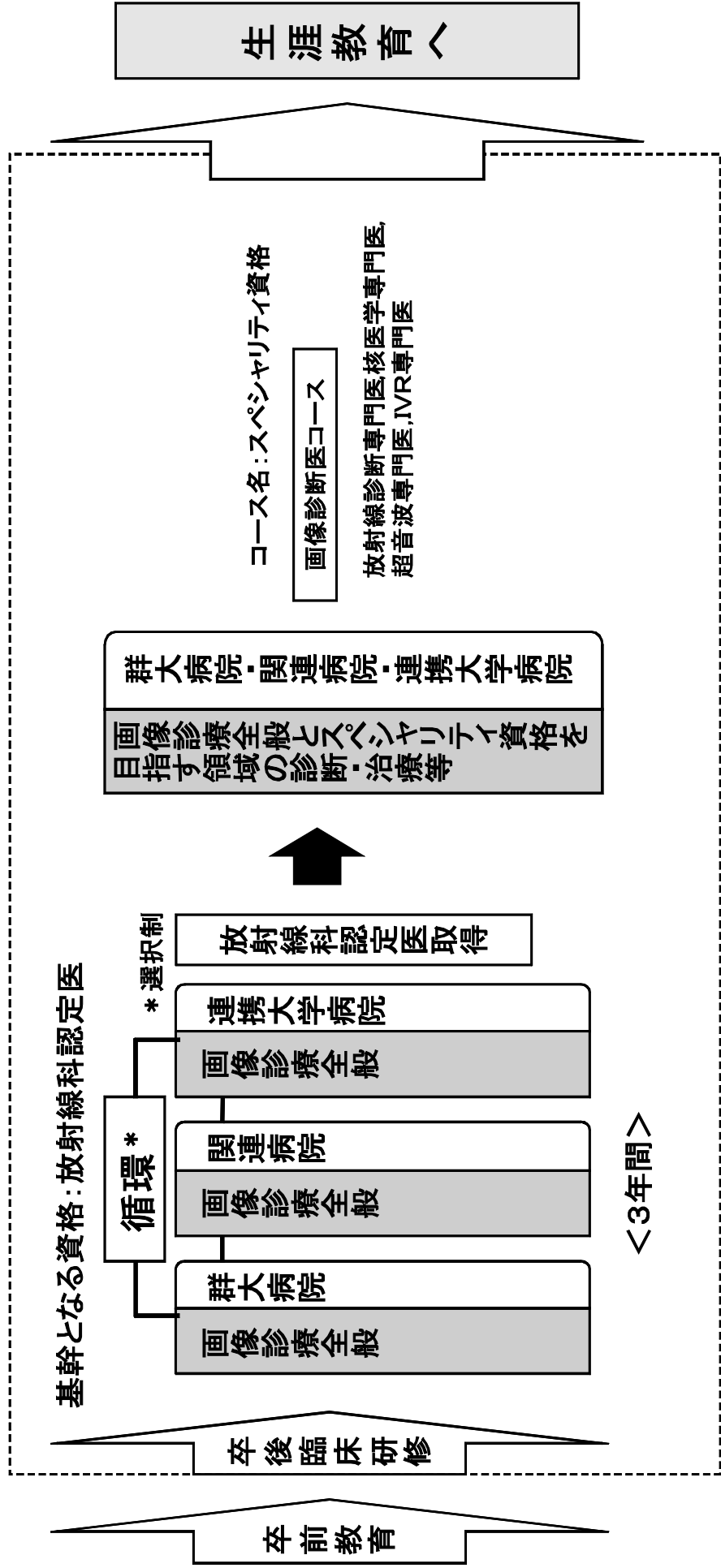
指導医名：大野達也、鈴木義行、斎藤淳一、清原浩樹、加藤弘之、  
白井克幸、田巻倫明



# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名:核医学・画像診療部

55:画像診断医コース 募集(人数4名)



核医学・画像診療部 HP : <http://rad-medical.net/>

## 55 : 画像診断医コース

基幹となる資格名 : 放射線科認定医

スペシャリティ資格名 : 放射線診断専門医、核医学専門医、超音波専門医、IVR 専門医

### (1) コースの全体像

CT や MRI, PET などを中心とした画像診断、放射線診断の進歩は目覚しく、現代医療には不可欠となっている。また患者への侵襲の少ない IVR は、患者にやさしい治療として様々な領域で使われている。

画像診断の専門医も、日本医学放射線学会を基盤学会として ①放射線診断専門医、②核医学専門医、③IVR 専門医がある。

画像診断に携わる領域は、①脳中枢神経、②胸部・腹部、③骨軟部、④乳房、⑤小児、⑥救急疾患など全身の多くの病気を対象としており、一つの病院だけで、最先端画像診断を全ての分野でカバーすることは不可能である。本プログラムは、本院を中心としながら群馬県内の関連病院において研修し、連携大学病院での研修を選択することができる。これにより、本プログラムへの参加者に絶好の機会を提供することができると期待される。専門医を取得するとともに、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院（社会人入学も可）への進学等を選択することができる。4年間臨床研究に従事し、研究マインドを涵養し、学会発表、論文執筆することは、生涯にわたって最先端の画像診断に従事する際のみならず若い医師を指導する際に役立つ。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
前橋赤十字病院	放射線科	画像診断	2名	画像診断	2名	1~2年
群馬中央総合病院	同上	同上	2名	画像診断	同上	同上
伊勢崎市民病院	同上	同上	2名	画像診断	同上	同上
公立富岡総合病院	同上	同上	2名	画像診断	同上	同上
群馬県立がんセンター	同上	同上	2名	画像診断	同上	同上
国立精神神経センター	同上	同上	2名	画像診断	1名	同上
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

本プログラムでは、最初の2年間本院において画像診断の基礎、核医学、IVRを学ぶ。また大学病院のみでは取扱う病気が片寄るため、県内の関連病院に赴任し、1年から2年間修練し、救急疾患やいわゆる common disease の画像診断を行っている。毎年2~3人の放射線科専門医が誕生している。またこれまでは全員が卒後8年目までに学位（博士）を取得している。

### (4) コースの指導状況

#### 1) 放射線科専門医について

本院は日本医学放射線学会認定修練機関である。また群馬県内にある関連病院の多くは、放射線科専門医が常勤医として勤務し、日本医学放射線学会修練協力機関として指定されており、専門医取得の際に修練実績となる。

#### 2) 核医学専門医について

群馬県内では本院のみが日本核医学会認定の修練機関である。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本医学放射線科学会
資格名	放射線科認定医
資格要件	放射線診断・核医学・IVR、放射線治療の基礎を修練する。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線診断専門医
資格要件	放射線診断・核医学・IVRを修練する。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本核医学会
資格名	核医学専門医
資格要件	PET, SPECT, 核医学治療、RIの安全取扱いなどを修練する。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本超音波医学会
資格名	超音波専門医
資格要件	超音波診療の基本的な手技、造影法などを修練する。
学会の連携等の概要	

学会等名	日本 I V R 学会
資格名	I V R 専門医
資格要件	I V R 治療の手技や適応について修練を行う。
学会の連携等の概要	

コース責任者名：対馬義人

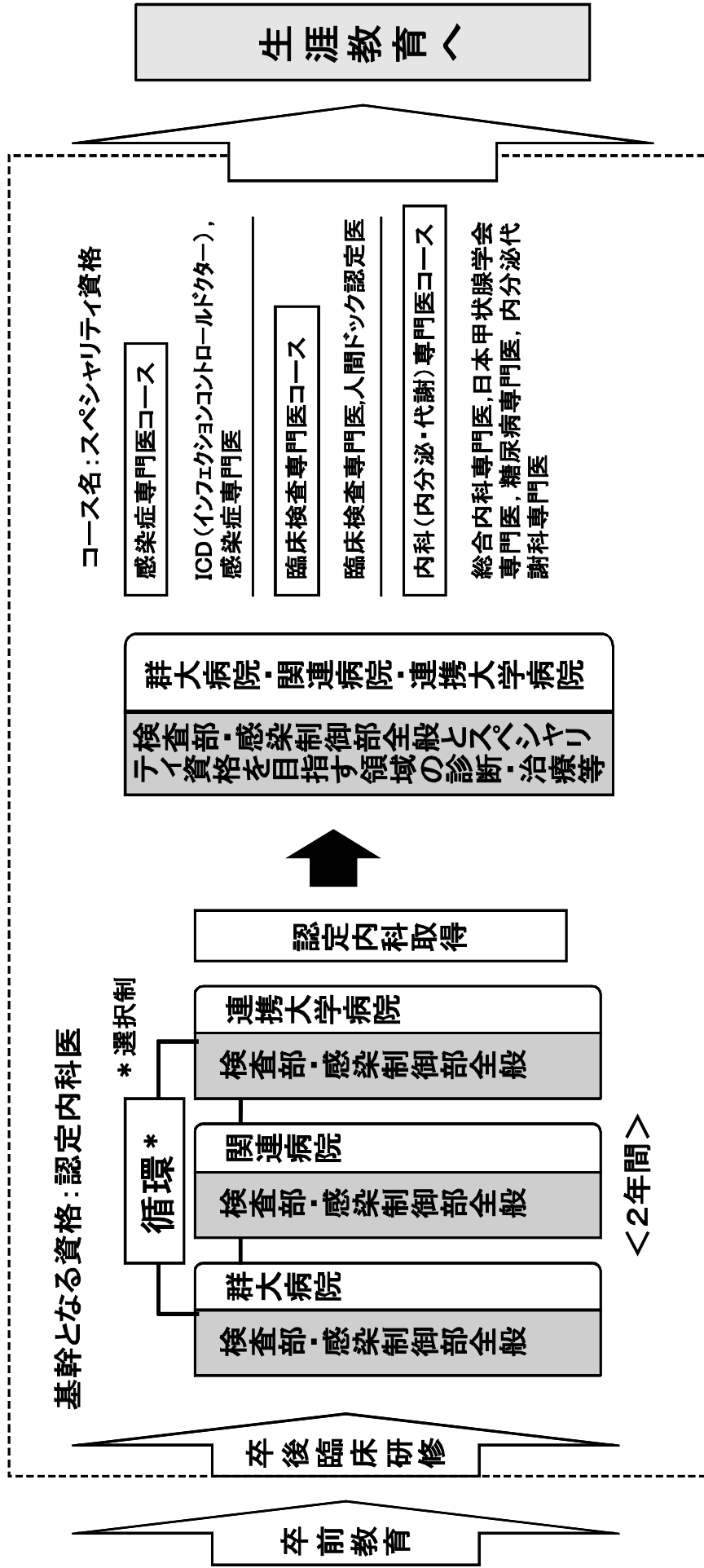
コース担当者名：天沼誠、対馬義人、樋口徹也、小山佳成

指導医名：高橋綾子、有坂有紀子、平澤聡

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名:検査部・感染制御部

- 56:感染症専門医コース 募集(人数1名)
- 57:臨床検査専門医コース 募集(人数1名)
- 58:内科(内分泌・代謝)専門医コース 募集(人数1名)



## 検査部・感染制御部

HP : [http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin\\_info/01/01.html](http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin_info/01/01.html)

### 56 : 感染症専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : ICD (インフェクションコントロールドクター) 、 感染症専門医

#### (1) コースの全体像

2年間の初期研修修了後、当院感染制御部にて2年間、外来業務に加えて、院内における感染症コンサルティングを行い、病原体に対する基礎的知識から疫学および臨床について幅広く研修を行う。2年の研修後市中関連病院にて感染症を中心に一般内科についての幅広い知識が得られるよう研修を行う。尚、一般病院にて研修中にICD(インフェクションコントロールドクター)の資格の取得が可能である。その後、1年間関連大学病院にて、アウトブレイク時の対応を含めた専門的な感染症に対する研修を行う。研修では連携大学病院での研修を選択することができるほか、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	感染制御部	感染制御	3名	ICD養成	1名	2年間
埼玉医科大学	感染制御科	感染制御	2名	ICD養成	1名	1年
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

感染制御に関する指導医がおり、専門的な指導が受けられる。

#### (4) コースの指導状況

感染制御部で毎週開催されるカンファレンス、ICUでの週2回のカンファレンス、月1回の感染制御の院内巡視に参加し各種感染症に関するコンサルテーションを行う。院内、院外で発生した感染症の治療及び感染対策に対するコンサルテーション。県内、県外の施設でアウトブレイクが発生した際のコンサルテーションも随時行っている。必要に応じて南病棟一階に設置された感染症陰圧診察室での診療も行っている。当院では平成23年4月に第一種感染症病棟(2床)が完成した。これに伴い厚生労働省が実施するベトナム(ホーチミン市の病院)での7日間の第一種感染症の治療等に関する医療研修に参加することができる。

#### (5) 専門医の取得

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	2003年以前の医師国家試験合格者

	<p>教育病院（内科系大学院含）のみでの内科研修計 3 年以上</p> <p>教育病院（内科系大学院含）での内科研修 2 年以上＋教育関連病院での内科研修 1 年以上＝計 3 年以上</p> <p>教育関連病院のみでの内科研修計 5 年以上</p> <p>2004 年以後の医師国家試験合格者</p> <p>臨床研修 2 年＋教育病院（内科系大学院含）での内科研修 1 年以上＝計 3 年以上</p> <p>臨床研修 2 年＋教育関連病院での内科研修 1 年以上＝計 3 年以上 （臨床研修必修化の研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	ICD制度協議会
資格名	ICD(インフェクションコントロールドクター)
資格要件	<p>a) 協議会に加盟しているいずれかの学会の会員であること（会員歴の長さは問わない）。</p> <p>b) 医師歴が 5 年以上の医師または博士号を取得後 5 年以上の PhD で、病院感染対策に係わる活動実績（感染対策委員歴、講習会出席、論文発表*）があり、所属施設長の推薦があること。</p> <p>c) 所属学会からの推薦があること。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本感染症学会
資格名	感染症専門医
資格要件	<p>基本領域学会専門医（認定医）に認定されている者。</p> <p>感染症の臨床修練を積んでいること。</p> <p>1) 基本領域学会の研修年限を含めて感染症学の研修を 6 年以上行っている者。</p> <p>2) その内、3 年間は本会が指定した研修施設で、別に定めるカリキュラムに基づいて研修を行っていることを原則とする。</p> <p>尚、研修施設、指導医については別に定める。</p> <p>感染症の臨床に関して、筆頭者としての論文発表 1 篇、学会発表 2 篇、計 3 篇あること。</p> <p>尚、学会、雑誌の種類に関しては細則 2 に定める。</p> <p>日本感染症学会会員歴 5 年以上で、この間、会費を完納している者。</p> <p>審議会が施行する専門医のための認定試験に合格すること。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：村上正巳

コース担当者名：徳江豊

指導医名：久田剛志、荻原貴之、奈良誠人、木村孝穂、森村匡志、  
大嶋清宏



## 検査部・感染制御部

HP : [http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin\\_info/01/01.html](http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin_info/01/01.html)

### 57 : 臨床検査専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 臨床検査専門医、人間ドッグ認定医

#### (1) コースの全体像

群馬大学医学部附属病院にて2年間研修を行う。研修内容は、一般検査（尿・便の検査など）、血液検査、生化学検査、細菌検査、免疫血清検査、生理機能検査（超音波検査を含む）に関する原理および手技を習得する。また、甲状腺外来にて行う甲状腺穿刺の手技も習得する。検査部外来では、他科からの検査に関するコンサルテーションを受け、対応できるように研修する。関連病院では、内科医および臨床検査医として2年間の研修を行う。連携大学病院での研修を選択することができ、日本大学医学部附属板橋病院臨床検査医学科において、さらに専門的な臨床検査に関する研修を行うことができる。また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	検査部	臨床検査	3名	臨床検査習得	1名	2年間
日本大学	臨床検査科	臨床検査	2名	臨床検査習得	1名	1年間
				受入人数	1名	

#### (3) コースの実績

#### (4) コースの指導状況

臨床検査医学科に所属する医師は、臨床検査（検体検査）の専門医であり、各種の臨床検査に関して、当病院各科の主治医や研修医はもとより、地域の開業している医師などから、多くのコンサルテーションをうけているため、専門的な指導を受けられる。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	2003年以前の医師国家試験合格者 教育病院（内科系大学院含）のみでの内科研修計3年以上 教育病院（内科系大学院含）での内科研修2年以上＋教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上 教育関連病院のみでの内科研修計5年以上 2004年以後の医師国家試験合格者

	臨床研修 2 年 + 教育病院（内科系大学院含）での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上 臨床研修 2 年 + 教育関連病院での内科研修 1 年以上 = 計 3 年以上 (臨床研修必修化の研修の2年間は教育病院での研修扱いとする)
学会の連携等の概要	

学会等名	日本臨床検査医学会
資格名	臨床検査専門医
資格要件	<p>1) 日本国の医師免許証を有し、医師としてふさわしい人格・識見を持つこと。</p> <p>2) 出願時 5 年以上継続して日本臨床検査医学会の会員であること。</p> <p>3) 日本臨床検査医学会の定める研修プログラムにより、5 年間の研修を修了していること。 ただし日本専門医認定制機構の基本領域の学会のいずれかの認定医・専門医となった後に、臨床検査専門医を志向して研修を開始した者、または米国の臨床病理医認定試験合格者 (Clinical Pathologist certified by the American Board of Pathology) およびそれと同等とみなされる外国の臨床検査専門医の認定資格を有する者についての会員歴および研修歴については別に定める。</p> <p>4) 必須学科として、日本臨床検査医学会の認定する認定研修施設において以下の内容の全てを含む研修を 2 年以上終えていること。 a) 臨床検査医学(臨床病理学)総論(医療倫理、医療安全も含む)、 b) 一般臨床検査学、c) 臨床血液学、d) 臨床化学、e) 臨床微生物学(感染症学を含む)、f) 臨床免疫学、g) 輸血学</p> <p>5) 厚生労働省の認定する研修施設において選択科目として、以下の学科のうちいずれか一学科を一年以上研修していること。 a) 病理学、b) 臨床医学(日本専門医認定制機構の基本領域における卒後初年度臨床研修プログラムないしは総合診療方式によるものを原則とする。ただし日本専門医認定制機構での基本領域の学会のいずれかの認定医・専門医資格を有する者、または米国の臨床病理医認定試験合格者およびそれと同等とみなされる外国の臨床検査専門医資格を有する者は、選択科目の研修および選択科目の試験は免除される。</p> <p>6) 臨床検査室等での日常業務内容を証明する、各種のコンサルテーション記録、骨髄像報告書、免疫電気泳動報告書、染色体分析報告書、その他の臨床検査専門医による解釈・コメント付き検査報告書、On-Call カンファレンス記録等 20 編を提出すること。ただし病理組織診断業務に関するもの、内科等の診療業務内容を主とする病歴要</p>

	<p>約等は含まない。</p> <p>7) 臨床検査医学(臨床病理学)に関する筆頭者としての原著論文、または学会報告が3編以上あること(ただし、そのうち原著論文が少なくとも1編以上あること)。原則として、5年間の研修期間中に雑誌「臨床病理」あるいは日本臨床検査医学会もしくはその関連学会に発表したものであることが望ましい。</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	日本人間ドック学会
資格名	人間ドック認定医
資格要件	<p>日本人間ドック学会に医師個人会員として入会していること。</p> <p>本学会所定の修得単位50単位を満たしていること。</p> <p>会費を遅滞無く納めていること。</p> <p>人間ドック・健診施設に従事し、医学経験、人格とも水準に達した医師であること。</p> <p>上記を総べてみたし、人間ドック認定医委員会が承認したもの。</p>
学会の連携等の概要	

コース責任者名：村上正巳

コース担当者名：奈良誠人

指導医名：角野博之、森村匡志、常川勝彦

## 検査部・感染制御部

HP : [http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin\\_info/01/01.html](http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin_info/01/01.html)

58 : 内科（内分泌・代謝）専門医コース

基幹となる資格名：認定内科医

スペシャリティ資格名：総合内科専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医

### （１）コースの全体像

群馬大学医学部附属病院にて1年間研修を行う。研修内容は、検査部外来において、内分泌・代謝疾患を中心に感染症関連疾患や、検査値異常、他科からの術前内科検診などの診療を行い、外来診療技術を取得する。甲状腺疾患に関してはエコーや細胞診の手技も取得できるようにする。必要に応じて検査目的を主とした入院診療を行う。関連病院ではプライマリケアから各領域の専門疾患を幅広く経験し、内科学に関する研修を行う。また、連携病院での研修を選択することができる。さらに、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

### （２）コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	検査部・感染制御部	内分泌・代謝・感染症	2名	総合内科専門医取得、甲状腺学会専門医取得	1名	3年
利根中央病院	内科	内分泌代謝	1名	総合内科専門医取得、甲状腺学会専門医取得	1名	2年
日高病院	内科	内分泌代謝	1名	総合内科専門医取得、甲状腺学会専門医取得、糖尿病専門医取得	1名	3年
				受入人数	1名	

### （３）コースの実績

総合内科専門医 2名、甲状腺学会専門医 4名、糖尿病学会専門医 3名、内分泌学会専門医 2名、呼吸器学会指導医 1名、臨床検査専門医 5名と内科一般に対し幅広い研修が可能である。甲状腺疾患に関しては年間約 50 症例の甲状腺穿刺を外来にて行っている。

### （４）コースの指導状況

群馬大学医学部附属病院検査部と利根中央病院に所属する医師は、内科学全般に幅広いスペシャリティーを持っている。内分泌・代謝・感染症疾患を中心に各種の内科的疾患に関して、当病院各科はもとより、地域の医師からのコンサルテーションを受けている。甲状腺疾患については、上記のように多数の症例の経験が可能であり、十分な指導を受けられる。

(5) 専門医の取得等

学会等名	内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p>2003年以前の医師国家試験合格者</p> <p>教育病院（内科系大学院含）のみでの内科研修計3年以上</p> <p>教育病院（内科系大学院含）での内科研修2年以上＋教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>教育関連病院のみでの内科研修計5年以上</p> <p>2004年以後の医師国家試験合格者</p> <p>臨床研修2年＋教育病院（内科系大学院含）での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>臨床研修2年＋教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上 （臨床研修必修化の研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p>現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、2008年度までの会費を完納し、次のa、bのいずれかに該当する内科研修歴を有する者</p> <p>a. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＋本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上＝計3年以上（計3年以上のうち、最低でも1年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>b. 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上</p>
学会の連携等の概要	

学会等名	甲状腺学会
資格名	日本甲状腺学会専門医
資格要件	<p>本学会の会員歴が5年以上であり、かつ甲状腺臨床に関する査読制度のある論文または本学会での学会発表が総計7編以上（そのうち3つは筆頭論文または筆頭発表であること）あること。</p> <p>甲状腺を専門とする医師として学会に登録すること。</p> <p>甲状腺に関する過去5年間の十分な症例数を記載すること。</p> <p>うち、代表20例以上の要約を記載すること（但し、2008年1月の申請時より記載）</p> <p>本学会の生涯教育・専門医教育を過去5年間に4回以上受講している</p>

	こと。但し2008年までは本学会または日本内分泌学会学術総会ないしは臨床内分泌代謝Updateの過去5年間の毎年の学会参加証のコピーでも良いが、そのうち少なくとも1回は本学会の学会参加証であること。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

学会の連携等の概要

学会等名	日本糖尿病学会
資格名	糖尿病専門医
資格要件	<p>日本国の医師免許を有し、医師としての人格および見識を備えていること。</p> <p>申請時に於いて、3年以上継続して本会正会員であること。</p> <p>認定内科医研修の課程を終了後、あるいは小児科認定研修の課程を3年以上終了後、この規則により認定された認定教育施設において3年以上の期間にわたって常勤者として糖尿病臨床研修を行っていること。糖尿病の研修開始時に研修同意書を提出し、その後研修カリキュラムの内容に沿った糖尿病の研修を学会認定施設により行ったことを証明しうること。</p> <p>申請時において日本内科学会の認定内科医、または日本小児科学会の認定医として認定されていること。糖尿病に関する筆頭者としての学会発表または論文が2編以上あること。</p> <p>入院糖尿病患者40症例以上（但し小児では10例以上）の治療経験を有すること。</p>

学会の連携等の概要

学会等名	日本内分泌学会
資格名	内分泌代謝科専門医
資格要件	<p>申請時において、継続3年以上または通算5年以上本学会の会員であること。</p> <p>申請時において、日本内科学会の認定医または専門医として認められている者。</p> <p>内科認定研修の課程を修了後、申請時まで3年以上、日本内分泌学会認定教育施設において内分泌代謝科指導医の指導のもとで内分泌代謝疾患の診療に従事している者。</p> <p>内分泌代謝疾患の臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>内分泌代謝疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p>

学会の連携等の概要

コース責任者名：村上正巳

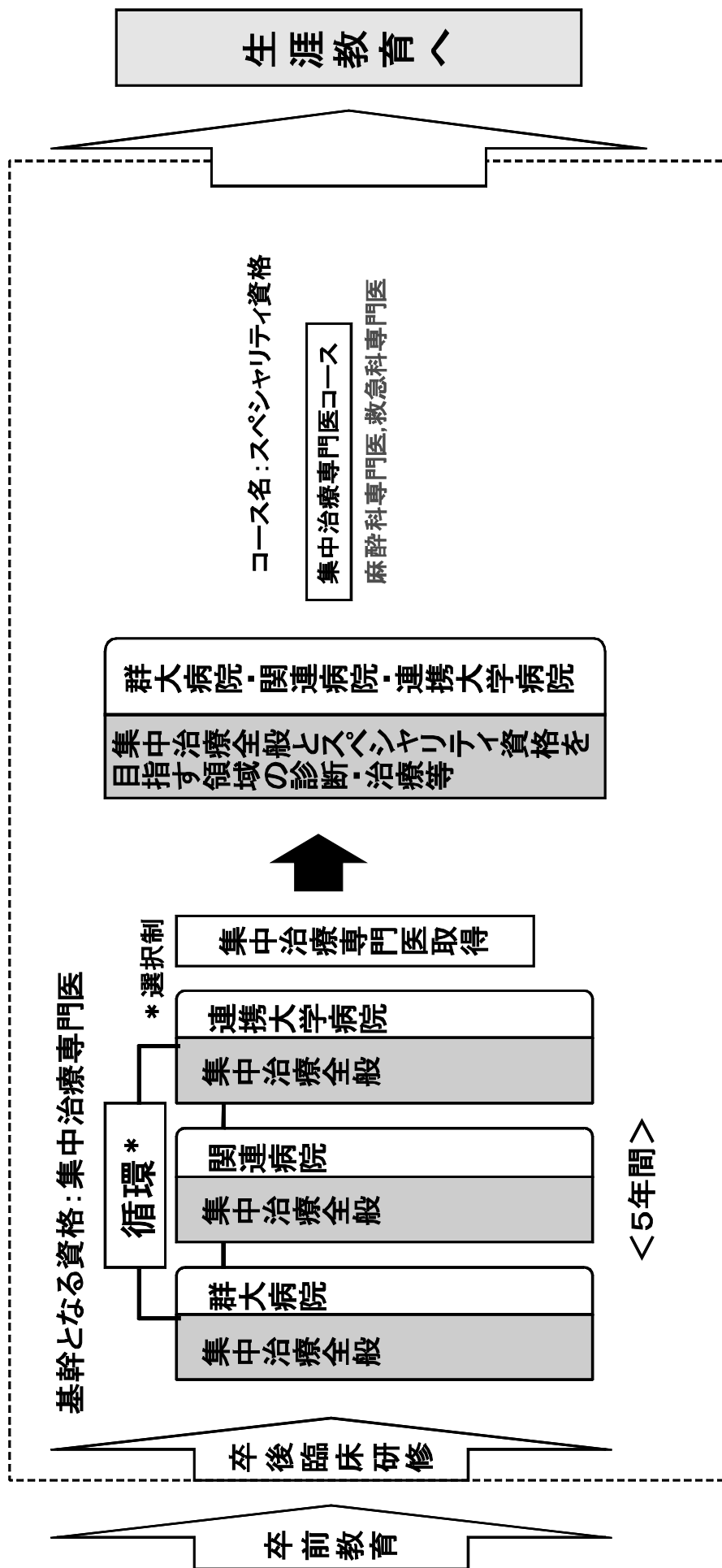
コース担当者名：萩原貴之

指導医名：奈良誠人、木村孝穂、森村匡志、常川勝彦

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：集中治療部

59：集中治療専門医コース 募集(人数5名)





## 集中治療部

### 59：集中治療専門医コース

基幹となる資格名：集中治療専門医

スペシャリティ資格名：麻酔科専門医、救急科専門医

#### (1) コースの全体像

集中治療医学とは、多臓器不全により生命の危機に陥った患者の病態を分析し、原因的治療及び対症的治療の進歩発展を目的とする学問である。群馬大学集中治療部では、これらの重症患者にたいして科学的根拠に基づく標準的な治療を行うことを目指し、主要機関の公表するガイドラインに基づき、何が必須の治療、推奨される治療、オプション治療かを明確にして治療にあたっている。教育は5人の集中治療専従医が行い、集中治療専門医となるために必要な手技と知識の習得を目指す。研修医は専門医の指導のもとに重症患者の鑑別診断、多臓器不全病態解明、薬物および生命維持管理装置を用いた治療法について学び集中治療専門医を取得する。後期専門研修期間中に、関連病院の集中治療部における研修、社会人大学院への入学と学位取得、サブスペシャリティーとして、麻酔科、救急部、外科、内科などの研修も可能である。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	集中治療部	集中治療医学	5名	集中治療専門医 の養成	3名	5年間
日本赤十字社医療センター(広尾)	麻酔科	麻酔科学集中治療医学	2名	集中治療専門医 の養成	1名	1-2年間
前橋赤十字病院	集中治療科 救急科	集中治療医学 救急医学	2名	集中治療専門医 の養成	1名	1-2年間
済生会宇都宮病院	麻酔科	麻酔科学集中治療医学	2名	集中治療専門医 の養成	1名	1-2年間
				受入人数	5名	

#### (3) コースの実績

旧体制ローテーションで集中治療専門医資格を取得した医師はいません。

#### (4) コースの指導状況

現在集中治療部で後期専門研修をしている医師はいないが、ローテーション医師が集中治療専門医資格を取得できるよう指導している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本集中治療医学会
資格名	集中治療専門医
資格要件	集中治療従事歴5年以上
学会の連携等の概要 日本集中治療医学会認定	

学会等名	日本麻酔科学会
資格名	麻酔科専門医
資格要件	麻酔従事歴5年以上
学会の連携等の概要 日本麻酔科学会認定	

学会等名	日本救急医学会
資格名	救急科専門医
資格要件	救急部門勤務歴3年以上
学会の連携等の概要 日本救急医学会認定	

コース責任者名：齋藤繁

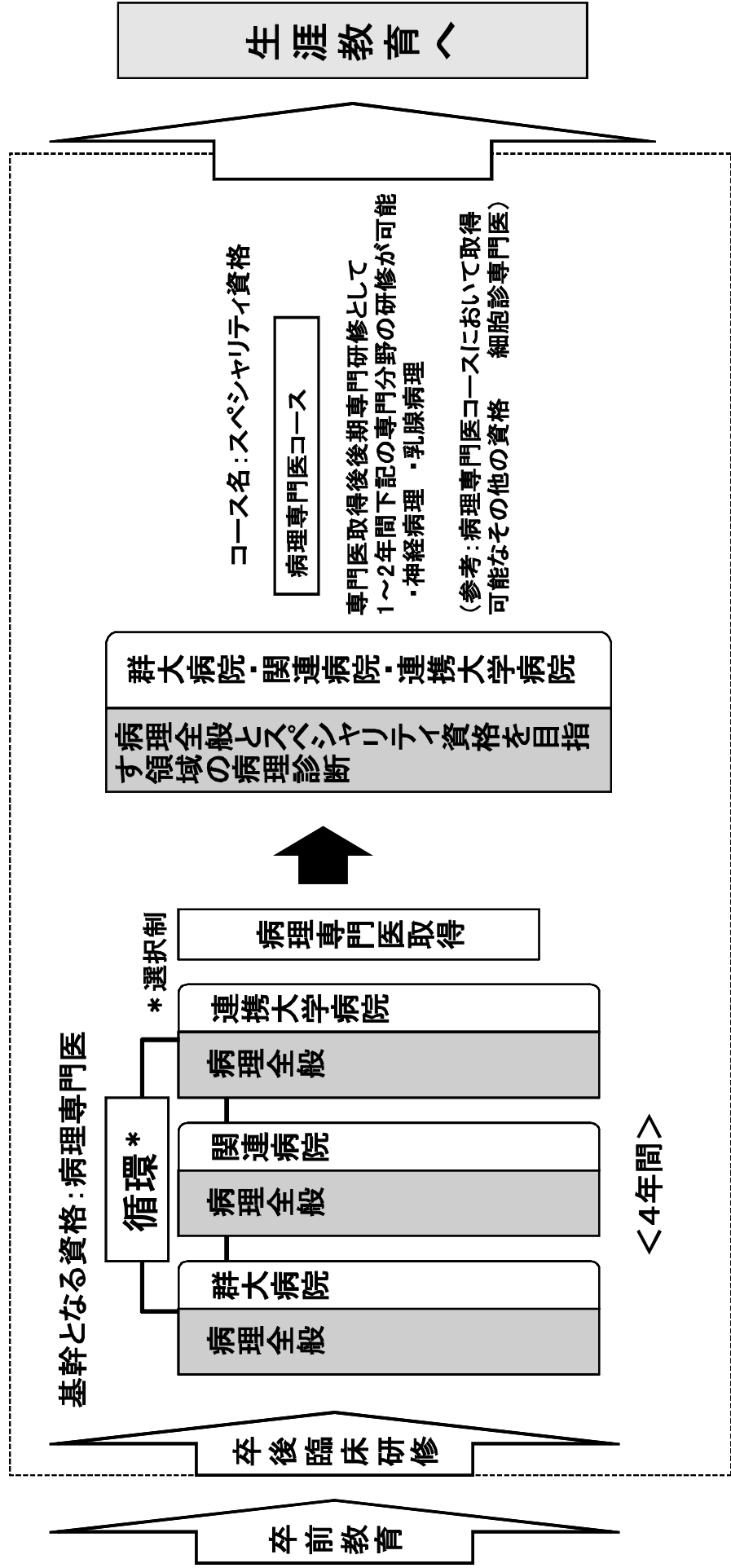
コース担当者名：國元文生

指導医名：日野原宏、大川牧生

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：病理部

61：病理専門医コース 募集(人数2名)



## 病理部

### 6 1 : 病理専門医コース

基幹となる資格名：病理専門医

スペシャリティ資格名：

#### (1) コースの全体像

医学部卒業後、病理医をめざす研修医のために、「病理専門医コース」を設定する。初期臨床研修コースでは、基本的臨床研修科目に加えて、「病理診断学」を病理部で修得することが望ましい。初期臨床研修を修了後、専門医取得のためには4年間病理診断を経験し、専門医資格試験に合格する必要がある。この4年間の病理診断を修業する方法は2つある。(1) 大学院に入学し、病理学講座の大学院学生として研究や学位取得のための論文作成と並行して、病理部等で病理診断を学ぶコース。(2) 後期臨床研修医および医員として病理部に所属し、病理診断を実践しながら学ぶコース。後者の場合、社会人枠の大学院生として、大学院に入学し、研究論文の作成や学位の取得に努めることを推奨する。この間に一定の期間、連携大学院での研修を選択することが可能である。医学部を卒業し医師免許取得後、6年研修し、7年目に日本病理学会病理専門医試験に合格することによって病理専門医資格を得ることができる。この間に死体解剖資格、細胞診専門医資格、博士(医学)の学位の取得も可能である。さらに5年間、病理専門医として経験を積むと、病理専門医研修指導医の資格が日本病理学会から与えられる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	病理部	病理学	9名	病理学を基礎として高い病理診断能力を修得した専門医の養成	2名	4年間
群馬県立がんセンター (*)	病理検査	病理学	1名	施設の特性を生かした病理診断能力の修得	1名	随時
前橋赤十字病院 (*)	病理部	病理学	1名	施設の特性を生かした病理診断能力の修得	1名	随時
伊勢崎市民病院 (*)	病理部	病理学	1名	施設の特性を生かした病理診断能力の修得	1名	随時

(\*) 関連病院での研修は週1回など、随時実施する。

### (3) コースの実績

平成元年の病理部発足とともに、病理部を研修の場として病理専門医の養成を行なってきた。過去12年間では21名の病理医を育成しており、特に最近の5年間では12名の病理医を輩出している。このうち17名は既に病理専門医として各地で活躍している。他に、本コースで病理診断を短期間学び、臨床医として活躍している医師もいる。

### (4) コースの指導状況

病理部および病理学教室所属の病理専門医・指導医9名が指導者となって、病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断および病理解剖診断について指導している。指導に用いる年間症例数は、病理組織診断9,500件、細胞診断7,800件、術中迅速診断700件および病理解剖診断40件である。臨床病理カンファレンスは、剖検示説会年間12回をはじめ、リンパ腫、乳癌、間質性肺炎、脳腫瘍、泌尿器腫瘍、内分泌腫瘍、肝腫瘍などを定期的で開催している。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本病理学会
資格名	日本病理学会認定病理専門医
資格要件	医師免許取得後5年以上の人体病理学実践(臨床研修で1年充当可能)、死体解剖資格の取得、学会会員暦3年以上、人体病理学に関する論文3編以上、資格試験の合格
学会の連携等の概要	

学会等名	日本臨床細胞学会
資格名	細胞診専門医
資格要件	医師資格取得後5年以上、学会会員暦3年以上、細胞診断学の研修5年以上、細胞診断・病理学の論文3編以上、専門医試験の合格
学会の連携等の概要	

学会等名	厚生労働省
資格名	死体解剖資格
資格要件	医師免許取得後2年以上解剖業務に従事、20体以上(主執刀15体以上、副執刀5体以上)の解剖経験
学会の連携等の概要	

コース責任者名：小山徹也

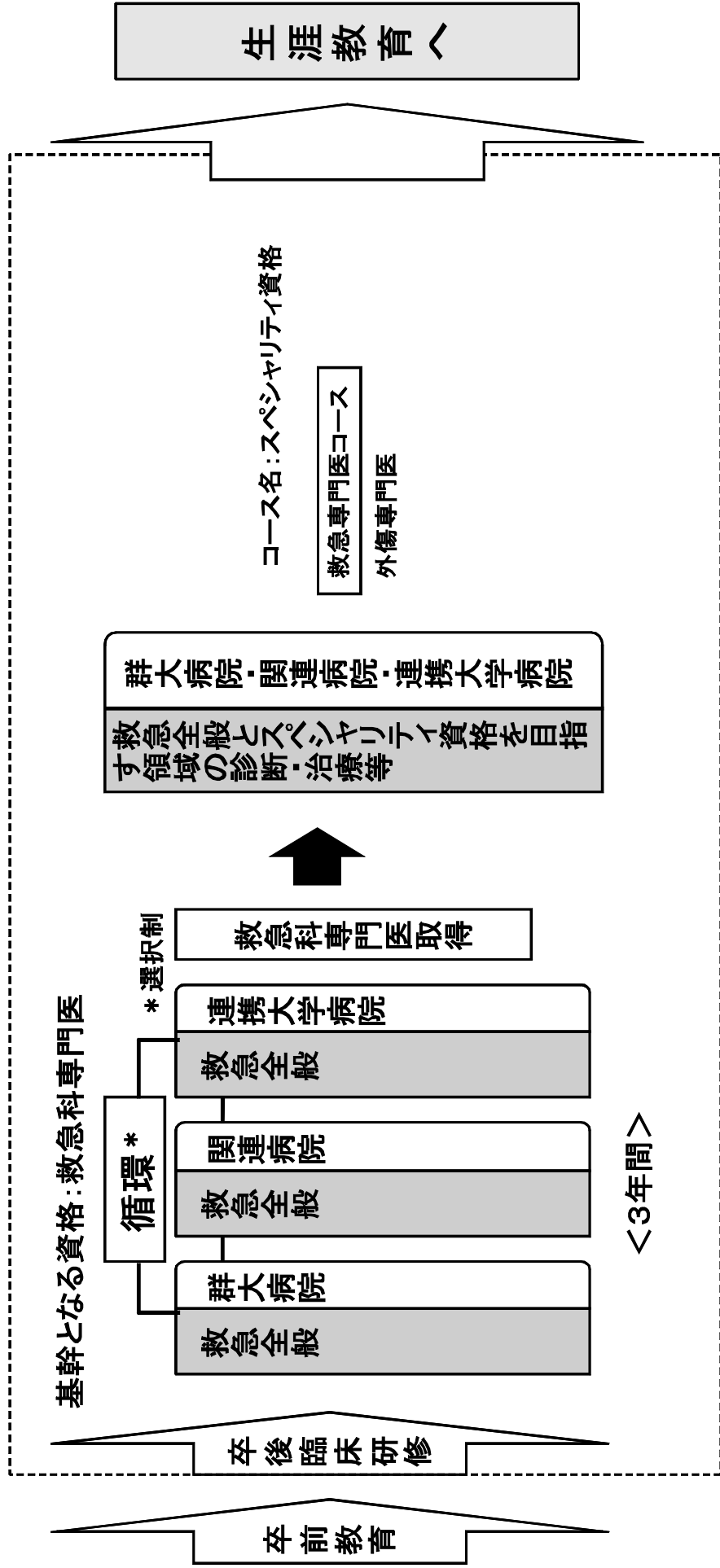
コース担当者名：平戸純子

指導医名：中里洋一、横尾英明、佐野孝昭、伊古田勇人、瀬川篤記、田中優子、  
宮永朋実

# 専門研修による医師キャリア形成システム

診療科(部)名：救命総合医療センター(救急部)

60：救急専門医コース 募集(人数4名)



## 救命総合医療センター

### 60：救急専門医コース

基幹となる資格名：救急科専門医

スペシャリティ資格名：外傷専門医

#### (1) コースの全体像

救急・災害医療に必要な知識、技術および経験を有する医療人の養成を目的とする。また、救急医療では緊急性を有する多くの疾患（広範囲熱傷、急性中毒を含む）や外傷などに対応する必要があるため、院内他診療科や連携する大学の附属病院を含む他施設での研修を加えることにより、救急医療の社会的ニーズに対応可能な救急医の養成を効率的に行う。また、救急関連シミュレーション教育（BLS、ACLS、JATEC等）や災害医療（DMAT、エマルゴトレーニングシステム等）に関する研修に積極的に参加する。

2年間の初期臨床研修後、3年間の救急医療専従により専門医を取得する。以後、本人の希望に即した救急医を目指すため、国内および国外への年単位の留学も可能である。また、希望者は臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部 附属病院	救命総合医療センター	救急医学	2名	救急医の養成	4名	5年間
高崎総合医療センター	救急科	救急医学	2名	救急医の養成	1～2名	1～2
				受入人数	4名	

#### (3) コースの実績

2006年度は2名、2007年度は1名のコース参加者があり、プログラムに従って研修を行っている。

#### (4) コースの指導状況

プログラムに従い指導を行い、救急医学に関する研究指導も行っている。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本救急医学会
資格名	救急専門医
資格要件	救急医療専従歴3年以上
学会の連携等の概要	

学会等名	日本外傷学会
資格名	外傷専門医
資格要件	日本外傷学会の規定による
学会の連携等の概要	

コース責任者名：大嶋清宏

コース担当者名：中村卓郎

指導医名：古川和美、萩原周一

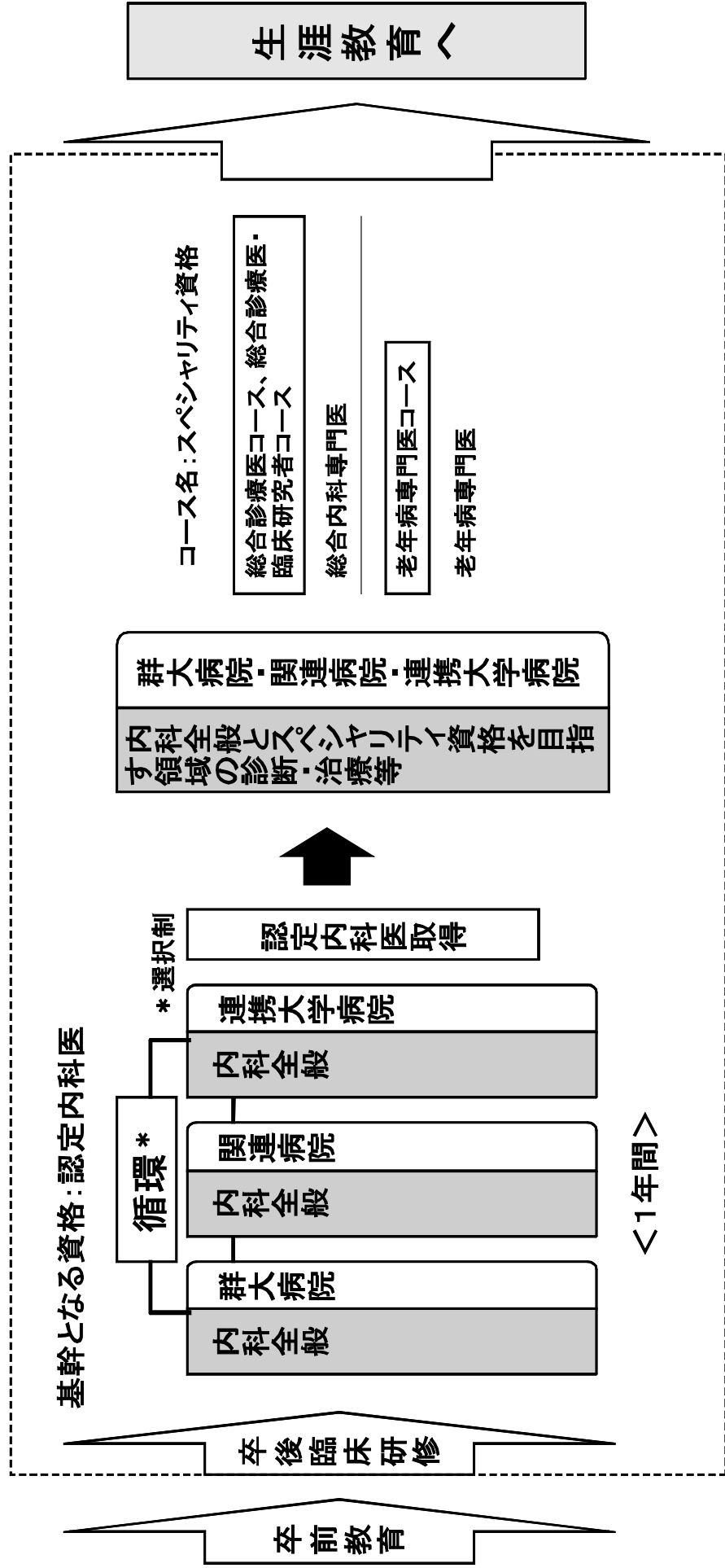


# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：救命総合医療センター(総合診療部)

62：総合診療医コース、総合診療医・臨床研究者コース 募集(人数2名)

63：老年病専門医コース 募集(人数2名)



救命総合医療センター HP : <http://soushin.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.htm>

62 : 総合診療医コース、総合診療医・臨床研究者コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医

### (1) コースの全体像

特定の臓器や疾患に偏らず患者さんのニーズに応じて総合的な診療を行うことができる医師の育成を目指しています。診断においては、一般的な診療技術を用いた診断の精度向上を目指し、治療においてはエビデンスに基づいた治療を基本とし、利用可能な医療設備や紹介可能な専門科の少ない地域の診療所においても、より質の高い医療を患者さんに提供できるような医師の育成を目指しています。診療所（開業医）研修や救急研修（救命総合医療センター）も取り入れています。また希望により僻地の病院や診療所での研修も対応します。さらに、連携している大学の附属病院での研修を選択することができます。総合診療医・臨床研究者コースでは、専門医研修を行いながら大学院へ入学し、臨床研究の計画、実施、評価について学び、医学博士の取得も目指します。多種類の専門科が集団となって始めて多種類の愁訴に対応できる体制とは違う、一人の医師として患者さんの多くの悩みに正確に応えられるような研修を希望の将来像に合わせて提供します。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	救命総合医療センター	総合診療	2名	総合医の育成	1～2名	1～3年
高崎総合医療センター	総合診療科	総合診療 内科	2名	総合医の育成	1～3名	2～3年
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

2009年度に1名、2010年度に1名、2011年度に1名、総合診療医コースで研修を開始しています。

### (4) コースの指導状況

群馬大学では、希望に応じて開業医研修や僻地医療研修、救急医療研修を行います。また、皮膚科研修や整形外科研修を組み入れた診療所の開業を目指した研修を行うことも可能です。

国立病院機構高崎総合医療センターでは、幅広い疾患について病棟を中心に研修を行います。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	日本内科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	日本内科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本病院総合診療医学会
資格名	認定病院総合診療医
資格要件	日本病院総合診療医学会の規定による
学会の連携等の概要	

コース責任者名：田村 遵一

コース担当者名：大山 良雄

救命総合医療センター HP : <http://soushin.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.htm>

### 63 : 老年病専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 老年病専門医

#### (1) コースの全体像

老年病専門医の取得を目指すコースです。内科一般を中心に研修後、高齢者に特有な疾患、病態について研修します。また、連携している大学の附属病院での研修を選択することができます。長期療養型病院では、実際に高齢者の診療にあたり、老年者の医療に関する問題点を整理します。臨床研究の計画、実施、評価について学び、医学博士の取得を目指すことも可能です。

#### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	救命総合医療センター	総合診療	2名	老年病専門医の育成	2～3名	2～3年
高崎総合医療センター	総合診療科	総合診療内科	2名	老年病専門医の育成	2～3名	1～2年
介護療養型病院	内科 老年病科	内科 老年病	2名	老年病専門医の育成	2～3名	1年
				受入人数	2名	

#### (3) コースの実績

老年病専門医取得者 1名

#### (4) コースの指導状況

群馬大学では、希望に応じて開業医研修や僻地医療研修、救急医療研修を行います。また、皮膚科研修や整形外科研修を組み入れた診療所の開業を目指した研修を行うことも可能です。

国立病院機構高崎総合医療センターでは、幅広い疾患について病棟を中心に研修を行います。

#### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	日本内科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本老年医学会
資格名	老年病専門医
資格要件	内科認定医取得後3年間の老年病研修
学会の連携等の概要 日本老年医学会指導医が直接指導いたします。	

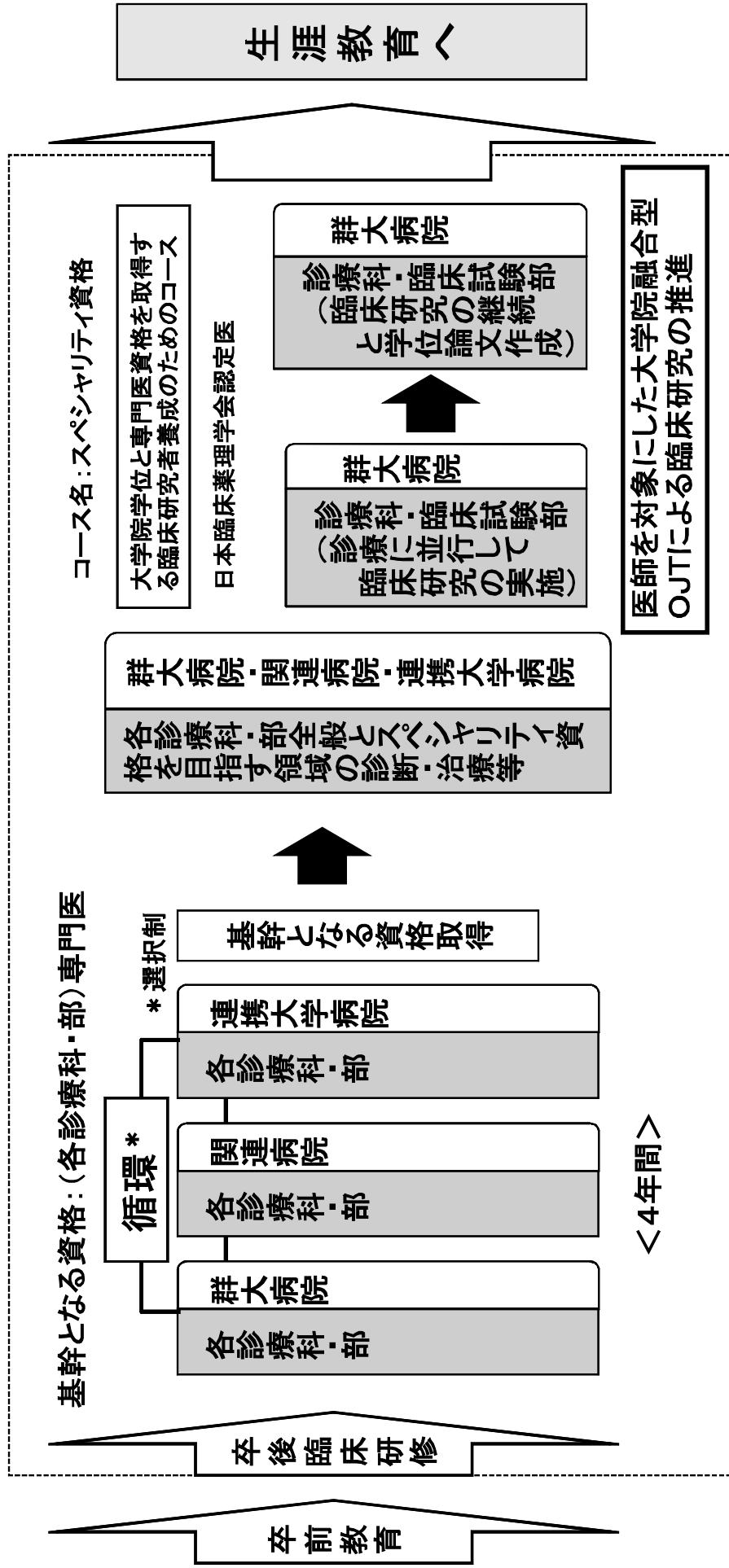
コース責任者名：田村 遵一

コース担当者名：大山 良雄

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：臨床試験部

65：大学院学位と専門医資格を取得する臨床研究者養成のためのコース 募集(人数4名)



臨床試験部 HP : <http://ciru.dept.showa.gunma-u.ac.jp/index.htm>

65 : 大学院学位と専門医資格を取得する臨床研究者養成のためのコース

基幹となる資格名 : (診療科) 専門医

スペシャリティ資格名 : 日本臨床薬理学会専門医

### (1) コースの全体像

優れた臨床研究医を養成することをコースの目的とする。臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。専門の臨床研修を行いながら、並行して臨床現場で臨床研究に参画し、臨床専門医資格と大学院学位の両者を取得する。

診療科での臨床研修を通して臨床的な専門性を身につけ、一方、臨床試験部において、臨床研究を実施する上での知識と技能を習得し、自らまたは臨床グループによる臨床研究を実践する。臨床能力は、連携大学病院での研修を選択することで、さらに向上させることができる。臨床現場を離れることなく、臨床能力を磨きながら、臨床研究の成果から論文を作成し、医療の進歩に貢献する臨床研究医の使命を達成する。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	臨床試験部	臨床試験学、トランスレーショナルリサーチ	3	専門医資格を有する臨床研究医の養成	4	約3年
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

病院内の臨床研究や治験を進める中で、これまで多くの若手医師が本コースの活動に深く関わりを持ち、現在も活躍している。

### (4) コースの指導状況

専門医資格を持つ臨床試験部の専任の准教授1名と助教1名が、診療科や連携大学病院と協力しながら指導にあたる。国内外の学会やセミナーへの参加も積極的に行っている。臨床研究コーディネーターやデータマネージャー、生物統計家と協同して臨床研究を進めることを on the job training の基本に置いている。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	各学会
資格名	(診療科) 専門医
資格要件	
学会の連携等の概要	

学会等名	有限責任中間法人日本臨床薬理学会
資格名	日本臨床薬理学会認定医
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本国の医師免許を有し，医師としての優れた人格および識見をそなえていること</li> <li>2) 医師歴5年以上，申請時において引きつづいて3年以上本学会会員であること</li> <li>3) 第3章の規定により認定された研修施設において，通算3年以上の臨床薬理学に関する研修を行っていること</li> <li>4) 学会及び学会の主催する講習会に規定の回数以上参加していること</li> <li>5) 臨床薬理学に関する学会発表3回以上（そのうち発表者1回以上を含むこと）</li> <li>6) 臨床薬理学に関する学術論文3編以上</li> <li>7) 臨床薬理学に関する研修を受けた指導医による推薦状1通を提出できること</li> </ol>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>日本臨床薬理学会認定医は、臨床薬理学の専門家としての広い知識と練磨された技能をそなえた優れた医師を社会におくり、社会一般の人々がより有効でかつ安全な薬物治療の恩恵を受けられるために貢献するために制定されている。</p>	

コース責任者名：岡本幸市

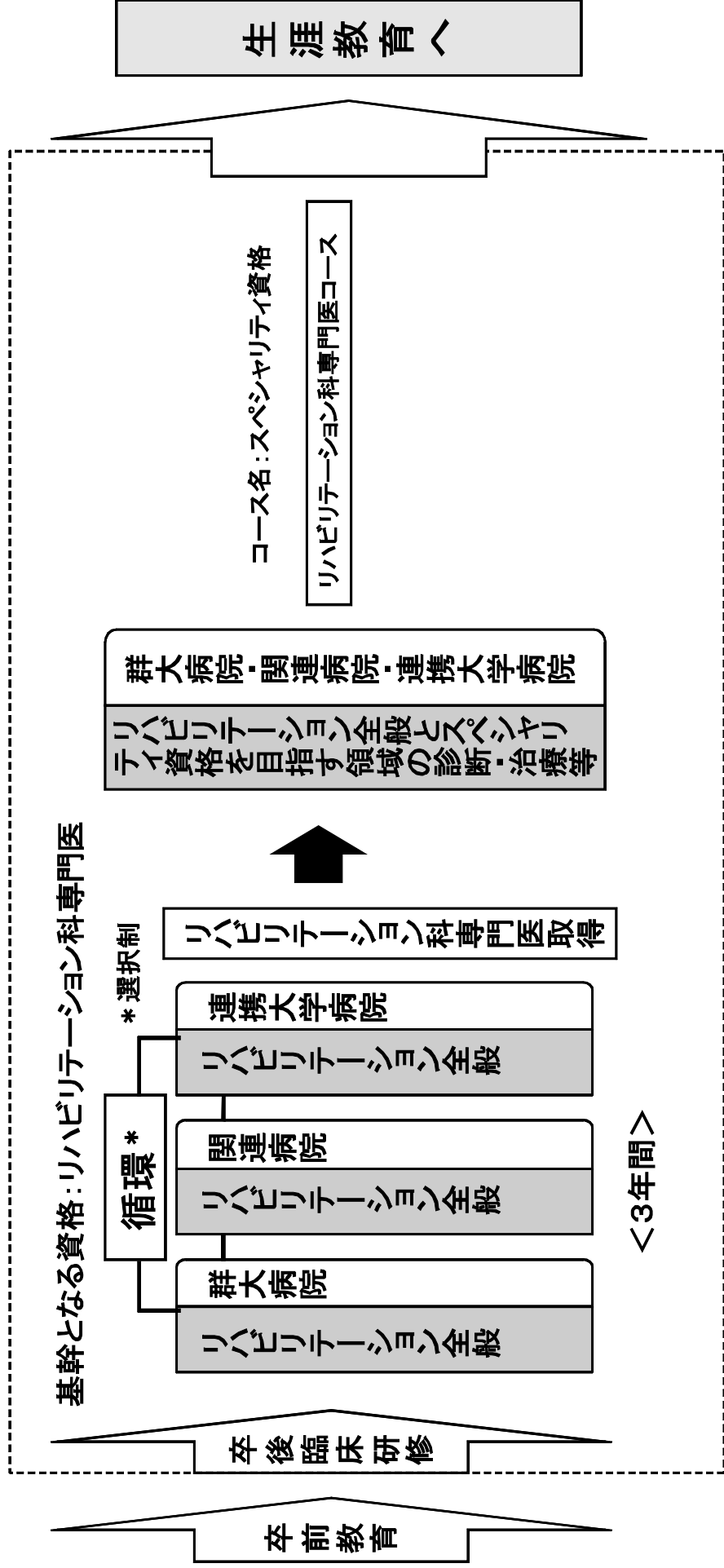
コース担当者名：中村哲也



# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：リハビリテーション部

66：リハビリテーション科専門医コース 募集(人数3名)



リハビリテーション部

HP : [http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin\\_info/02/02.html](http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/tyusin_info/02/02.html)

66 : リハビリテーション科専門医コース

基幹となる資格名 : リハビリテーション科専門医

スペシャリティ資格名 :

(1) コースの全体像

脳血管疾患等リハ、運動器リハ、呼吸器疾患リハ、心疾患リハを必須として後期レジデント3年間の研修を行う。3年間は日本リハ医学会認定研修施設での研修を行う。適宜小児科、精神科、整形外科、脳外科、神経内科、循環器科等の臨床研修を織り交ぜて、サブスペシャリティとすることが可能である。卒後5年、学会在籍5年、研修施設での研修3年で専門医試験受験資格が取得できる。専門医試験で必要なすべての疾患の研修は大学での研修が最低1～2年は必要である。

研修期間中に、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することも可能である。

連携大学病院での研修も選択することができる。

(2) コースの概要

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導 者数	目 的	養成(受 入)人数	期 間
群馬大学医学部 附属病院	リハビリテー ション部	脳血管リハ、呼 吸器リハ、運動 器リハ、心疾患 リハ	5名	リハ全般の研修 (急性期)	3名	1～3年 間
日高病院	リハビリテー ション科	運動器リハ 脳血管リハ	1名	運動器リハ、脳 血管リハの研修 (回復期)	1名	1～3年 間
沢渡温泉病院	リハビリテー ション科	脳血管リハ、 運動器リハ	3名	脳血管リハ、運 動器リハの研修 (回復期)	1名	1～3年 間
日高リハビリテー ション病院	リハビリテー ション科	脳血管リハ、 運動器リハ	1名	脳血管リハ、運 動器リハの研修 (回復期)	1名	1～3年 間
初台リハビリテー ション病院	リハビリテー ション科	脳血管リハ、 運動器リハ	3名	脳血管リハ、運 動器リハの研修 (回復期)	1名	1～3年 間
群馬県立心臓血 管センター	心臓リハビ リテーショ ン科	心疾患リハ	1名	心疾患リハの研 修(急性期)	1名	1～3年 間
				受入人数	3名	

### (3) コースの実績

大学病院では平成 22 年度のリハビリテーション部の新患は脳血管疾患 239 人、運動器疾患 575 人、神経筋疾患 114 人、呼吸・循環器疾患 177 人、その他 265 人を対応した。大学では主に急性期のリハを研修し、他病院にて大学では研修できない回復期～在宅のリハを研修する。

### (4) コースの指導医状況

大学病院では常勤専門医が 5 名、他病院でも各分野の専門医が指導する。学会発表、論文作成を行い専門医獲得を目指す。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本リハビリテーション医学会
資格名	リハビリテーション科専門医
資格要件	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医師免許取得後5年以上及び日本リハビリテーション医学会加入後3年以上経過していること。</li><li>・ 学会認定の研修施設において、学会が定めた専門医制度卒後研修カリキュラムに基づいた3年以上の研修を行っていること。</li><li>・ 日本リハビリテーション医学会における2回以上の主演者としての発表があること。</li><li>・ リハビリテーション医学に関する筆頭著者論文が 1 編以上あること。</li><li>・ 自らリハビリテーション医療を担当した30症例の症例報告を提出すること。</li></ul>
学会の連携等の概要 群馬大医学部附属病院は日本リハ医学会研修指定病院である。県内にはそのほかに5つの研修指定病院があり研修を行うことが可能である。	

コース責任者名：白倉賢二

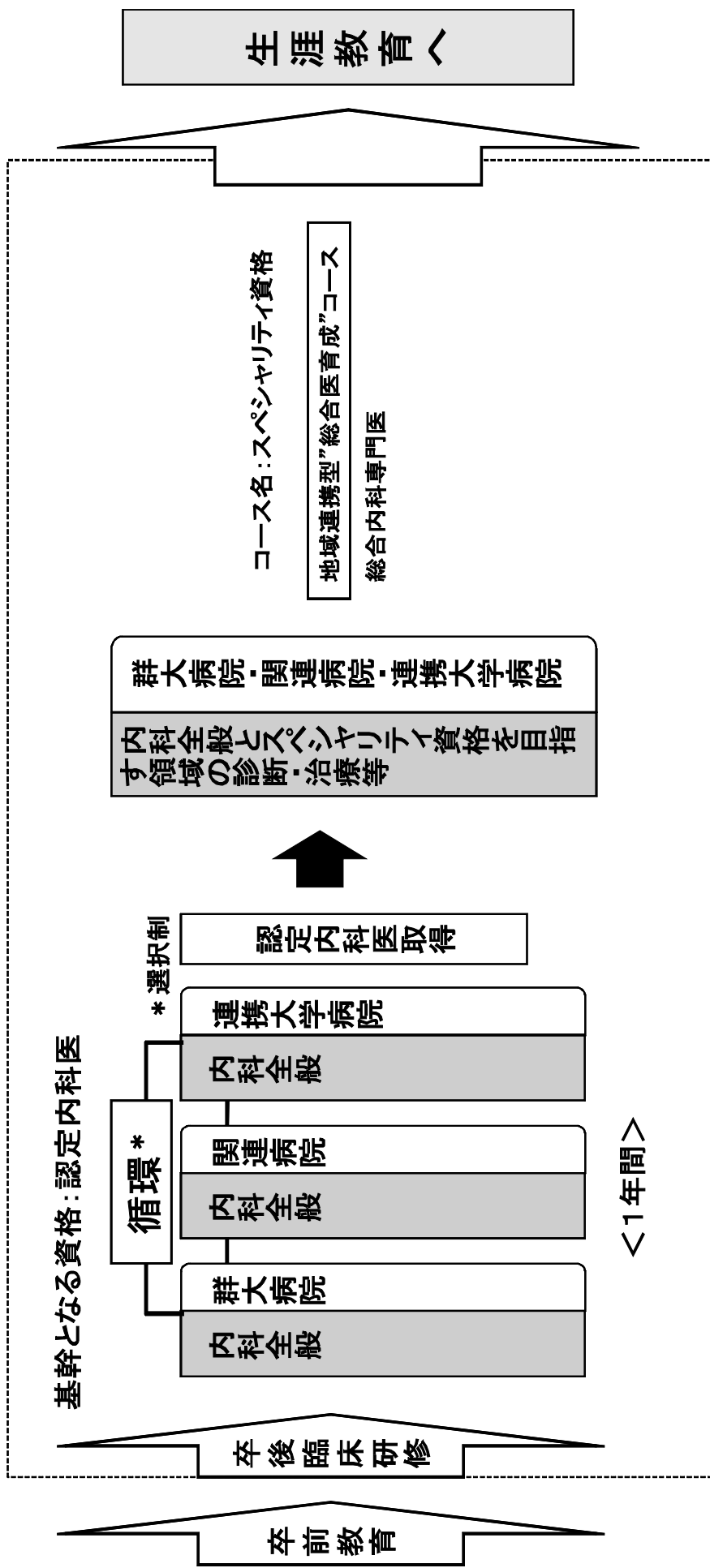
コース担当者名：和田直樹

指導医名：宗宮真、入内島崇紀、田澤昌之

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：臨床研修センター

70：地域連携型”総合医育成”コース 募集(人数4名)



臨床研修センター HP : <http://c-center.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

70 : 地域連携型 “総合医育成” コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : 総合内科専門医

### (1) コースの全体像

臨床研修センターが受け入れ窓口になる地域連携型 “総合医育成プログラム” です。群馬県の地域医療を担う、総合医の育成を目指すプログラムです。原則、群馬県内の病院、診療所で研修を行い、基本的には、総合内科専門医を目指しますが、小児科、外傷、産科（出産）などの研修も可能です。

<特徴>

- 1) 群馬県の地域医療を担う総合医を育成する。
- 2) 県外研修（短期）も可能である。
- 3) 研修中は、大学の特定の医会には属さず、群馬大学医学部附属病院臨床研修センターがサポートする。
- 4) 原則、勤務している病院、診療所に雇用され、給料が支給される。
- 5) 研修修了後は、県内の病院、診療所に、内科医として勤務する。
- 6) 研修修了後の生涯研修は、群馬大学医学部附属病院臨床研修センターが支援する。
- 7) 日本内科学会総合内科専門医、並びに、日本病院総合診療医学会の認定病院総合診療医の取得を目指す。
- 8) 臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、大学院への進学等を選択することができる。
- 9) 連携大学病院での研修を選択することができる。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
内科学会教育病院、教育関連病院	内科	臓器別診療科		総合医の育成	4名	3年
地域の病院、診療所	総合診療科	総合診療		総合医の育成	4名	2年
				受入人数	4名	

### (3) コースの実績

平成22年度より運用を開始する新しいコースです。

### (4) コースの指導状況

例えば、5年研修の場合、2年間は日本内科学会教育病院で、1年間は日本内科学会教

育関連病院で内科研修を行い、2年間は地域で総合研修を行う。日本内科学会教育病院、日本内科学会教育関連病院では、主に内科研修を行う。総合内科研修が可能な地域の病院（注1）では、主に総合研修を行う。へき地診療所あるいは地域の診療所（注2）では、主に総合研修を行う。希望があれば、短期の県外研修や小児科、産科婦人科研修を行う。

（注1）総合内科研修が可能な地域の病院とは、臓器別診療科による臓器別研修ではなく、総合内科研修が可能な地域の病院。

（注2）へき地診療所あるいは地域の診療所とは、専門医療を提供する診療所ではなく、地域の家庭医として活動している診療所。

#### （5）専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	日本内科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	日本内科学会の規定による
学会の連携等の概要	

学会等名	日本病院総合診療医学会
資格名	認定病院総合診療医
資格要件	日本病院総合診療医学会の規定による
学会の連携等の概要	

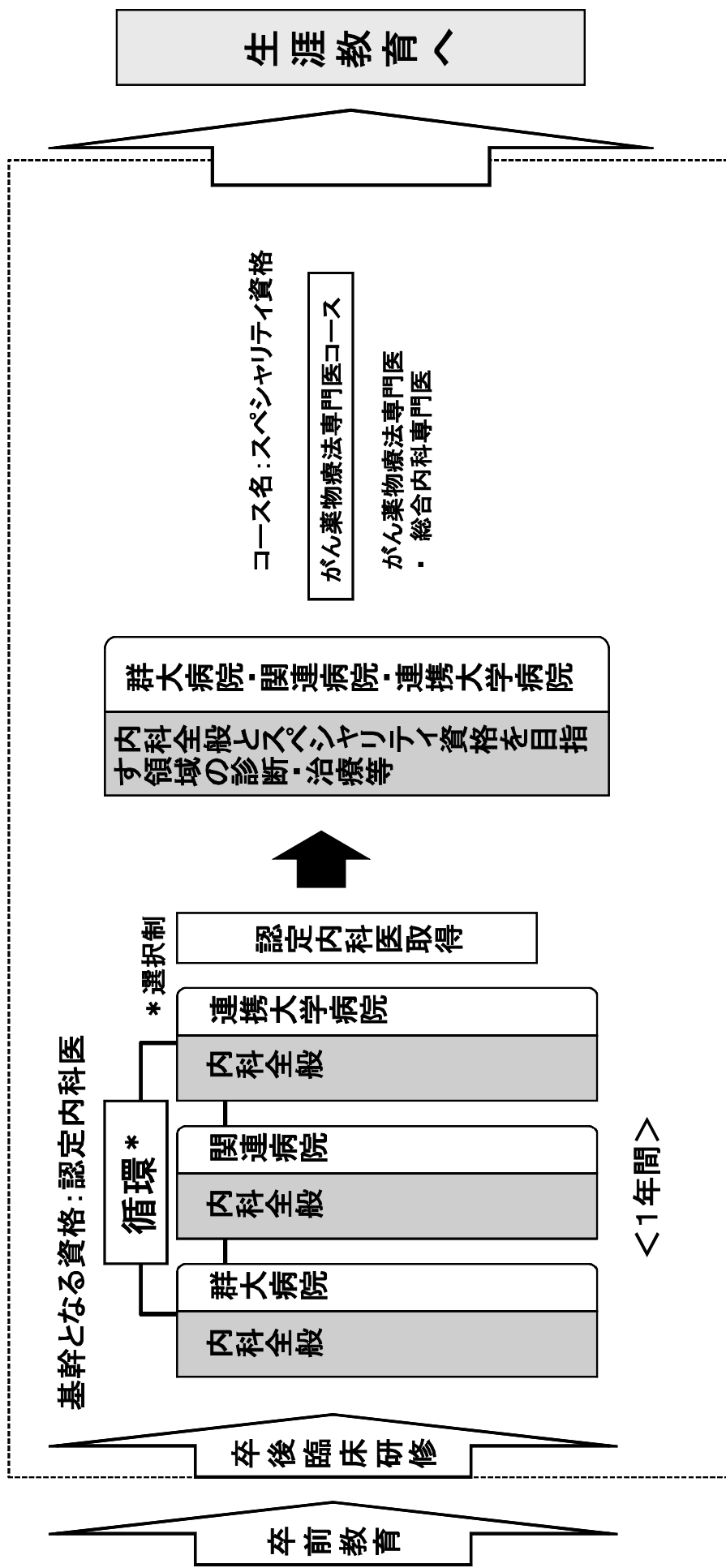
コース責任者名：田村 遵一

コース担当者名：大山 良雄

# 専門研修による医師キャリア形成システム

## 診療科(部)名：腫瘍センター

71：がん薬物療法専門医コース 募集(人数3名)



腫瘍センター HP : <http://oncoc.dept.showa.gunma-u.ac.jp/~oncoc/>

71 : がん薬物療法専門医コース

基幹となる資格名 : 認定内科医

スペシャリティ資格名 : がん薬物療法専門医、総合内科専門医

### (1) コースの全体像

本コースでは、日本臨床腫瘍学会の「がん薬物療法専門医」を取得することを目的とします。まず、1年目は内科医としての総合力を身につけることにまず重点を置きます。化学療法が治療の主体である白血病、悪性リンパ腫などある血液疾患を中心とした臨床を行い、2年目に認定内科医を取得します。その後、大学病院あるいは県内の臨床腫瘍学会研修施設を循環し、肺がん、乳がん、消化器がん、造血器腫瘍の症例を経験していきます。合わせて緩和ケアについても学習し、がん患者を総合的に診療できる臨床腫瘍医をめざします。また、研修期間中に県外の病院での研修、社会人大学院への入学と学位取得も可能です。

### (2) コースの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
群馬大学医学部附属病院	腫瘍センター	臨床腫瘍学	4名	内科全般、臨床腫瘍学、緩和ケア	3名	5年間
西群馬病院	内科	内科	2名	内科全般、臨床腫瘍学、血液病学、緩和ケア		
群馬県立がんセンター	内科	内科	2名	臨床腫瘍学、血液病学		
				受入人数	3名	

### (3) コースの実績

平成24年度から設けるコースです。

### (4) コースの指導状況

がん薬物療法専門医、血液専門医、緩和ケアチームがおり、化学療法、それに伴う有害事象対策、緩和ケアについて指導を受けることができる。

### (5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	次記の1, 2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること 1. 臨床研修2年+本会が認定した教育病院での内科研修1年以上



	= 計3年以上 2. 臨床研修2年 + 本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上
学会の連携等の概要 西群馬病院、群馬県立がんセンターは教育関連病院である。群馬大学医学部附属病院での研修も教育病院の実績となる。	

学会等名	日本臨床腫瘍学会
資格名	がん薬物療法専門医
資格要件	1) 申請時において5年以上がん治療に関する研究活動を行っていること、およびがん治療に関する十分な業績があること。 2) 研修認定施設において本学会所定の研修カリキュラムに従い、2年以上臨床研究を行い、これを修了した者。 3) 各科の基本となる学会の認定医あるいは専門医の資格を有していること。 4) 専門医受験に際しては計30症例のサマリーを提出する。その際、肺、乳腺、消化器、造血器については、それぞれ少なくとも3症例ずつ記載することが必要。
学会の連携等の概要 群馬大学医学部附属病院、西群馬病院、群馬県立がんセンターは日本臨床腫瘍学会の認定研修施設である。	

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して3年以上の会員歴を有し、次のいずれかに該当する者 a. 本会が認定した教育病院での内科研修1年以上 + 本会が認定した教育関連病院での内科研修2年以上 = 計3年以上 b. 本会が認定した教育関連病院での内科研修5年以上
学会の連携等の概要	

コース責任者名：塚本憲史

コース担当者名：斎藤貴之

指導医名：小磯博美、関本研一